

芦屋市総合計画策定に向けた市民意識調査 報告書（案）

令和7年1月

《 目 次 》

I. 調査の目的と概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
(1) 実施時期	1
(2) 対象者	1
(3) 配布・回収	1
(4) 性別・年代別回答状況	2
(5) 地区別回答状況	3
(6) 回答方法別	3
(7) 標本誤差について	5
(8) 分析についての注意点	6
II. アンケート調査結果	7
1. 回答者属性	7
(1) 問1 年齢	7
(2) 問2 性別	9
(3) 問3 居住地区	11
(4) 問4 居住年数	13
(5) 問5 世帯構成	16
2. お住まいの地域での生活や住みやすさについて	17
(1) 問6 定住意向	17
(2) 問7 現在芦屋市に住み続けている理由（3つまで選択）	20
(3) 問8 地域の活動や行事への参加状況	21
(4) 問9 「すでに参加している」地域の活動・「今後参加したい」地域の活動（複数選択）	24
(5) 問10 地域の活動に参加している理由（3つまで選択）	29
(6) 問11 地域の活動に参加していない理由（3つまで選択）	31
(7) 問12 居住する地域にとられない趣味の活動への参加状況	33
(8) 問13 日常的に近所の子どもと接する機会	35
(9) 問14 家族や親族以外で相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所	38
(10) 問15 地域の人との関わりの程度	41
(11) 問16 地域の人との関わりは必要だと思うか	43
(12) 問17 地域の人との関わりが必要だと思う理由（3つまで選択）	45
(13) 問18 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（3つまで選択）	47
(14) 問19 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか	49
(15) 問20 地域のまちなみやまちなかの緑の景観	49
(16) 問21 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度	52
(17) 問22 市内の公園の利用頻度	55

(18) 問 23	自然災害に対する日頃からの備え（複数選択）	58
(19) 問 24	地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（複数選択）	61
(20) 問 25	交通手段に関わらない市内の移動の利便性	63
(21) 問 26	生活用品の購入場所	66
(22) 問 27	家事や育児など夫婦間での分担についての考え	85
(23) 問 28	市役所への届け出や書類申請などの手続き	106
3.	芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて	109
(1) 問 29	第5次芦屋市総合計画の各施策の達成状況についての満足度	109
(2) 問 30	芦屋市の現状の評価	150
(3) 問 31	魅力創出のため今後力を入れるべき施策目標（3つまで選択）	153
(4) 問 31	今後力を入れるべき施策目標を選んだ理由	155
(5) 問 29×問 31	評点と重要度による散布図の提示	162
(6) 問 32	美しく清潔で快適なまちだと思えるか	164
4.	健康づくりについて	167
(1) 問 33	運動習慣の有無	167
(2) 問 34	健康診査・健康診断の受診頻度	170
(3) 問 35	BMI 値	171
5.	あなたの暮らしについて	172
(1) 問 36	自身の幸福度	172
(2) 問 37	暮らしの満足度	175
(3) 問 38	町内の幸福度	178
(4) 問 39	周りも楽しい	181
6.	文化的なふれあいや学び、市民参画について	184
(1) 問 40	「文化」という言葉に対してイメージするもの	184
(2) 問 40	この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ	185
(3) 問 40	この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）	187
(4) 問 41	「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由（複数選択）	197
(5) 問 42	芦屋市の文化的資源の認知度	198
(6) 問 43	学びのための学習会・セミナーへの参加頻度	227
(7) 問 44	映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度	230
(8) 問 45	自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思えるか	233
(9) 問 46	身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいと思うこと（複数選択）	234
(10) 問 47	身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいと思うこと（複数選択）	235
(11) 問 48	文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること（複数選択）	238
(12) 問 49	市民参画・協働を必要だと思えるか	239

(13) 問 50	市民参画・協働が必要だと思ふ理由（3つまで選択）	241
(14) 問 51	市民参画・協働が不要だと思ふ理由（3つまで選択）	243
(15) 問 52	市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（複数選択）	245
7.	市政情報について	246
(1) 問 53	市政情報の認知度	246
(2) 問 54	地域や文化などに関する情報の入手方法	247
(3) 問 55	「広報あしや」の満足度	250
(4) 問 56	「広報あしや」に不満な理由（複数選択）	253
(5) 問 57	「市のホームページ」の満足度	255
(6) 問 58	「市のホームページ」に不満な理由（複数選択）	258
8.	教育や学習に関する取組について	260
(1) 問 59	芦屋市の子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思ふか（3つまで選択）	260
(2) 問 60	子どもたちや教育について課題と感じていること（3つまで選択）	261
(3) 問 61	就学前教育の充実のために必要な取組（3つまで選択）	262
(4) 問 62	小・中学校に対して望むこと（3つまで選択）	264
(5) 問 63	いじめや不登校などを防ぐために必要だと思ふこと（3つまで選択）	266
(6) 問 64	今後力を入れて行ふ必要があると思ふ教育施策や教育事業	268
9.	総合計画・各種計画について	281
(1) 問 65	総合計画の認知度	281
(2) 問 66	まちづくり全般について、ご意見など	283

I. 調査の目的と概要

1. 調査の目的

令和 8 年度（2026 年度）から 5 年間のまちづくりの指針となる総合計画の後期基本計画の策定に向け、施策の進捗状況の評価や指標値を把握するほか、教育・文化・市民参画協働に関わる施策の進捗状況を把握するため、「市民意識調査」を実施した。

2. 調査設計

(1) 実施時期

令和 6 年（2024 年）10 月 17 日（木）～令和 6 年（2024 年）11 月 1 日（水）

(2) 対象者

市内にお住まいの 18 歳以上の方から無作為に選んだ 3,000 人の方を対象。

（令和 6 年（2024 年）9 月 1 日現在の住民基本台帳登録者）

(3) 配布・回収

	件数	備考
①対象者数	3,000	
②有効配布数	2,993	未配達 7 件
③有効回答数	1,439	用紙回収：1,046 件、WEB 回収：393 件
④有効回収率	48.1%	③有効回答数÷②有効配布数

[過去の市民意識調査との回答状況の比較]

	配布数（未配達数）	有効回収数	有効回収率（%）
平成 16 年度（2004 年度）調査	2,000（15 件）	1,203	60.6
平成 20 年度（2008 年度）調査	3,000（15 件）	1,811	60.7
平成 24 年度（2012 年度）調査	2,000（11 件）	1,015	51.0
平成 26 年度（2014 年度）調査	3,000（11 件）	1,426	47.7
平成 29 年度（2017 年度）調査	3,000（3 件）	1,611	53.7
令和元年度（2019 年度）調査①	3,000（11 件）	1,377	46.1
令和元年度（2019 年度）調査②	3,000（5 件）	1,430	47.7
令和 5 年度（2023 年度）調査	3,000（3 件）	1,598	53.3

(4) 性別・年代別回答状況

従来のアンケートでは、若年層の回答率が低く、高齢層の回答率が高い傾向がみられるため、過去の年代階層別の回答率を考慮して、前回調査に引き続き、年代別の抽出数を設定した。結果として性別・年代別の構成比においては、概ね実際の人口構成に近似した回答が得られている。

性別	年代	母集団		配布数		回答者		性別	年代	母集団		配布数		回答者	
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比			実数	構成比	実数	構成比		
男性	10歳代	961	2.7	83	5.5	23	3.9	答えたくない	10歳代	-	-	-	-	1	9.1
	20歳代	3,476	9.8	236	15.7	51	8.7		20歳代	-	-	-	-	2	18.2
	30歳代	3,383	9.5	188	12.5	63	10.8		30歳代	-	-	-	-	1	9.1
	40歳代	5,538	15.6	267	17.8	81	13.8		40歳代	-	-	-	-	2	18.2
	50歳代	7,362	20.8	295	19.6	117	20.0		50歳代	-	-	-	-	2	18.2
	60歳代	5,610	15.8	174	11.6	89	15.2		60歳代	-	-	-	-	1	9.1
	70歳代	5,436	15.3	160	10.7	101	17.3		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	3,702	10.4	99	6.6	58	9.9		80歳以上	-	-	-	-	1	9.1
	無回答	-	-	-	-	2	0.3		無回答	-	-	-	-	1	9.1
	計	35,468	100.0	1,502	100.0	585	100.0		計	-	-	-	-	11	100.0
女性	10歳代	896	2.0	60	4.0	21	2.5	無回答	10歳代	-	-	-	-	0	0.0
	20歳代	3,795	8.4	201	13.4	66	7.9		20歳代	-	-	-	-	0	0.0
	30歳代	4,177	9.3	185	12.3	76	9.0		30歳代	-	-	-	-	0	0.0
	40歳代	6,870	15.2	198	13.2	122	14.5		40歳代	-	-	-	-	0	0.0
	50歳代	8,791	19.5	271	18.1	163	19.4		50歳代	-	-	-	-	0	0.0
	60歳代	6,685	14.8	188	12.6	126	15.0		60歳代	-	-	-	-	0	0.0
	70歳代	7,112	15.8	183	12.2	125	14.9		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	6,748	15.0	212	14.2	138	16.4		80歳以上	-	-	-	-	0	0.0
	無回答	-	-	-	-	3	0.4		無回答	-	-	-	-	3	100.0
	計	45,074	100.0	1,498	100.0	840	100.0		計	-	-	-	-	3	100.0
上記にあてはまらない	10歳代	-	-	-	-	0	0.0	計	10歳代	1,857	2.3	143	4.8	45	3.1
	20歳代	-	-	-	-	0	0.0		20歳代	7,271	9.0	437	14.6	119	8.3
	30歳代	-	-	-	-	0	0.0		30歳代	7,560	9.4	373	12.4	140	9.7
	40歳代	-	-	-	-	0	0.0		40歳代	12,408	15.4	465	15.5	205	14.2
	50歳代	-	-	-	-	0	0.0		50歳代	16,153	20.1	566	18.9	282	19.6
	60歳代	-	-	-	-	0	0.0		60歳代	12,295	15.3	362	12.1	216	15.0
	70歳代	-	-	-	-	0	0.0		70歳代	12,548	15.6	343	11.4	226	15.7
	80歳以上	-	-	-	-	0	0.0		80歳以上	10,450	13.0	311	10.4	197	13.7
	無回答	-	-	-	-	0	0.0		無回答	-	-	-	-	9	0.6
	計	-	-	-	-	0	0.0		計	80,542	100.0	3,000	100.0	1,439	100.0

(※)「10歳代」は、実際の人口から10～17歳を除いた数値。令和6年9月30日現在

(5) 地区別回答状況

地区別の構成比について母集団と回答者の比率を比較すると、概ね実際の人口に近似した回答が得られている。

地区	母集団		回答者	
	実数	比率	実数	比率
奥池地区	1,138	1.4	20	1.4
山手小学校区(奥池地区除く)	15,854	19.7	245	17.0
岩園小学校区	11,090	13.8	196	13.6
朝日ヶ丘小学校区	7,725	9.6	107	7.4
精道小学校区	11,186	13.9	226	15.7
宮川小学校区	9,746	12.1	184	12.8
打出浜小学校区	8,127	10.1	169	11.7
浜風小学校区	6,140	7.6	129	9.0
潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	4,567	5.7	92	6.4
南芦屋浜地区	4,969	6.2	67	4.7
無回答	-	-	4	0.3
合計	80,542	100.0	1,439	100.0

(※)「母集団」は、各地区の実際の人口から0～17歳を除いた数値。令和6年9月30日現在

(6) 回答方法別

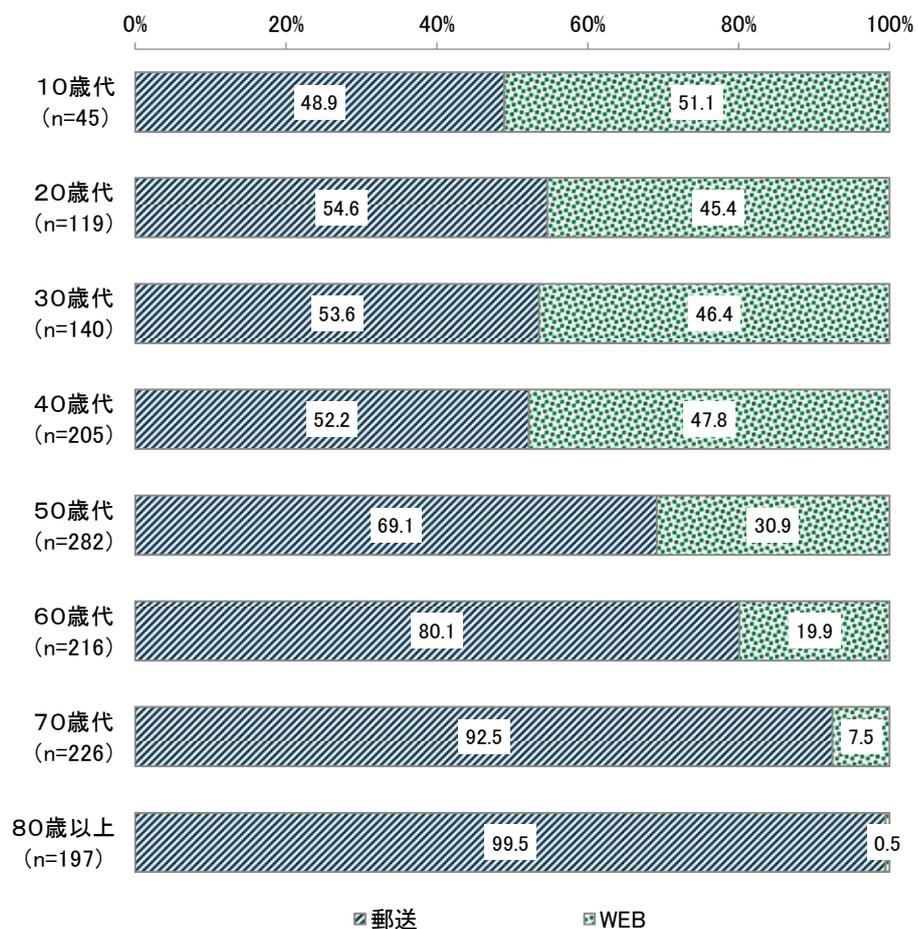
回答方法別の回答率を比較すると、市全体では郵送が約70%、WEBが、約30%となっている。

	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
市全体	1,046	72.7	393	27.3	1,439	100.0

性別	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
男性	395	67.5	190	32.5	585	100.0
女性	641	76.3	199	23.7	840	100.0
上記に当てはまらない	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	63.6	4	36.4	11	100.0
無回答	3	100.0	0	0.0	3	100.0

年代	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
10歳代	22	48.9	23	51.1	45	100.0
20歳代	65	54.6	54	45.4	119	100.0
30歳代	75	53.6	65	46.4	140	100.0
40歳代	107	52.2	98	47.8	205	100.0
50歳代	195	69.1	87	30.9	282	100.0
60歳代	173	80.1	43	19.9	216	100.0
70歳代	209	92.5	17	7.5	226	100.0
80歳以上	196	99.5	1	0.5	197	100.0
無回答	4	44.4	5	55.6	9	100.0

地区	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
奥池地区	17	85.0	3	15.0	20	100.0
山手小学校区(奥池地区除く)	185	75.5	60	24.5	245	100.0
岩園小学校区	121	61.7	75	38.3	196	100.0
朝日ヶ丘小学校区	78	72.9	29	27.1	107	100.0
精道小学校区	164	72.6	62	27.4	226	100.0
宮川小学校区	127	69.0	57	31.0	184	100.0
打出浜小学校区	131	77.5	38	22.5	169	100.0
浜風小学校区	96	74.4	33	25.6	129	100.0
潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	75	81.5	17	18.5	92	100.0
南芦屋浜地区	48	71.6	19	28.4	67	100.0
無回答	4	100.0	0	0.0	4	100.0



(7) 標本誤差について

- 一般的に標本調査においては、信頼度 95%（※）のレベルでの結果を評価することが妥当とされており、信頼度 95%における標本誤差は次の式で算出される。今回調査の標本誤差については下表の通りとなっている。
- 例えば回答者全体（1,439 人）が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±2.6%（47.4%～52.6%）の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N：母集団数（令和 6 年 9 月末時点の 18 歳以上の男女 80,542 人）

n：標本数

P：測定値（回答の比率）

（※）信頼度 95%：同一の調査を 100 回実施した場合、うち 95 回はこの誤差の範囲におさまるとのこと

	母集団	n	P	5% または 95%	10% または 90%	15% または 85%	20% または 80%	25% または 75%	30% または 70%	35% または 65%	40% または 60%	45% または 55%	50%
回答者総数	80,542	1,439		±1.1%	±1.5%	±1.8%	±2.0%	±2.2%	±2.3%	±2.4%	±2.5%	±2.5%	±2.6%
性別	男性	35,468	585	±1.8%	±2.4%	±2.9%	±3.2%	±3.5%	±3.7%	±3.8%	±3.9%	±4.0%	±4.0%
	女性	45,074	840	±1.5%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.1%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
年代別	10歳代	1,857	45	±6.3%	±8.7%	±10.3%	±11.5%	±12.5%	±13.2%	±13.8%	±14.1%	±14.4%	±14.4%
	20歳代	7,271	119	±3.9%	±5.3%	±6.4%	±7.1%	±7.7%	±8.2%	±8.5%	±8.7%	±8.9%	±8.9%
	30歳代	7,560	140	±3.6%	±4.9%	±5.9%	±6.6%	±7.1%	±7.5%	±7.8%	±8.0%	±8.2%	±8.2%
	40歳代	12,408	205	±3.0%	±4.1%	±4.8%	±5.4%	±5.9%	±6.2%	±6.5%	±6.7%	±6.8%	±6.8%
	50歳代	16,153	282	±2.5%	±3.5%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.3%	±5.5%	±5.7%	±5.8%	±5.8%
	60歳代	12,295	216	±2.9%	±4.0%	±4.7%	±5.3%	±5.7%	±6.1%	±6.3%	±6.5%	±6.6%	±6.6%
	70歳代	12,548	226	±2.8%	±3.9%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.9%	±6.2%	±6.3%	±6.4%	±6.5%
	80歳以上	10,450	197	±3.0%	±4.1%	±4.9%	±5.5%	±6.0%	±6.3%	±6.6%	±6.8%	±6.9%	±6.9%
地区別	奥池地区	1,138	20	±9.5%	±13.0%	±15.5%	±17.4%	±18.8%	±19.9%	±20.7%	±21.3%	±21.6%	±21.7%
	山手小学校区(奥池地区除く)	15,854	245	±2.7%	±3.7%	±4.4%	±5.0%	±5.4%	±5.7%	±5.9%	±6.1%	±6.2%	±6.2%
	岩園小学校区	11,090	196	±3.0%	±4.2%	±5.0%	±5.6%	±6.0%	±6.4%	±6.6%	±6.8%	±6.9%	±6.9%
	朝日ヶ丘小学校区	7,725	107	±4.1%	±5.6%	±6.7%	±7.5%	±8.1%	±8.6%	±9.0%	±9.2%	±9.4%	±9.4%
	精道小学校区	11,186	226	±2.8%	±3.9%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.9%	±6.2%	±6.3%	±6.4%	±6.5%
	宮川小学校区	9,746	184	±3.1%	±4.3%	±5.1%	±5.7%	±6.2%	±6.6%	±6.8%	±7.0%	±7.1%	±7.2%
	打出浜小学校区	8,127	169	±3.3%	±4.5%	±5.3%	±6.0%	±6.5%	±6.8%	±7.1%	±7.3%	±7.4%	±7.5%
	浜風小学校区	6,140	129	±3.7%	±5.1%	±6.1%	±6.8%	±7.4%	±7.8%	±8.1%	±8.4%	±8.5%	±8.5%
	潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	4,567	92	±4.4%	±6.1%	±7.2%	±8.1%	±8.8%	±9.3%	±9.6%	±9.9%	±10.1%	±10.1%
	南芦屋浜地区	4,969	67	±5.2%	±7.1%	±8.5%	±9.5%	±10.3%	±10.9%	±11.3%	±11.7%	±11.8%	±11.9%

(8) 分析についての注意点

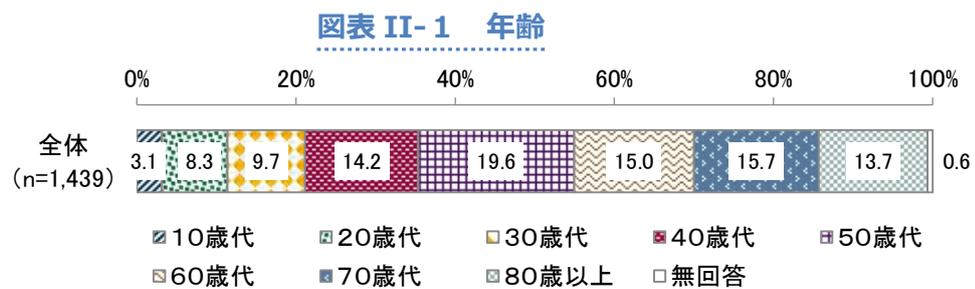
- 集計・分析においては、実数とともに、特記しない限り有効回答数（n=1,439）を母数とした出現率（%）を算出している。
- 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入している関係から、内訳の合計と一致しない場合がある。
- 複数回答設問については、回答者数を母数として出現率を算出しているため、出現率の合計が100%を超える場合がある。
- 属性別のクロス集計のうち、年代別の「10 歳代」（45 件）、地区別の「奥池地区」（20 件）については回答者数が少なく、前項の通り誤差が大きくなっていることから結果の利用には注意が必要である。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 回答者属性以外の項目について、過去の調査結果と比較が可能な項目について比較を行っている。比較を行った調査はそれぞれ下記のとおりとなっている。
 - 前回調査①：令和 5 年度に実施した「市民意識調査」
 - 前回調査②：令和 2 年度に実施した「市民意識調査」
 - 前回調査③：令和元年度に実施した「市民参画協働推進に関する市民意識調査」
 - 前回調査④：平成 28 年度に実施した「文化振興基本計画策定のためのアンケート調査」
 - 前回調査⑤：令和 2 年度に実施した「教育振興に関するアンケート調査」
- 前回調査と項目や選択肢の数、言い回しが異なっているものについては今回調査の項目（選択肢）で表記し、必要に応じて注釈を付けている。

II. アンケート調査結果

1. 回答者属性

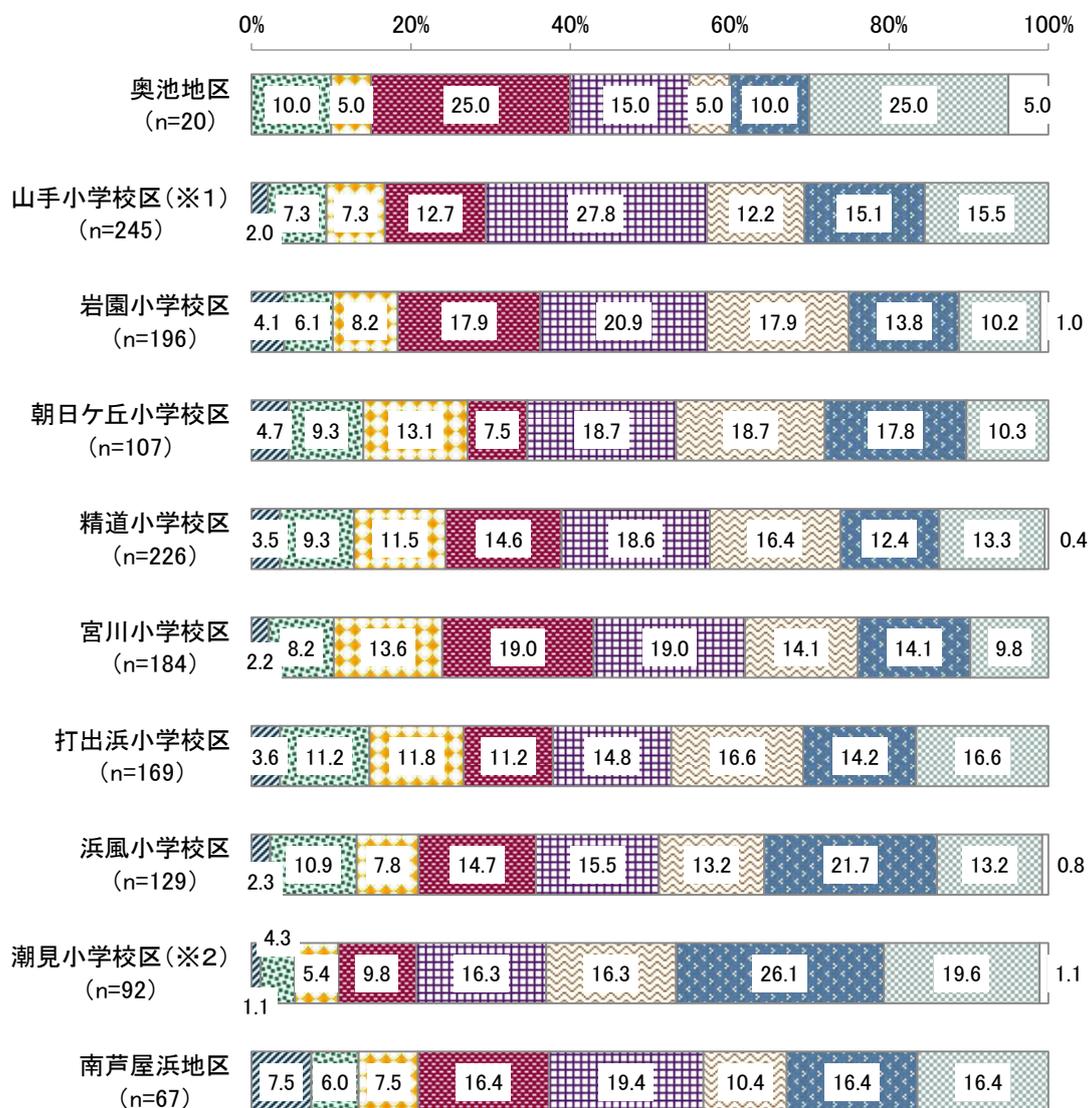
(1) 問1 年齢

「50歳代」の割合が最も高く 19.6%となっている。次いで、「70歳代（15.7%）」、「60歳代（15.0%）」となっている。



地区別にみると、潮見小学校区は他の地区に比べて60歳以上の割合が高くなっている。

図表 II-2 年齢（クロス集計）



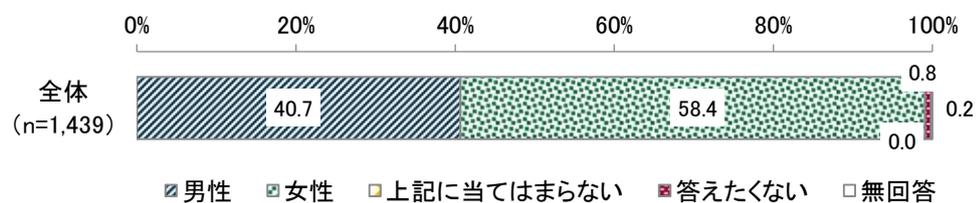
(※1) 奥池地区除く(以下同様)

(※2) 南芦屋浜地区除く(以下同様)

(2) 問2 性別

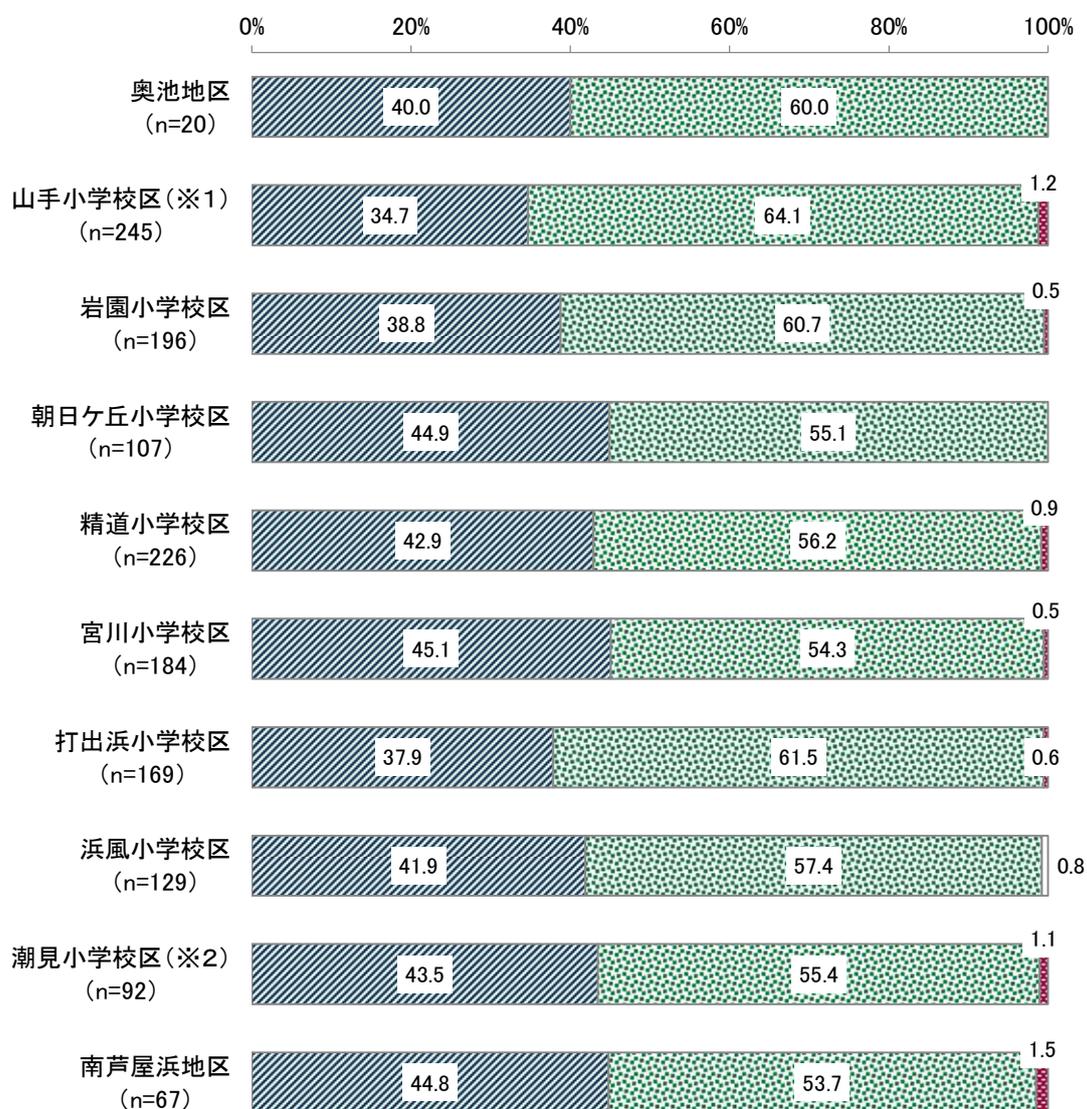
「女性」の割合が最も高く 58.4%となっている。次いで、「男性（40.7%）」、「答えたくない（0.8%）」となっている。

図表 II-3 性別



地区別にみると、山手小学校区は他の地区と比較して女性の割合が高くなっている。

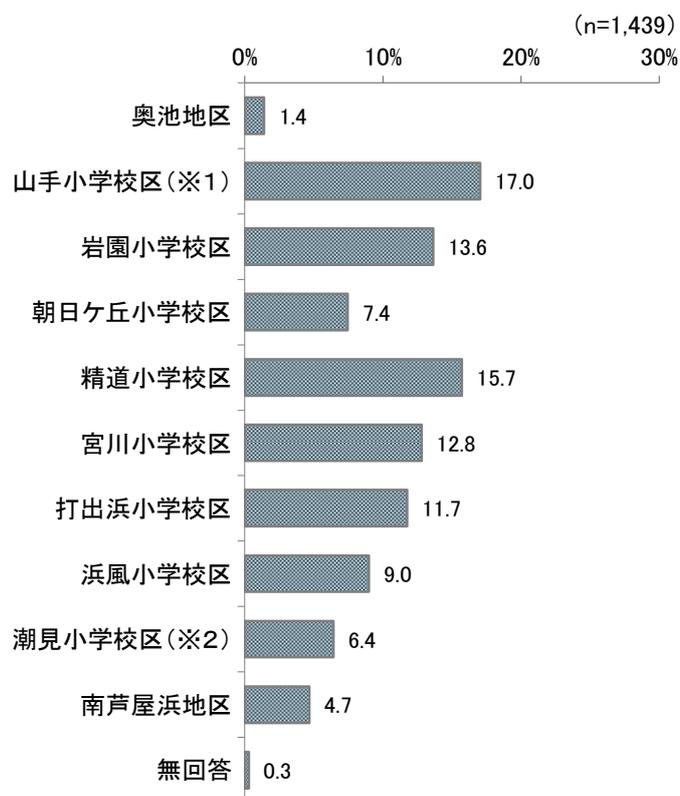
図表 II-4 性別（クロス集計）



(3) 問3 居住地区

「山手小学校区（奥池地区除く）」の割合が最も高く17.0%となっている。次いで、「精道小学校区（15.7%）」、「岩園小学校区（13.6%）」となっている。

図表 II-5 居住地区



女性は、男性と比較して山手小学校区に住む割合が少し高くなっている。

また、年代別にみると、10代は他の年代と比較して岩園小学校区に住む割合が比較的高くなっているほか、40代は他の年代と比較して山手小学校区に住む割合が高くなっている。また、60代は他の年代と比較して潮見小学校区に住む割合が高くなっている。

図表 II-6 居住地区（クロス集計）

		調査数	奥池地区	山手小学校区（奥池地区除く）	岩園小学校区	朝日ヶ丘小学校区	精道小学校区	宮川小学校区	打出浜小学校区	浜風小学校区	(%)
市全体		1,439	1.4	17.0	13.6	7.4	15.7	12.8	11.7	9.0	
性別	男性	585	1.4	14.5	13.0	8.2	16.6	14.2	10.9	9.2	
	女性	840	1.4	18.7	14.2	7.0	15.1	11.9	12.4	8.8	
年代別	10歳代	45	0.0	11.1	17.8	11.1	17.8	8.9	13.3	6.7	
	20歳代	119	1.7	15.1	10.1	8.4	17.6	12.6	16.0	11.8	
	30歳代	140	0.7	12.9	11.4	10.0	18.6	17.9	14.3	7.1	
	40歳代	205	2.4	15.1	17.1	3.9	16.1	17.1	9.3	9.3	
	50歳代	282	1.1	24.1	14.5	7.1	14.9	12.4	8.9	7.1	
	60歳代	216	0.5	13.9	16.2	9.3	17.1	12.0	13.0	7.9	
	70歳代	226	0.9	16.4	11.9	8.4	12.4	11.5	10.6	12.4	
	80歳以上	197	2.5	19.3	10.2	5.6	15.2	9.1	14.2	8.6	

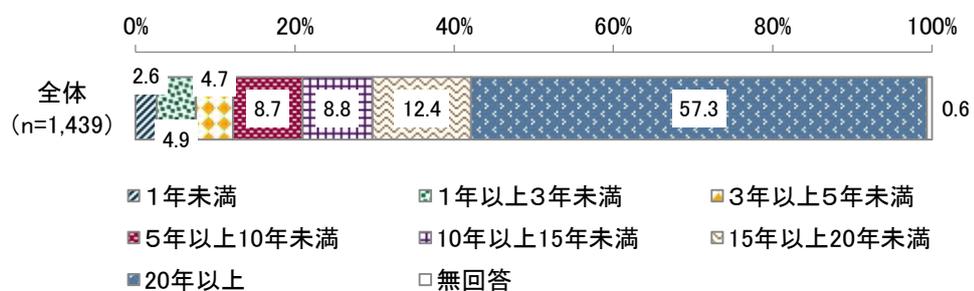
		屋潮見地区除く（南芦）	南芦屋浜地区	無回答
市全体		6.4	4.7	0.3
性別	男性	6.8	5.1	0.0
	女性	6.1	4.3	0.1
年代別	10歳代	2.2	11.1	0.0
	20歳代	3.4	3.4	0.0
	30歳代	3.6	3.6	0.0
	40歳代	4.4	5.4	0.0
	50歳代	5.3	4.6	0.0
	60歳代	6.9	3.2	0.0
	70歳代	10.6	4.9	0.0
	80歳以上	9.1	5.6	0.5

(注) 性別の「上記に当てはまらない」「答えたくない」は集計母数が少ないため非表示としている。(以下同様)

(4) 問4 居住年数

「20年以上」の割合が最も高く 57.3%となっている。次いで、「15年以上 20年未満（12.4%）」、「10年以上 15年未満（8.8%）」となっている。

図表 II-7 居住年数

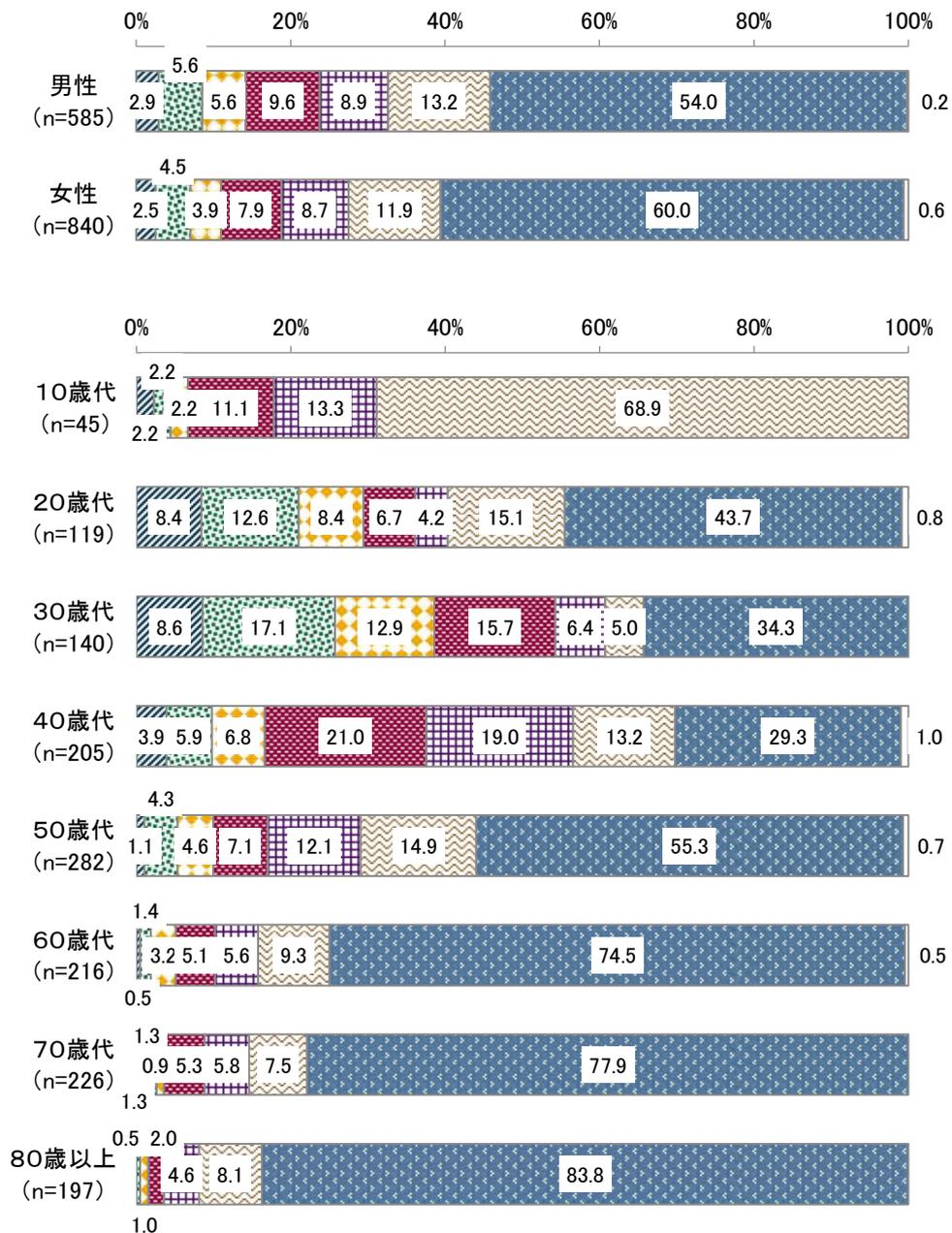


女性は、男性と比較して、居住年数が 20 年以上の割合が高くなっており、居住年数が 5 年未満の割合が低くなっている。

年代別にみると、30 代までは年代が高くなるほど居住年数が 15 年以上の割合が低く、居住年数が 5 年未満の割合が高い傾向にあるが、40 代以降は年代が高くなるほど、居住年数が 15 年以上の人の割合が高く、居住年数が 5 年未満の割合が低い傾向にある。

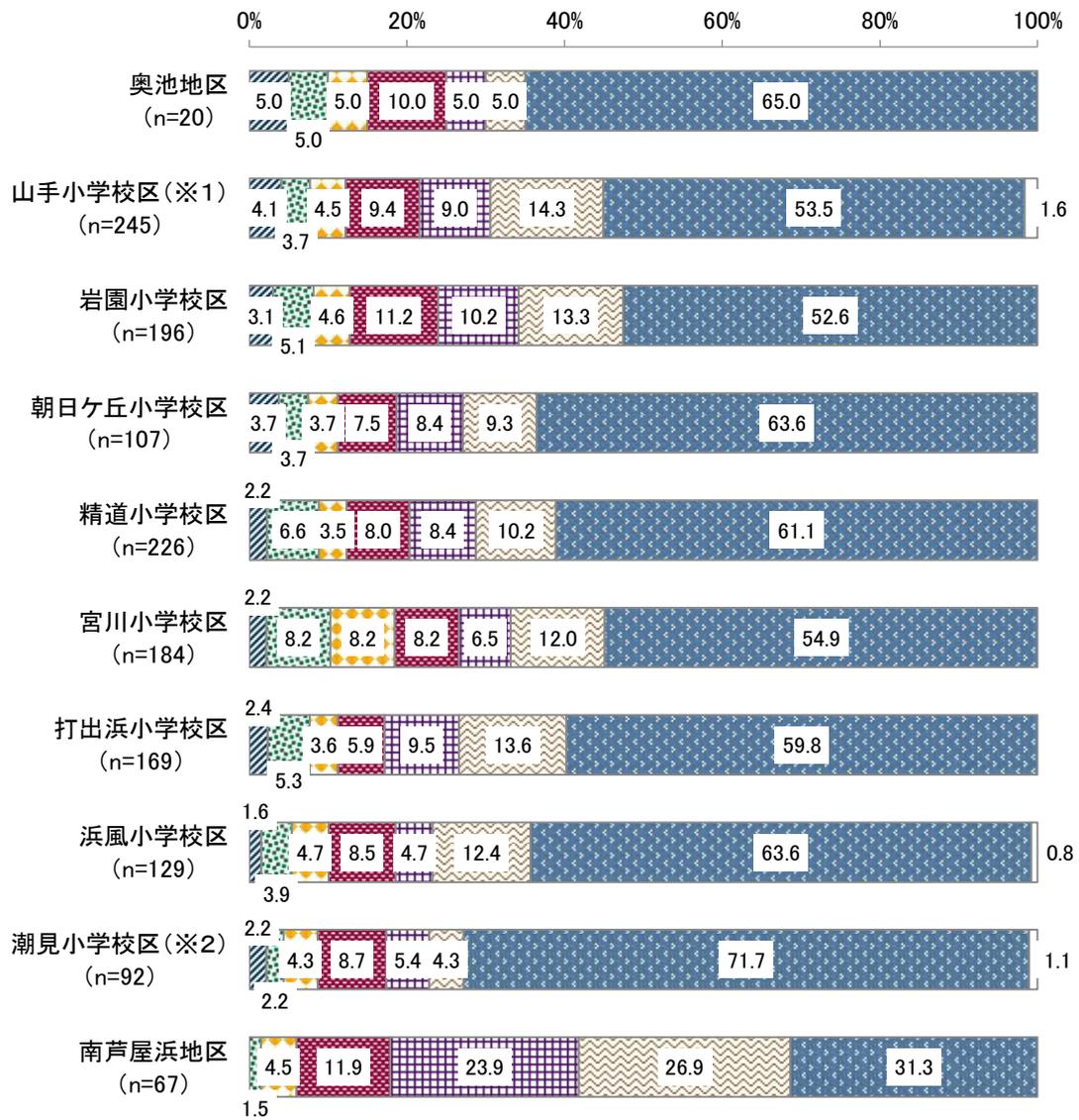
地区別にみると、南芦屋浜地区は、他の地区と比較して、居住年数が 20 年以上の割合が低くなっている。

図表 II-8 居住年数（クロス集計）



(注1) 性別の「上記に当てはまらない」「答えたくない」は集計母数が少ないため非表示としている。(以下同様)

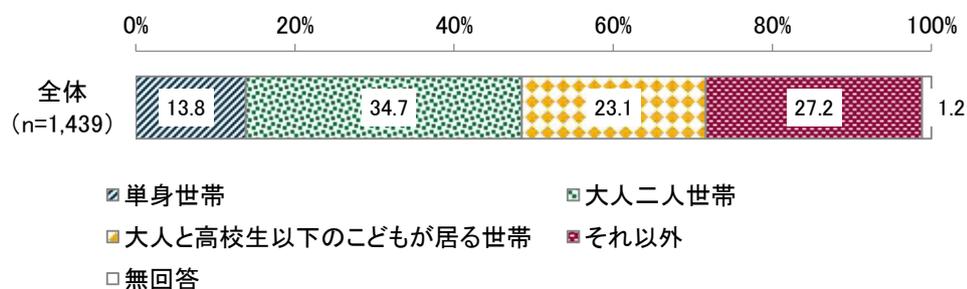
(注2) クロス集計のグラフにおいては、値0%のラベルを非表示としている。(以下同様)



(5) 問5 世帯構成

「大人二人世帯」の割合が最も高く34.7%となっている。次いで、「それ以外（27.2%）」、「大人と高校生以下の子どもが居る世帯（23.1%）」となっている。

図表 II-9 世帯構成



(注) この設問では、「大人の人数」「高校生より大きい子どもの人数」「高校生まで（高校生含む）の子どもの人数」をそれぞれ聞いている。上記は各項目の人数を区分して集計を行ったもので、「大人二人世帯」であっても夫婦とは断定できない（「成人の回答者とその親」なども想定される）点に注意が必要である。

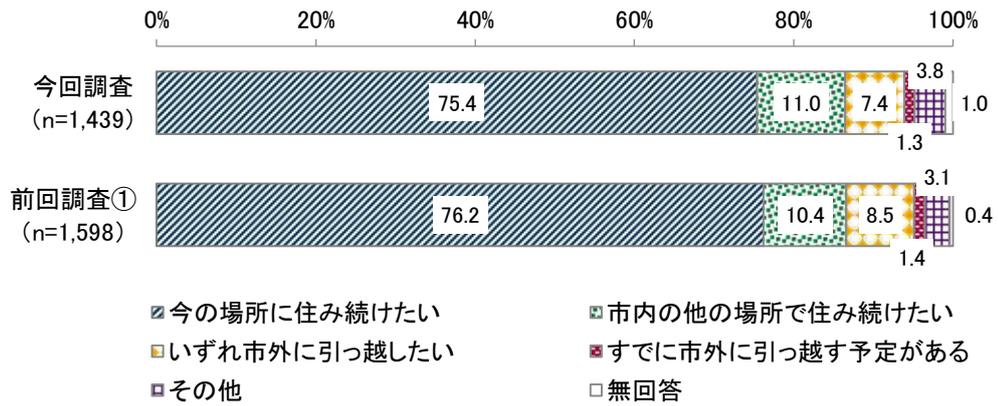
2. お住まいの地域での生活や住みやすさについて

(1) 問6 定住意向

「今の場所に住み続けたい」の割合が最も高く 75.4%となっている。次いで、「市内の他の場所で住み続けたい（11.0%）」、「いずれ市外に引っ越したい（7.4%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-10 定住意向

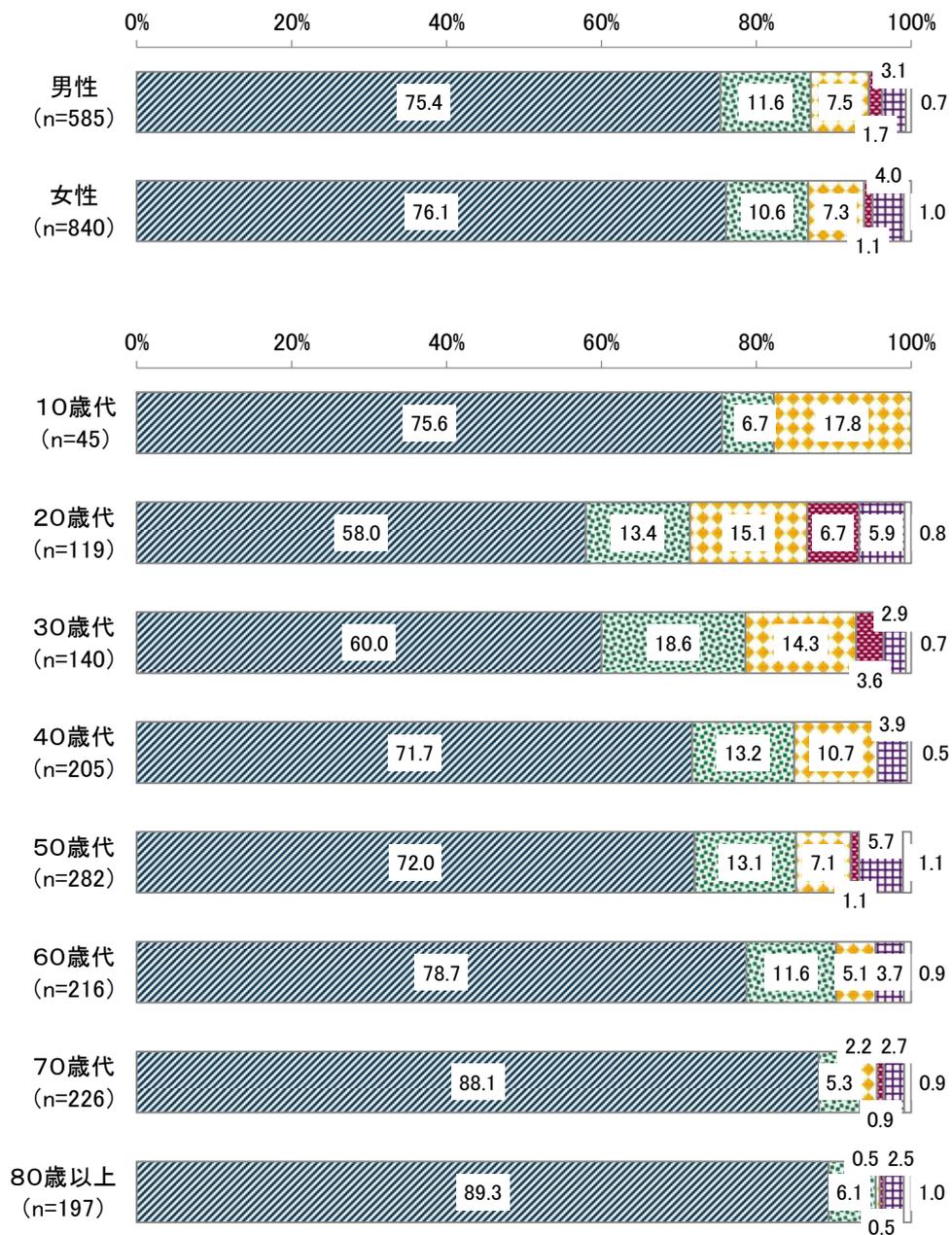


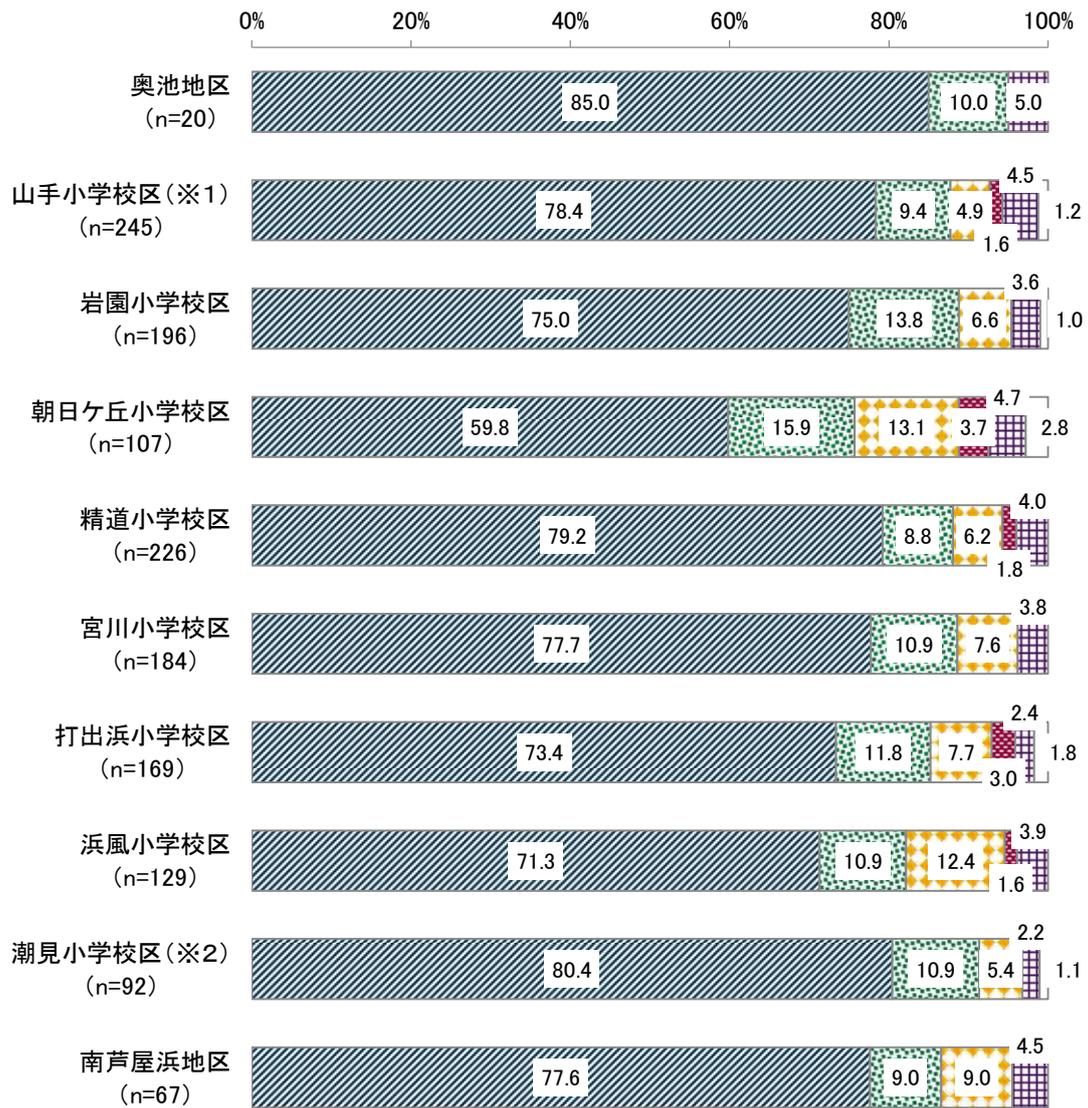
男女で定住意向の傾向に大きな差異は見られない。

年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「今の場所に住み続けたい」「市内の他の場所で住み続けたい」の割合が低くなっている。40代以降は年代が高くなるほど、「今の場所に住み続けたい」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地区と比較して、「今の場所に住み続けたい」の割合が低くなっている。

図表 II-1 1 定住意向 (クロス集計)



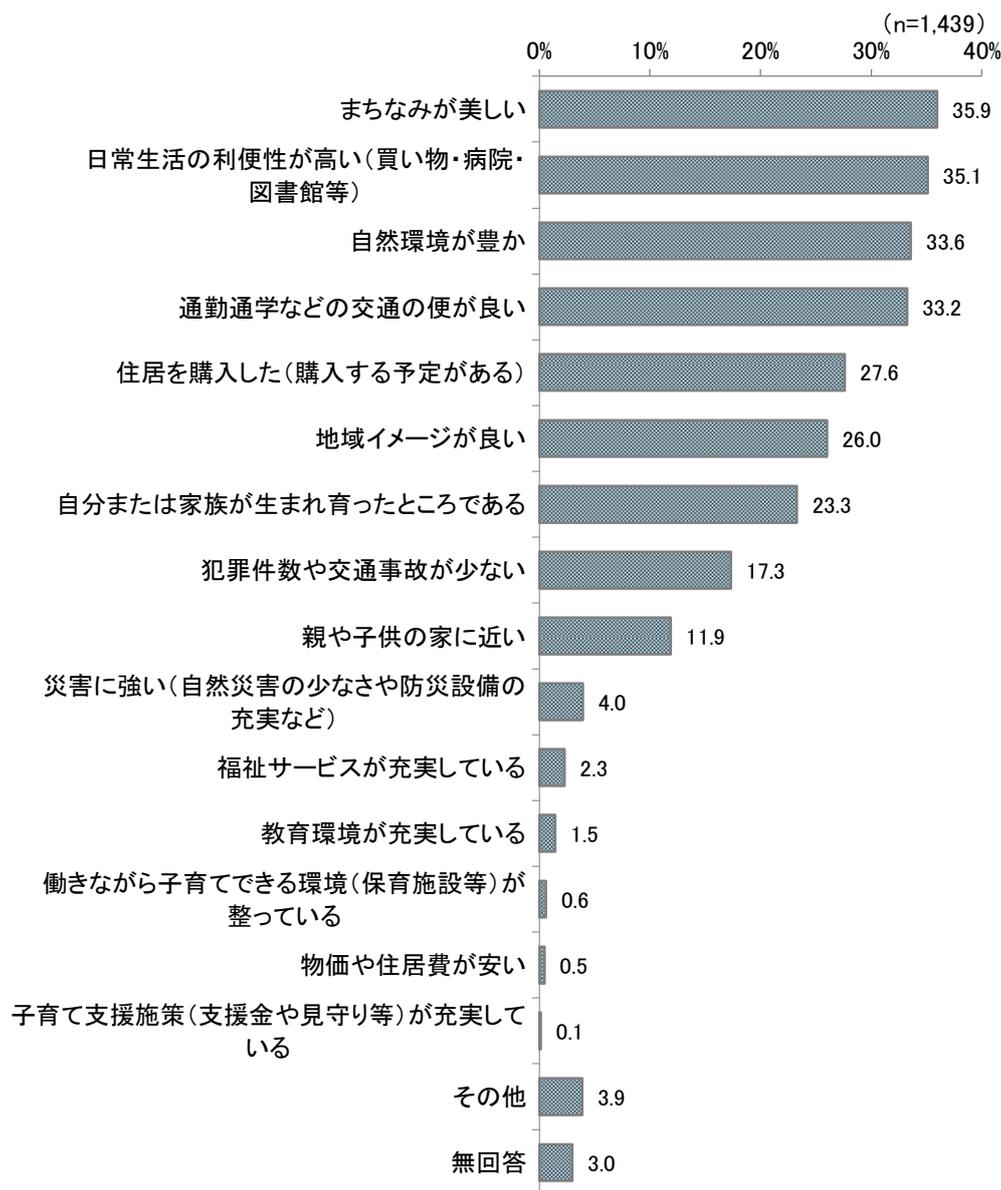


(2) 問7 現在芦屋市に住み続けている理由（3つまで選択）

「まちなみが美しい」の割合が最も高く 35.9%となっている。次いで、「日常生活の利便性が高い（買い物・病院・図書館等）（35.1%）」、「自然環境が豊か（33.6%）」となっている。

その他の回答としては、「子どもの学校が変わらないですむ」などこどもの交友関係に関するものや、「マナーが良い」など、住民性を理由にした回答等がみられた。

図表 II-12 現在芦屋市に住み続けている理由

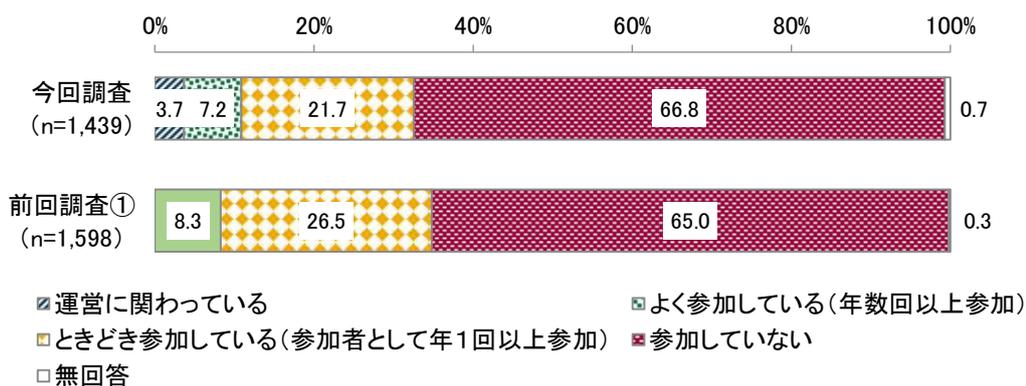


(3) 問8 地域の活動や行事への参加状況

「参加していない」の割合が最も高く66.8%となっている。次いで、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）（21.7%）」、「よく参加している（年数回以上参加）（7.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、よく参加している（年数回以上参加している人及び運営に関わっている人）の割合が高くなっている。

図表 II-13 地域の活動や行事への参加状況



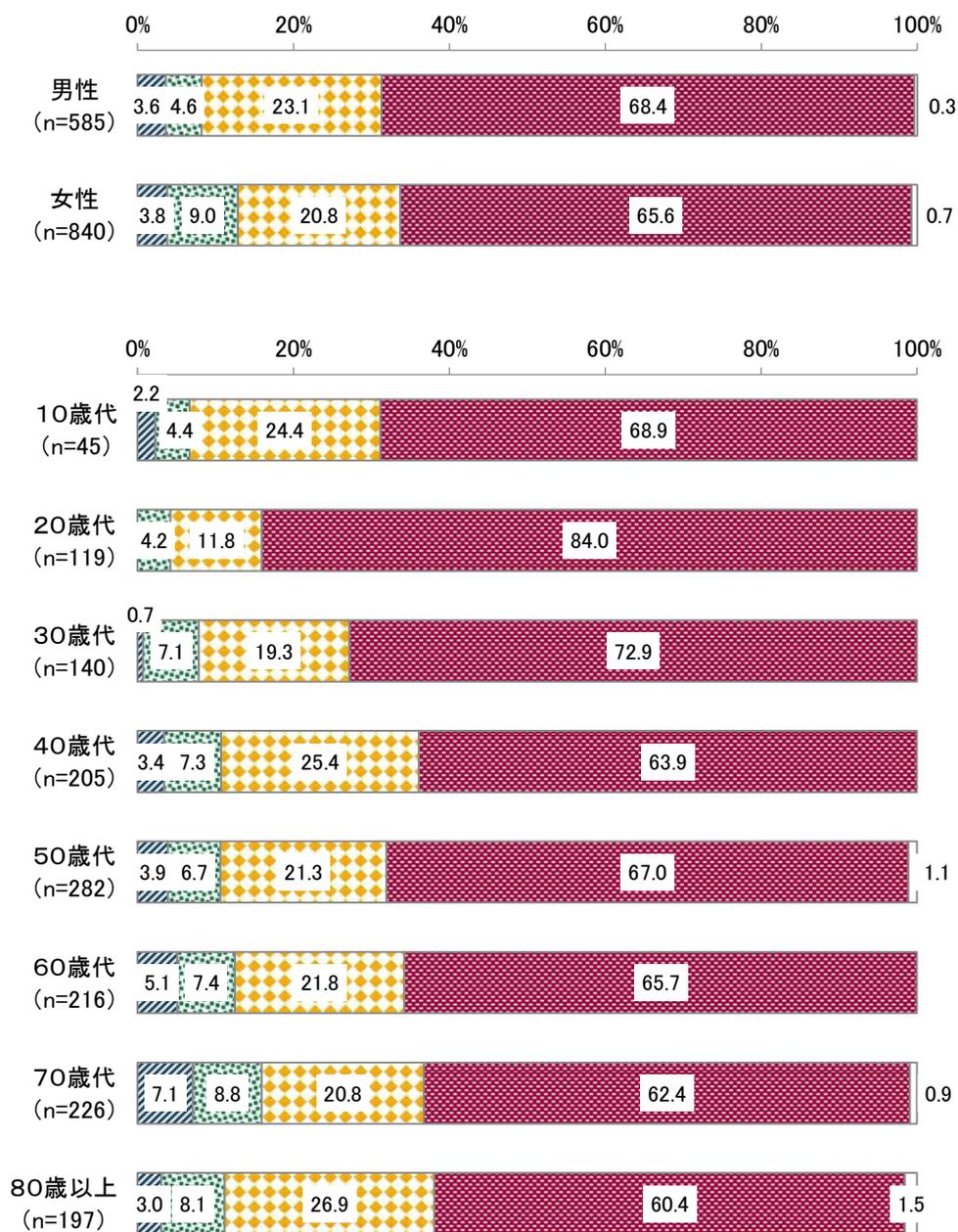
(注) 前回調査①の選択肢では「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」だったものが今回は「運営に関わっている」「よく参加している（年数回以上参加）」に分けられている。

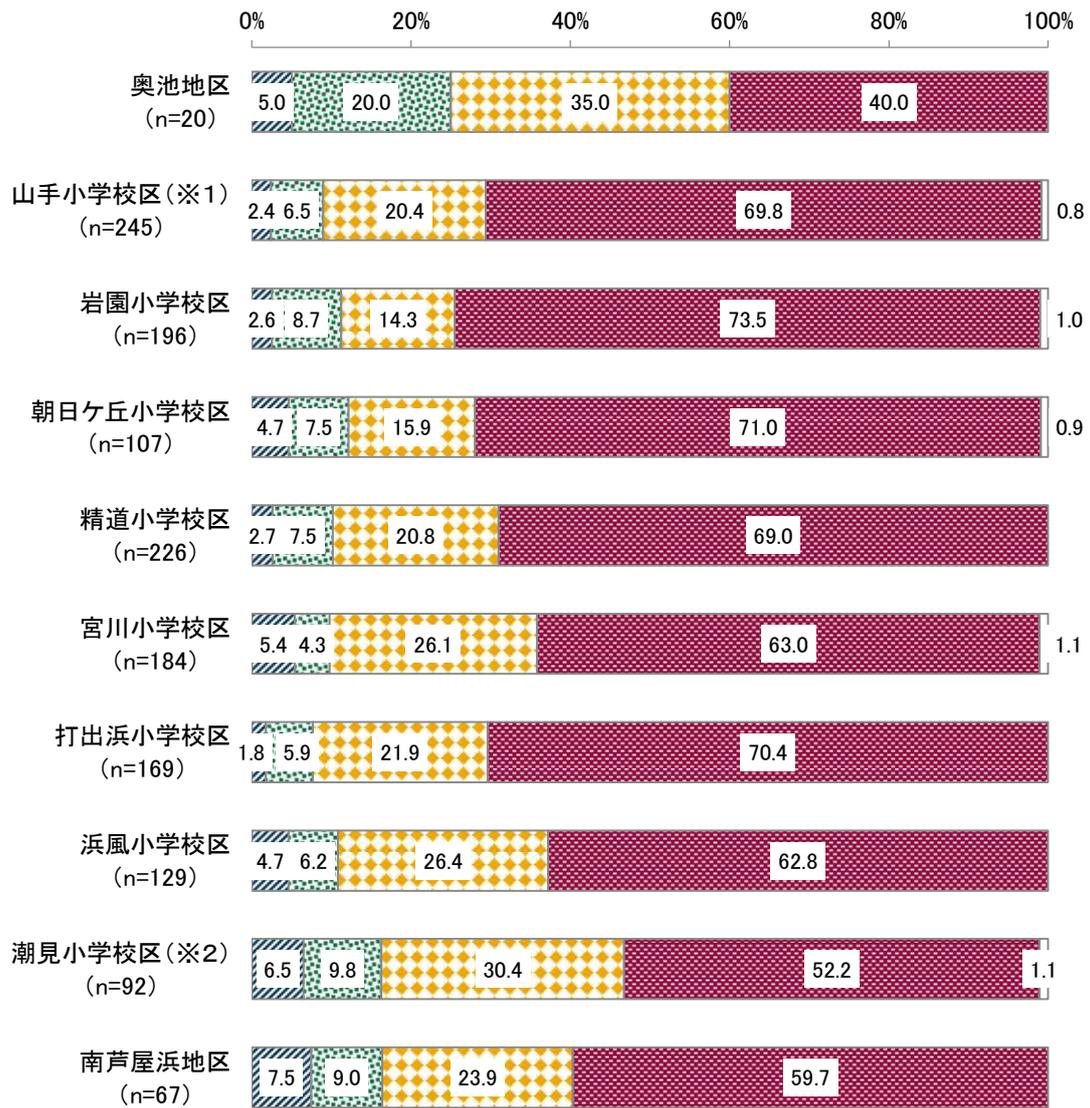
男女で地域における活動や行事への参加状況に大きな差異は見られない。

年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「参加していない」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「参加していない」の割合が低くなっている。

図表 II-14 地域の活動や行事への参加状況（クロス集計）





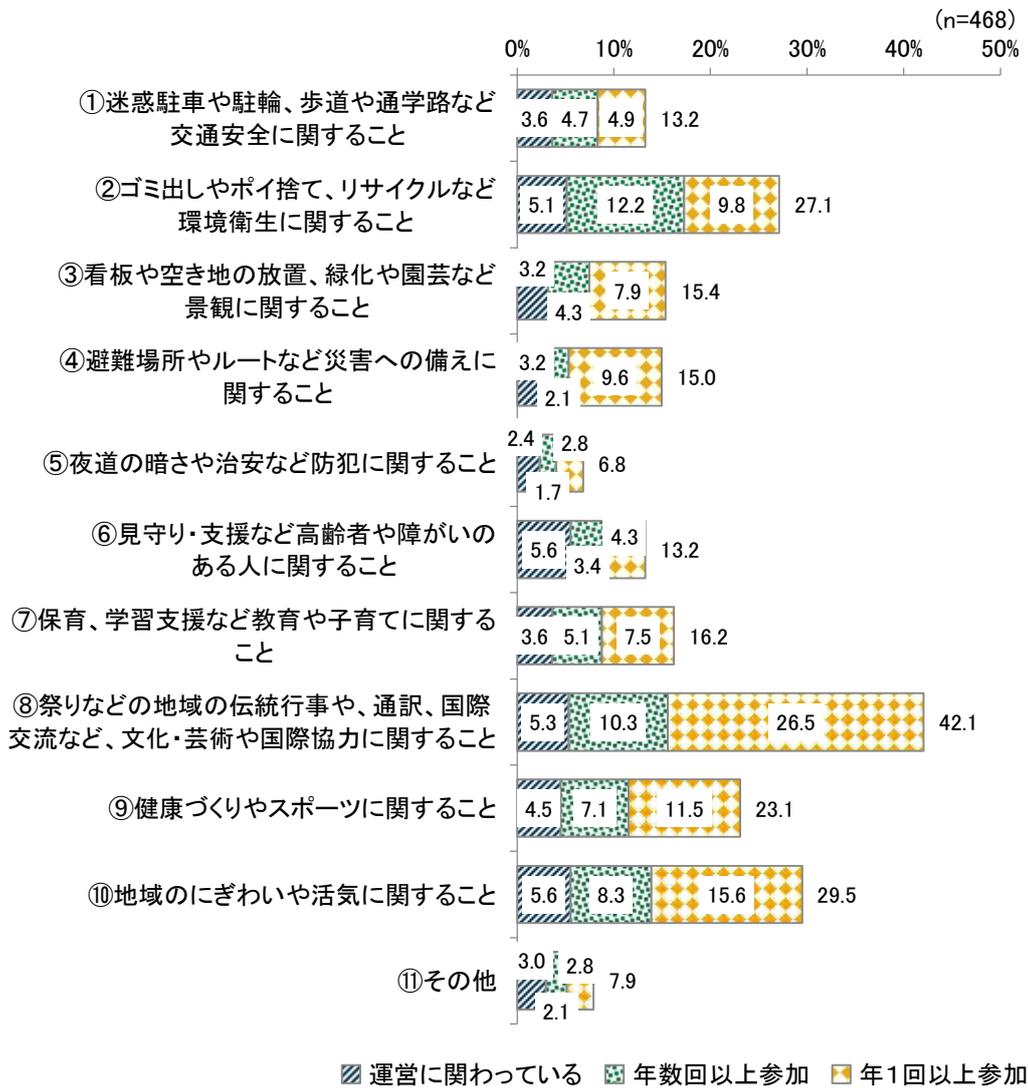
(4) 問9 「すでに参加している」地域の活動・「今後参加したい」地域の活動（複数選択）

「すでに参加している」（「運営に関わっている」と「年数回以上参加」、「年1回以上参加」の割合の合計）地域の活動では、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」における割合が最も高く42.1%となっている。次いで、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること（29.5%）」、「②ゴミ出しやポイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関すること（27.1%）」となっている。

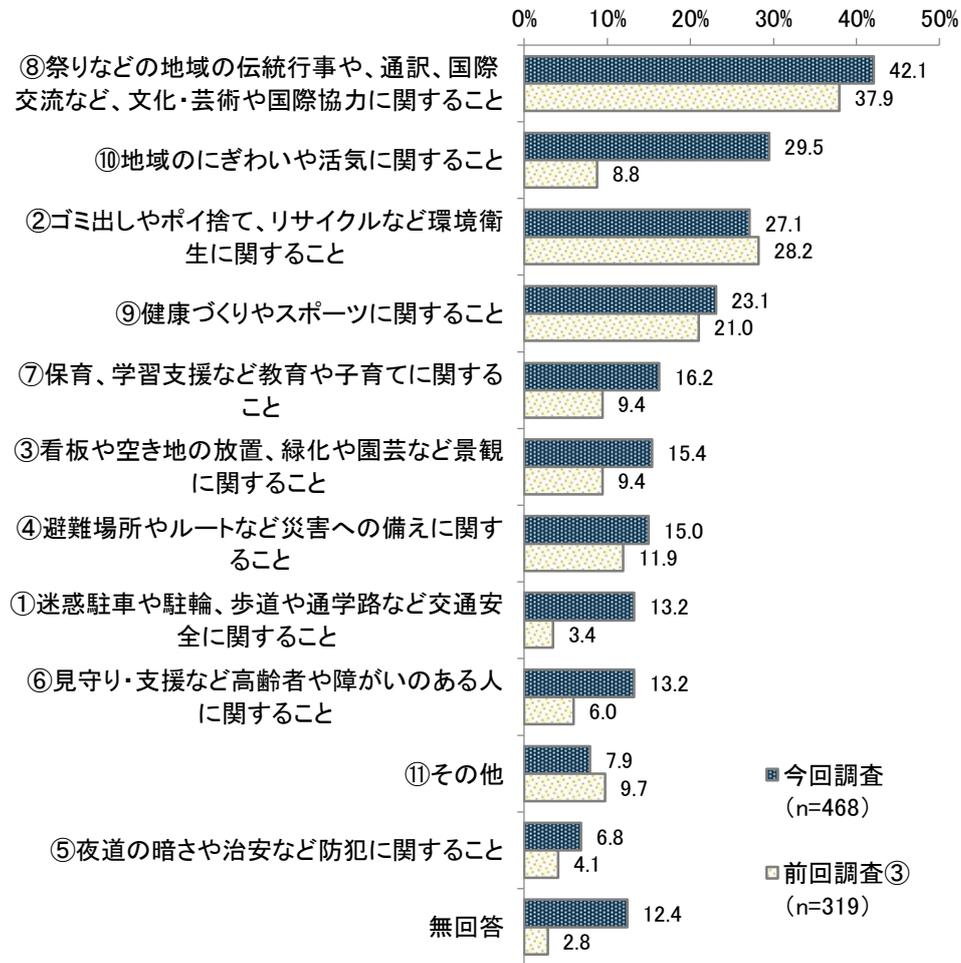
その他の回答としては、「自治会」「子ども会」や、「子ども食堂」等の回答がみられた。

前回調査③と比較すると、「すでに参加している」地域の活動については、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること」の割合が大幅に上昇したほか、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」「⑦保育・学習支援など教育や子育てに関すること」「③看板や空き地の放置、緑化や園芸など景観に関すること」「①迷惑駐車や駐輪、歩道や通学路など交通安全に関すること」「⑥見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」の割合が上昇している。

図表 II-15 「すでに参加している」地域の活動



図表 II-16 「すでに参加している」地域の活動（前回調査③との比較）



(注) 前回調査③の選択肢では、「見守り・支援など高齢者に関すること」「見守り・支援など障がい者に関すること」と分かれていたが、今回は「見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」と統合されている。また、前回調査③の選択肢では、「地域行事や祭りなど、地域の伝統や、文化・芸術に関すること」「通訳や生活サポート、交流など国際協力に関すること」と分かれていたが、今回は「祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」と統合されている。

男性は女性と比較して、「②ゴミ出しやポイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関すること」に参加している割合が高くなっている。

年代別に比較すると、60代は他の年代と比較して「②ゴミ出しやポイ捨て・リサイクルなど環境衛生に関すること」「③看板や空き地の放置・緑化や園芸など景観に関すること」「⑤夜道の暗さや治安など防犯に関すること」「⑥見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」「⑨健康づくりやスポーツに関すること」「⑩地域のにぎわいや活気に関すること」など、全体的に地域の活動に参加している割合が高くなっている。

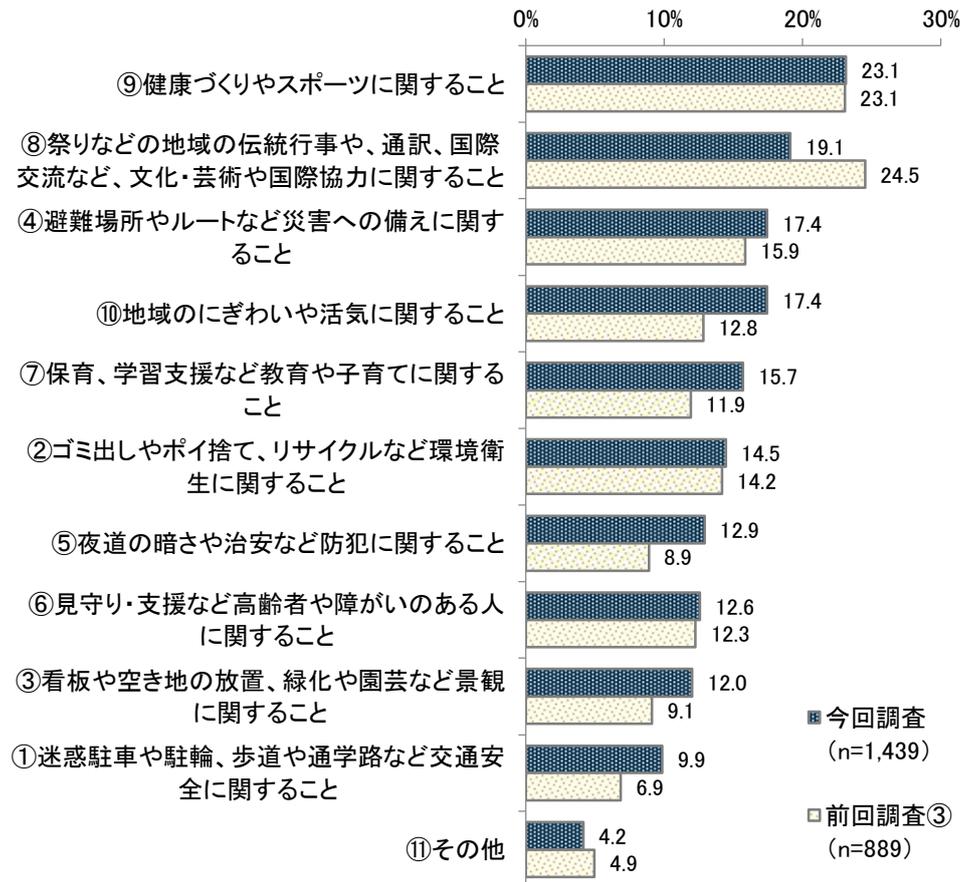
図表 II-17 「すでに参加している」地域の活動（クロス集計）

		調査数	①迷惑駐車や交通安全歩道	②ゴミ出しやポイ捨て、環境衛生	③看板や空き地の放置、緑化や園芸など景観	④災害避難場所やルートなど	⑤夜道の暗さや治安など防犯	⑥見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること	⑦保育、子育てに関すること	⑧祭りなどの地域の伝統行事や文化・芸術や国際交流など、文化・芸術や国際	(%)
市全体		468	13.2	27.1	15.4	15.0	6.8	13.2	16.2	42.1	
性別	男性	183	10.9	31.1	14.2	16.4	8.2	12.0	14.2	43.7	
	女性	283	14.8	24.7	16.3	14.1	6.0	14.1	17.7	41.3	
年代別	10歳代	14	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	7.1	14.3	57.1	
	20歳代	19	10.5	10.5	5.3	5.3	10.5	0.0	10.5	78.9	
	30歳代	38	15.8	10.5	2.6	13.2	0.0	7.9	39.5	68.4	
	40歳代	74	25.7	20.3	13.5	17.6	4.1	9.5	35.1	60.8	
	50歳代	90	11.1	25.6	15.6	12.2	3.3	12.2	11.1	38.9	
	60歳代	74	14.9	40.5	23.0	21.6	17.6	20.3	16.2	32.4	
	70歳代	83	6.0	34.9	20.5	14.5	6.0	16.9	6.0	25.3	
	80歳以上	75	12.0	28.0	16.0	13.3	8.0	14.7	5.3	29.3	

		⑨健康づくりやスポーツ	⑩地域のにぎわいや活気	⑪その他	無回答
市全体		23.1	29.5	7.9	12.4
性別	男性	25.1	31.7	6.6	10.4
	女性	21.9	28.3	8.8	13.1
年代別	10歳代	14.3	21.4	7.1	14.3
	20歳代	31.6	31.6	0.0	5.3
	30歳代	13.2	36.8	5.3	7.9
	40歳代	17.6	28.4	6.8	1.4
	50歳代	16.7	35.6	11.1	8.9
	60歳代	33.8	36.5	12.2	6.8
	70歳代	28.9	22.9	7.2	14.5
	80歳以上	22.7	20.0	5.3	34.7

「今後参加したい」地域の活動について前回調査③と比較すると、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること」「⑦保育、学習支援など教育や子育てに関すること」「⑤夜道の暗さや治安など防犯に関すること」「①迷惑駐車や駐輪、歩道や通学路など交通安全に関すること」の割合が上昇している一方で、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」の割合が低下している。

図表 II-18 「今後参加したい」地域の活動（前回調査③との比較）



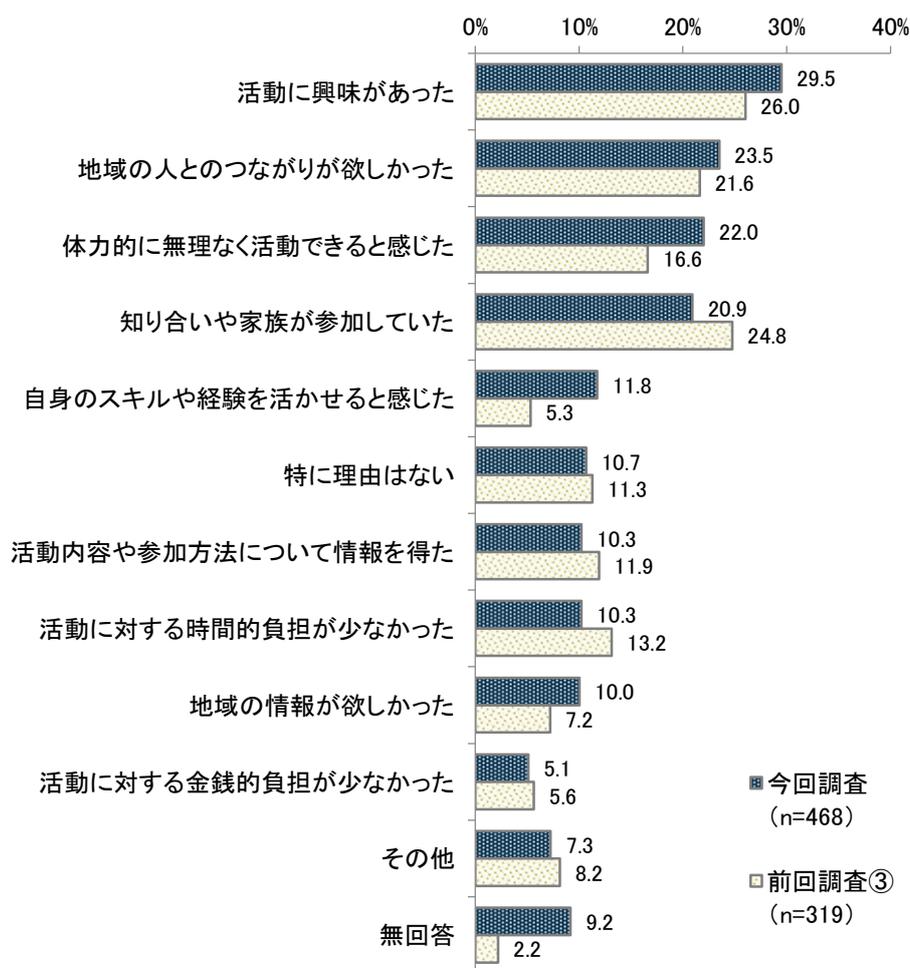
(注) 前回調査③の選択肢では、「見守り・支援など高齢者に関すること」「見守り・支援など障がい者に関すること」と分かれていたが、今回は「見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」と統合されている。また、前回調査③の選択肢では、「地域行事や祭りなど、地域の伝統や、文化・芸術に関すること」「通訳や生活サポート、交流など国際協力に関すること」と分かれていたが、今回は「祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」と統合されている。

(5) 問 10 地域の活動に参加している理由（3つまで選択）

「活動に興味があった」の割合が最も高く 29.5%となっている。次いで、「地域の人とのつながりが欲しかった（23.5%）」、「体力的に無理なく活動できると感じた（22.0%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「活動に興味があった」「体力的に無理なく活動できると感じた」「自身のスキルや経験を活かせると感じた」の割合が増加している。

図表 II-19 地域の活動に参加している理由



(注) 前回調査③では、「体力的に無理なく活動できると感じた」は「体力的に無理なく活動できそう」となっている。

男性は女性と比較して、「地域の人とのつながりが欲しかった」の割合が高く、女性は男性と比較して「体力的に無理なく活動できると感じた」の割合が高くなっている。

年代別にみると、10代から30代は、他の年代と比較して、「活動に興味があった」「知り合いや家族が参加していた」の割合が高くなっている。また、60代から80歳以上は、他の年代と比較して、「地域の人とのつながりが欲しかった」「体力的に無理なく活動できると感じた」の割合が高くなっている。

図表 II-20 地域の活動に参加している理由（クロス集計）

(%)

		調査数	活動に興味があった	地域の人とのつながりが欲しかった	知り合いや家族が参加していた	地域の情報が欲しかった	活動内容や参加方法について情報を得た	活動に対する金銭的負担が少なかった	活動に対する時間的負担が少なかった	体力的に無理なく活動できると感じた
市全体		468	29.5	23.5	20.9	10.0	10.3	5.1	10.3	22.0
性別	男性	183	28.4	26.2	23.0	9.8	7.7	3.8	8.7	19.1
	女性	283	30.0	21.9	19.8	10.2	12.0	6.0	11.3	24.0
年代別	10歳代	14	42.9	0.0	57.1	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1
	20歳代	19	52.6	15.8	26.3	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3
	30歳代	38	42.1	13.2	28.9	10.5	15.8	13.2	5.3	5.3
	40歳代	74	28.4	20.3	28.4	13.5	17.6	0.0	0.0	4.1
	50歳代	90	22.2	13.3	14.4	11.1	11.1	7.8	11.1	15.6
	60歳代	74	27.0	24.3	16.2	4.1	14.9	5.4	5.4	32.4
	70歳代	83	27.7	36.1	22.9	8.4	4.8	2.4	22.9	39.8
	80歳以上	75	28.0	36.0	12.0	16.0	2.7	5.3	17.3	33.3

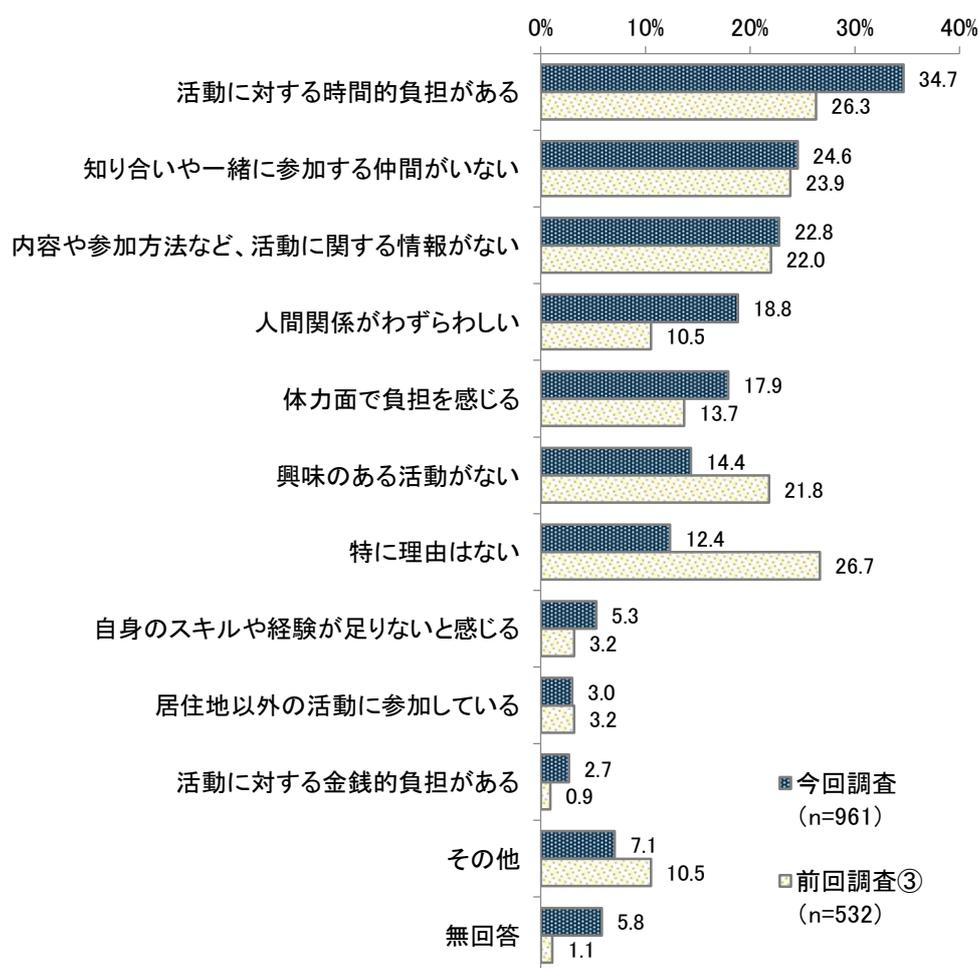
		自身を活かせるスキルや経験を	特に理由はない	その他	無回答
市全体		11.8	10.7	7.3	9.2
性別	男性	11.5	14.8	6.0	9.3
	女性	12.0	8.1	8.1	8.8
年代別	10歳代	14.3	7.1	0.0	14.3
	20歳代	10.5	5.3	0.0	5.3
	30歳代	5.3	5.3	7.9	2.6
	40歳代	10.8	18.9	6.8	4.1
	50歳代	14.4	15.6	15.6	6.7
	60歳代	8.1	10.8	4.1	16.2
	70歳代	16.9	7.2	4.8	9.6
	80歳以上	10.7	5.3	6.7	13.3

(6) 問 11 地域の活動に参加していない理由（3つまで選択）

「活動に対する時間的負担がある」の割合が最も高く 34.7%となっている。次いで、「知り合いと一緒に参加する仲間がいない（24.6%）」、「内容や参加方法など、活動に関する情報がない（22.8%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「活動に対する時間的負担がある」「知り合いと一緒に参加する仲間がいない」「人間関係がわずらわしい」「体力面で負担を感じる」の割合が上昇している。一方で、「興味のある活動がない」の割合は低下している。

図表 II-2 1 地域の活動に参加していない理由



男性は女性よりも「興味のある活動がない」「人間関係がわずらわしい」の割合が高くなっている。女性は、男性よりも「内容や参加方法など、活動に関する情報がない」「体力面で負担を感じる」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30代は他の年代と比較して「興味のある活動がない」「知り合いや一緒に参加する仲間がない」「活動に対する時間的負担がある」の割合が高くなっている。また、70代以上は他の年代と比較して「活動に対する時間的負担がある」の割合が低くなっている一方で、「体力面で負担を感じる」の割合が高くなっている。

図表 II-2 2 地域の活動に参加していない理由（クロス集計）

(%)

	調査数	興味のある活動がない	人間関係がわずらわしい	知り合いや一緒に参加する仲間がない	内容や参加方法など、活動に関する情報がない	活動に対する金銭的負担がある	活動に対する時間的負担がある	体力面で負担を感じる	自身のスキルや経験が足りないと感じる
市全体	961	14.4	18.8	24.6	22.8	2.7	34.7	17.9	5.3
性別									
男性	400	17.8	21.0	24.8	20.5	3.5	34.8	15.3	5.8
女性	551	12.0	16.9	24.1	24.5	2.0	34.7	20.1	4.9
年代別									
10歳代	31	35.5	19.4	19.4	35.5	0.0	32.3	9.7	3.2
20歳代	100	14.0	9.0	28.0	31.0	3.0	35.0	3.0	3.0
30歳代	102	20.6	22.5	29.4	25.5	3.9	48.0	8.8	2.0
40歳代	131	11.5	21.4	26.7	29.8	1.5	45.0	9.9	3.8
50歳代	189	12.2	19.0	27.0	19.6	4.2	40.7	11.6	6.3
60歳代	142	9.9	17.6	22.5	26.1	3.5	40.1	20.4	4.9
70歳代	141	19.1	24.1	24.1	17.7	2.1	22.7	31.2	9.2
80歳以上	119	10.9	14.3	15.1	9.2	0.8	10.1	41.2	5.9

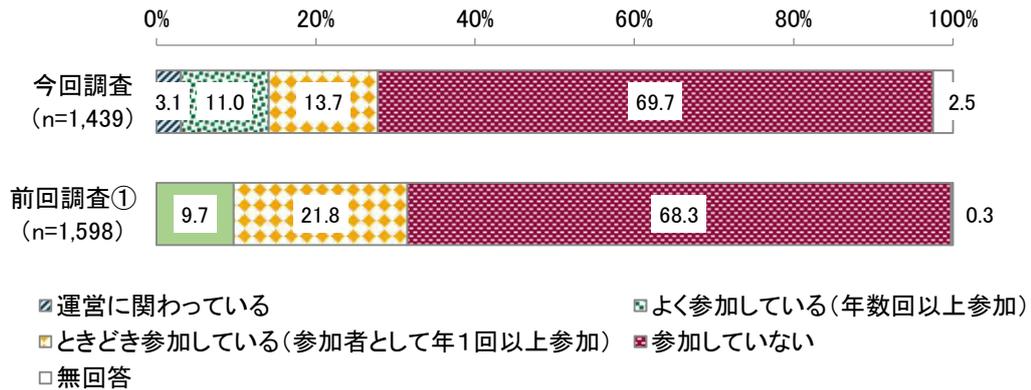
	居住地以外の活動に参加している	特に理由はない	その他	無回答
市全体	3.0	12.4	7.1	5.8
性別				
男性	2.8	13.8	6.3	6.5
女性	3.1	11.6	7.8	5.1
年代別				
10歳代	0.0	16.1	3.2	0.0
20歳代	3.0	25.0	10.0	4.0
30歳代	0.0	4.9	4.9	2.9
40歳代	0.0	9.9	9.2	3.8
50歳代	3.7	13.8	9.5	4.8
60歳代	2.8	11.3	7.7	3.5
70歳代	5.0	12.1	3.5	7.1
80歳以上	5.9	10.1	4.2	16.8

(7) 問 12 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況

「参加していない」の割合が最も高く69.7%となっている。次いで、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）（13.7%）」、「よく参加している（年数回以上参加）（11.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、よく参加している（「運営に関わっている」及び「年数回以上参加」）の割合が上昇している。

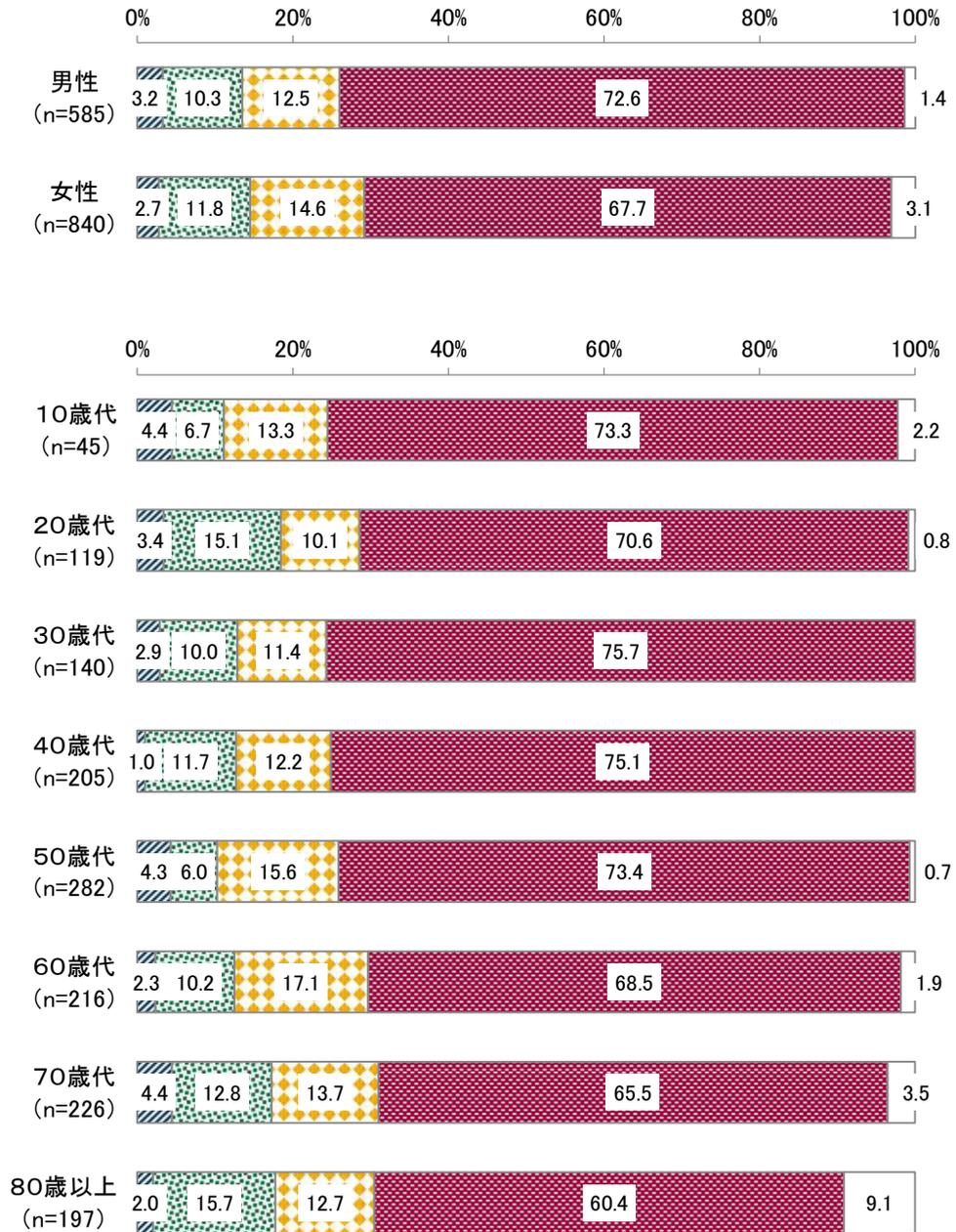
図表 II-2 3 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況



(注) 前回調査①の選択肢では「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」だったものが今回は「運営に関わっている」「よく参加している（年数回以上参加）」に分けられている。

男性と女性で居住する地域にとられない趣味の活動への参加状況に大きな差異はみられない。
 年代別にみると、80歳以上は他の年代と比較して「参加していない」の割合が低くなっている。また、
 20代は他の年代と比較して「よく参加している（年数回以上参加）」の割合が高くなっている。

図表 II-2 4 居住する地域にとられない趣味の活動への参加状況（クロス集計）

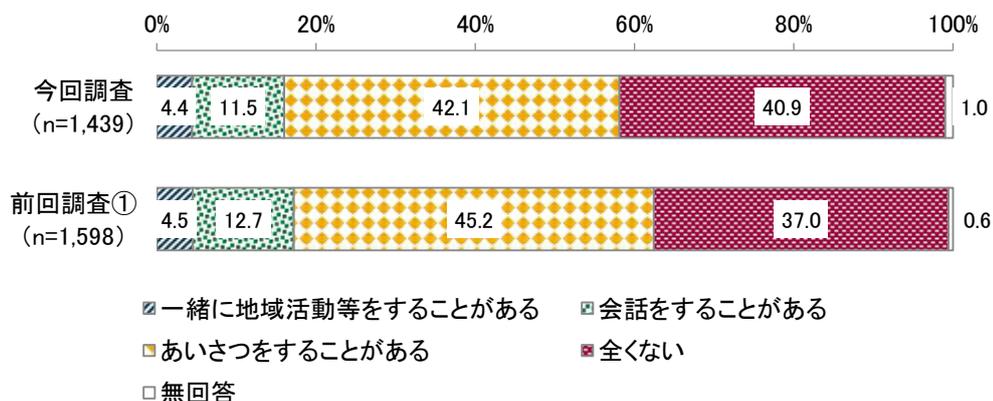


(8) 問 13 日常的に近所の子どもと接する機会

「あいさつをすることがある」の割合が最も高く 42.1%となっている。次いで、「全くない（40.9%）」、「会話をすることがある（11.5%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-25 日常的に近所の子どもと接する機会

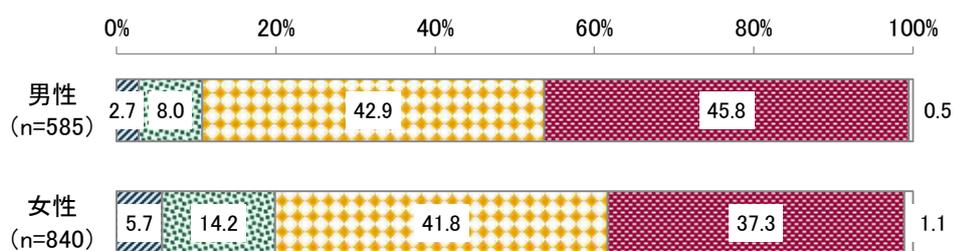


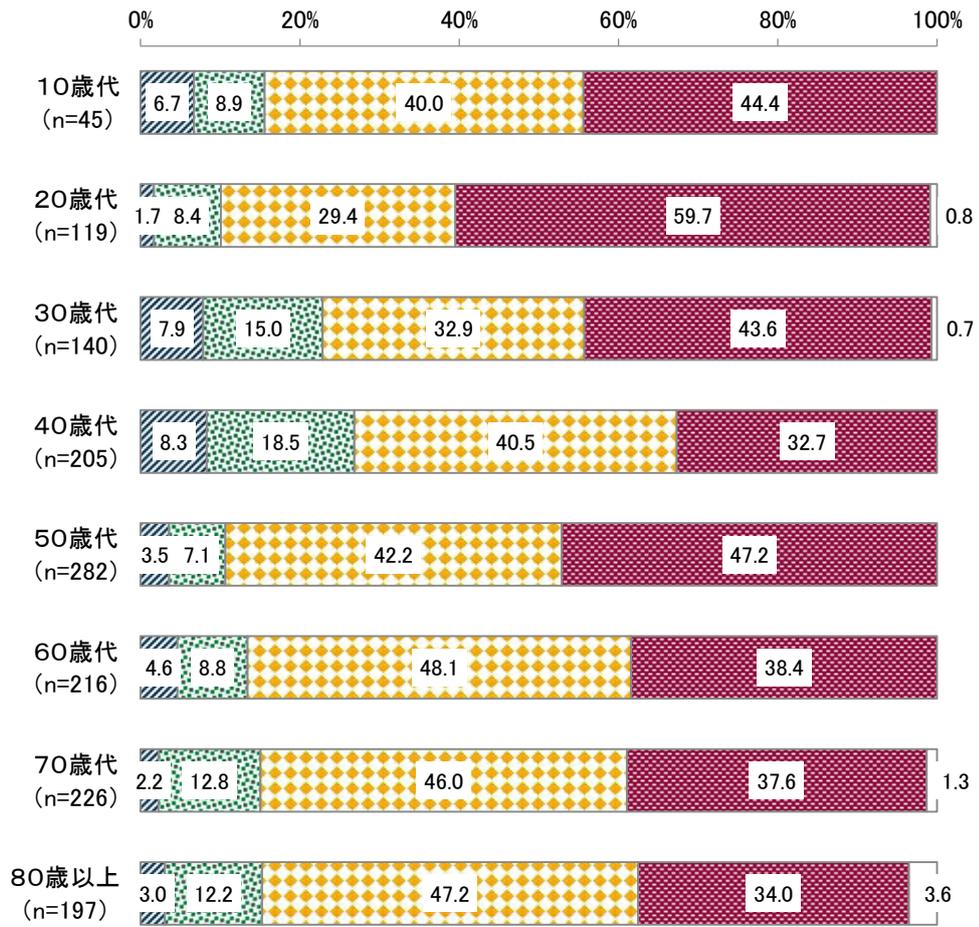
女性は男性よりも「全くない」の割合が低くなっている。

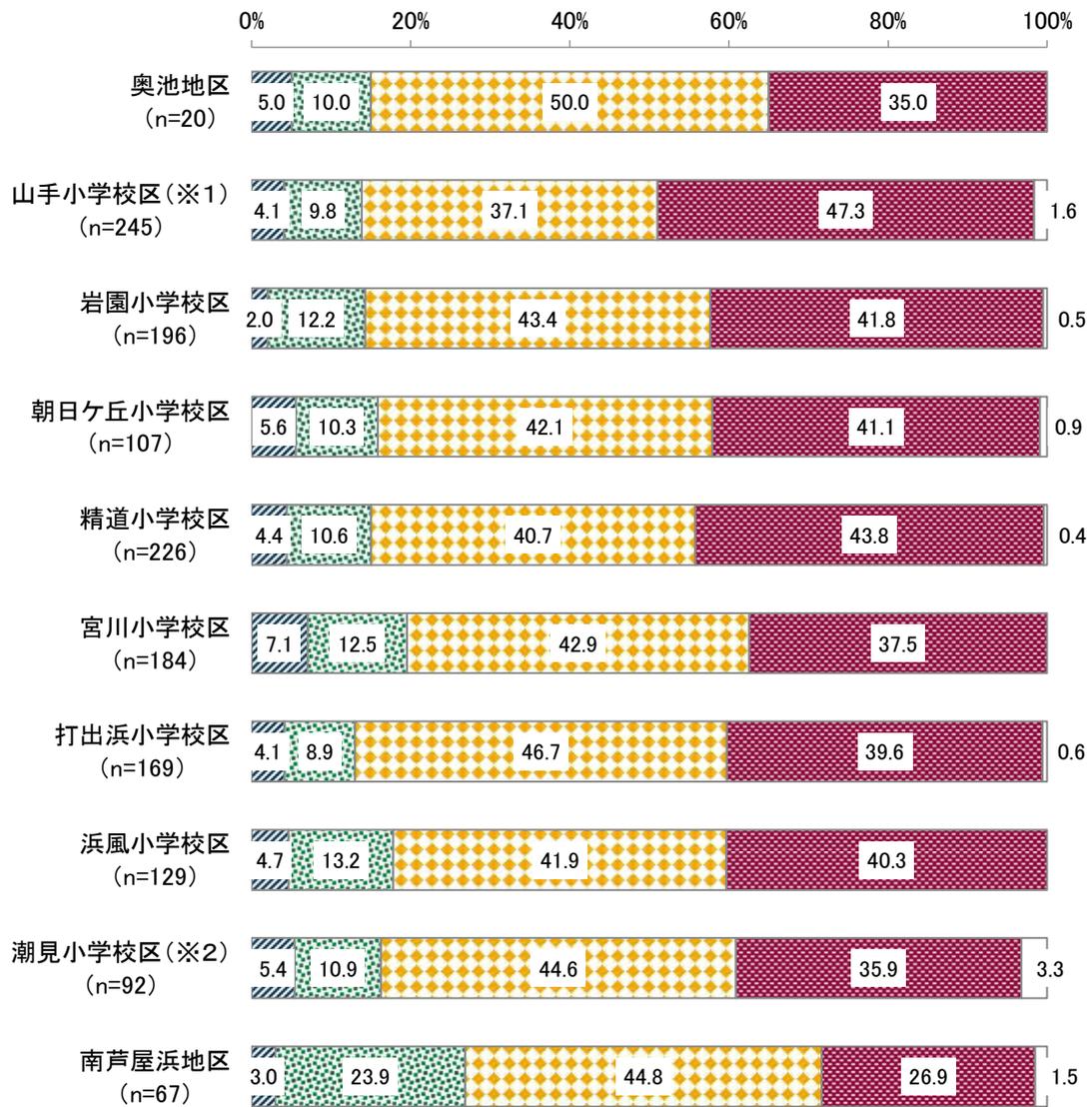
年代別にみると、60代以上は他の年代と比較して、「全くない」の割合が低い傾向にある。また、30代、40代は他の年代と比較して、「一緒に地域活動等をする」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「南芦屋浜地区」は他の地域と比較して、「全くない」の割合が低くなっている。

図表 II-26 日常的に近所の子どもと接する機会（クロス集計）



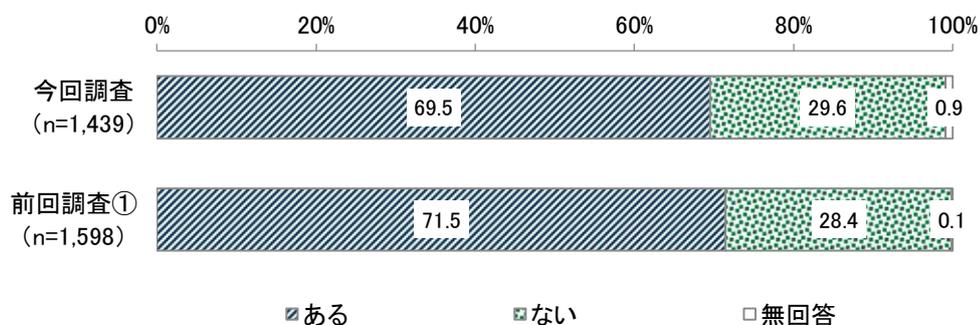




(9) 問 14 家族や親族以外で相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所

「ある」の割合が最も高く 69.5%となっている。次いで、「ない（29.6%）」となっている。
 前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 2 7 家族や親族以外で相談できる人や場所

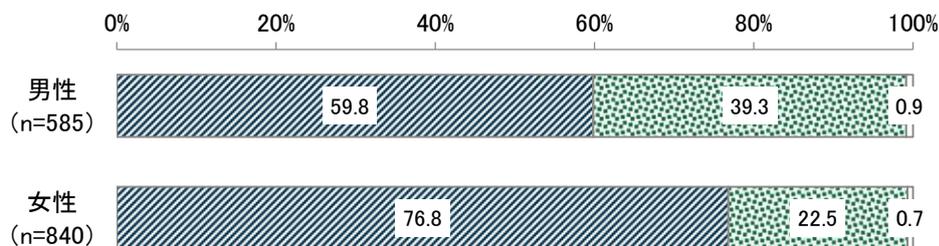


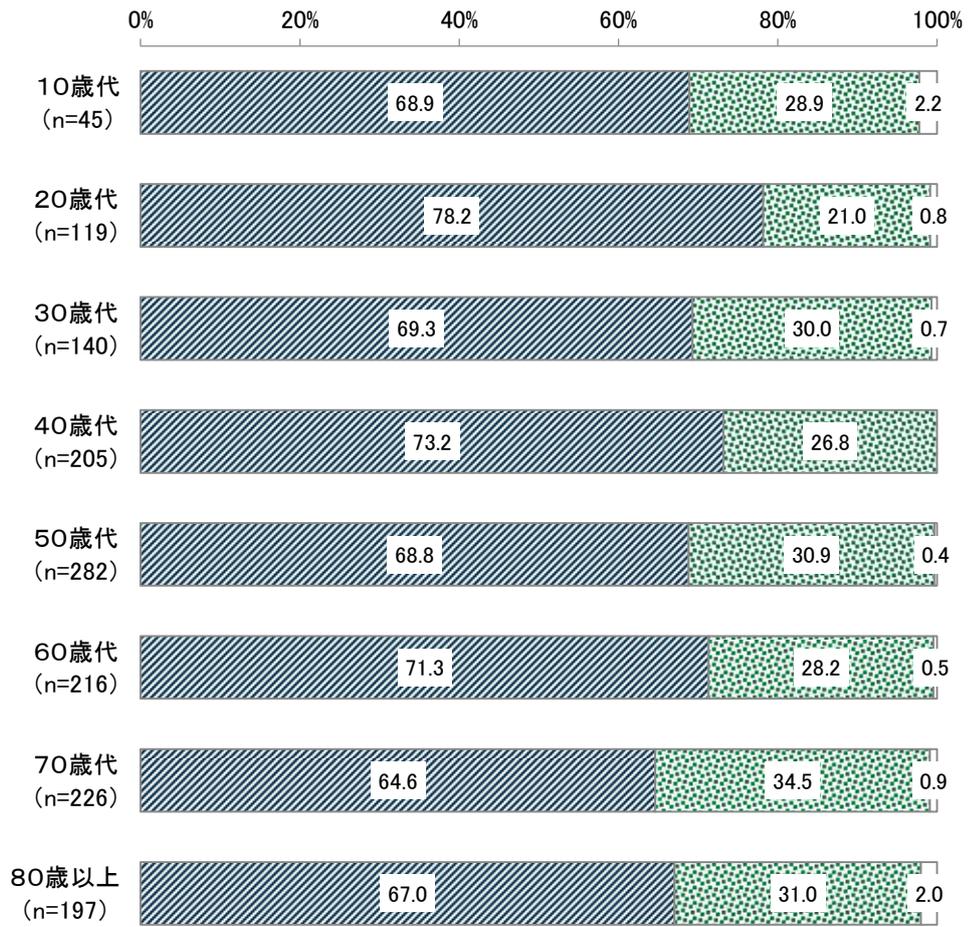
女性は男性よりも家族や親族以外で相談できる人や場所が「ある」と回答した割合が大幅に高くなっている。

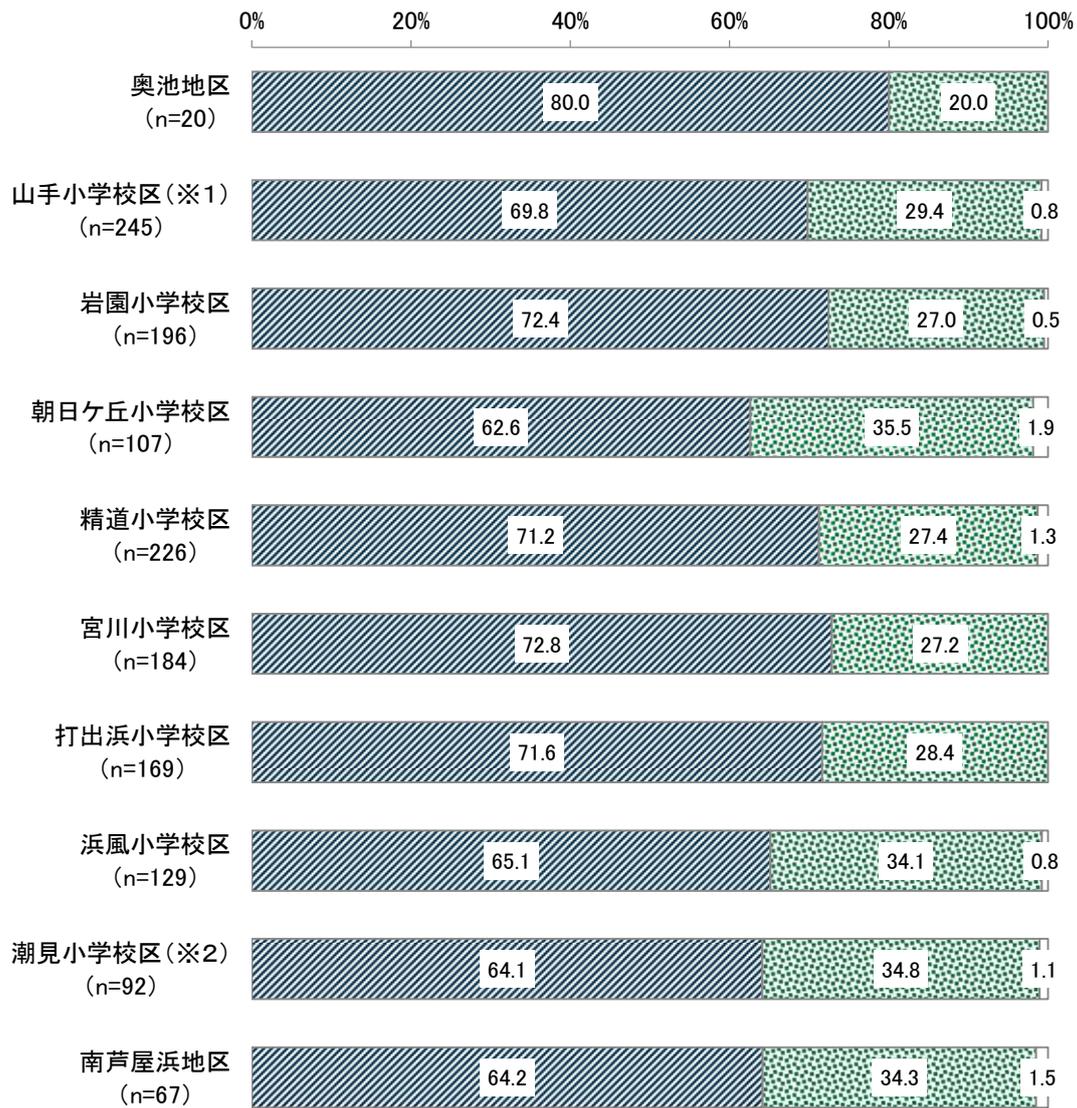
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して「ある」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地区と比較して「ある」の割合が低くなっている。

図表 II- 2 8 家族や親族以外で相談できる人や場所（クロス集計）





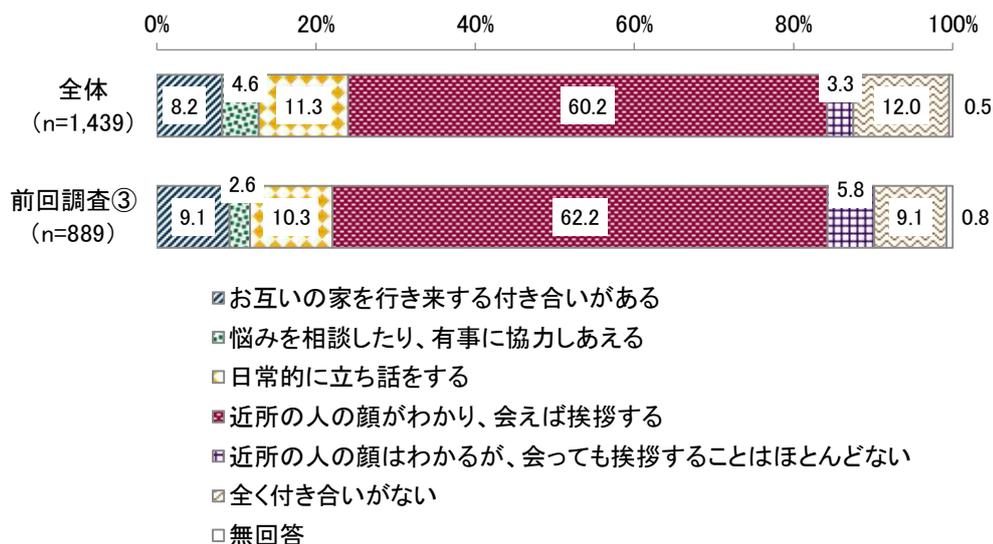


(10) 問 15 地域の人との関わりの程度

「近所の人の顔がわかり、会えば挨拶する」の割合が最も高く 60.2%となっている。次いで、「全く付き合いがない（12.0%）」、「日常的に立ち話をする（11.3%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「全く付き合いがない」の割合が上昇している。

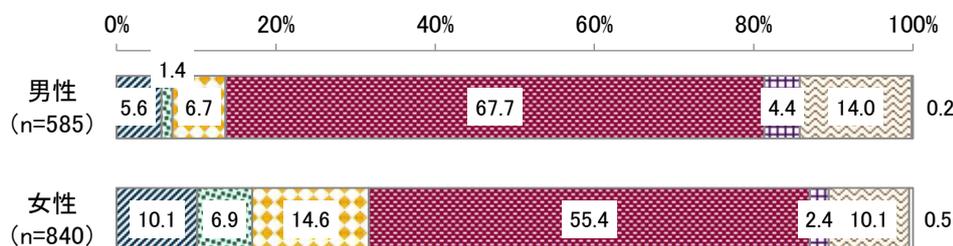
図表 II-29 地域の人との関わりの程度

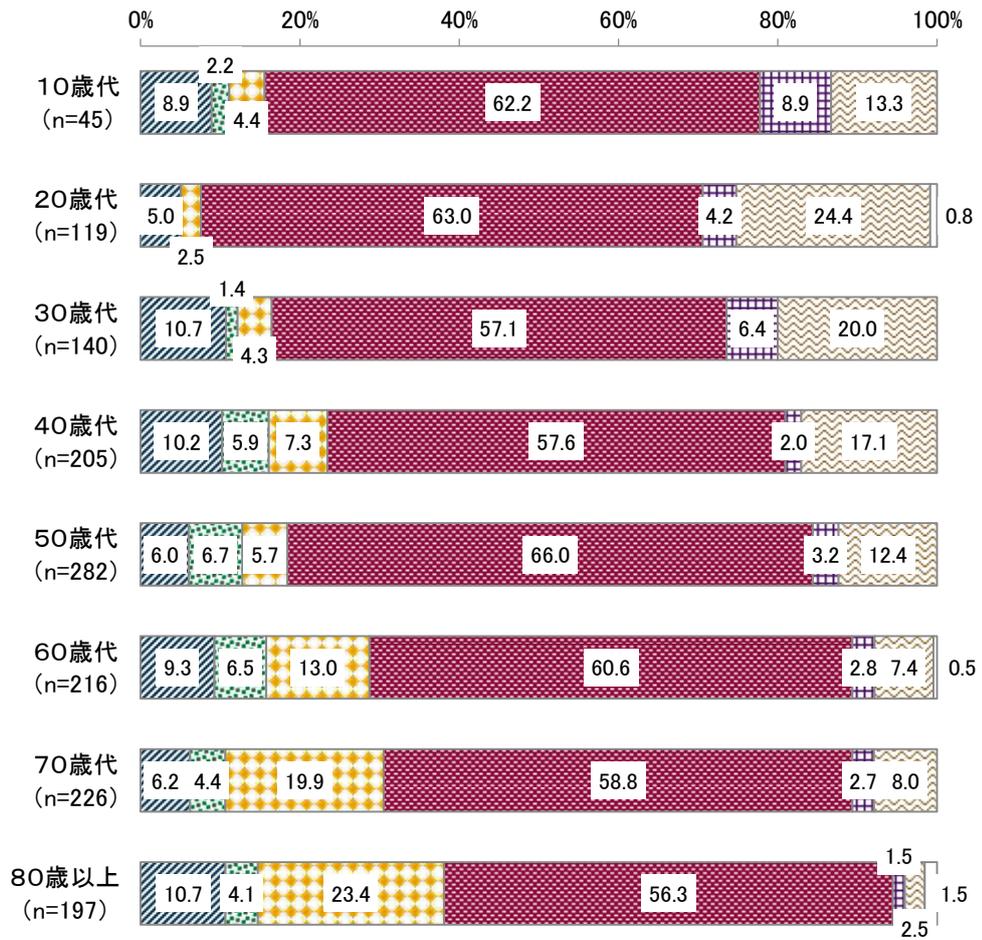


男性は女性よりも、「全く付き合いがない」の割合が大幅に高くなっている。女性は、男性よりも、「お互いの家を行き来する付き合いがある」「悩みを相談したり、有事に協力しあえる」「日常的に立ち話をする」の割合が高くなっている。

年代別にみると、20代は他の年代と比較して「全く付き合いがない」の割合が高くなっている。

図表 II-30 地域の人との関わりの程度（クロス集計）

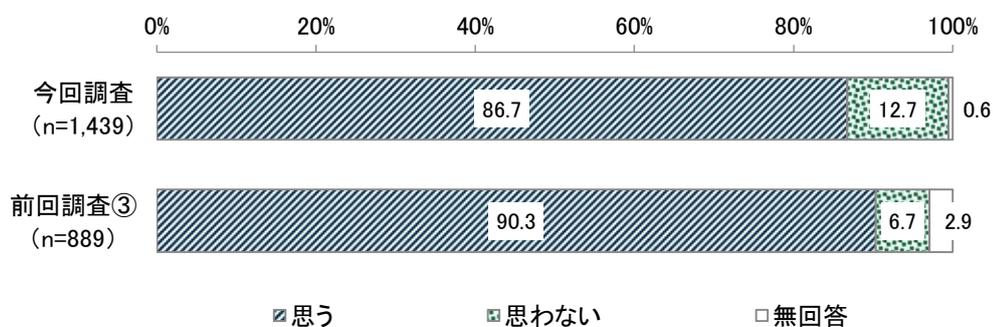




(11) 問 16 地域の人との関わりは必要だと思うか

「思う」の割合が最も高く 86.7%となっている。次いで、「思わない（12.7%）」となっている。前回調査③と比較すると、必要だと「思う」の割合が低下し、「思わない」の割合が上昇している。

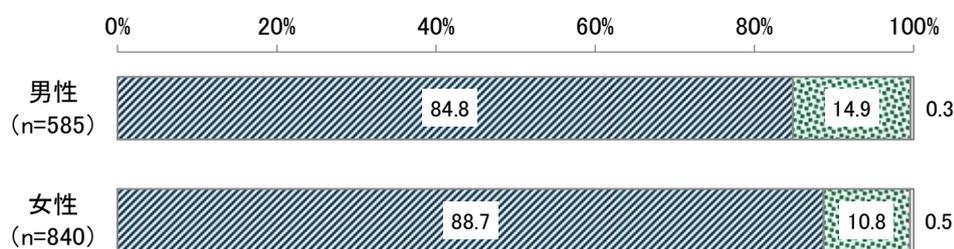
図表 II-3 1 地域の人との関わりは必要だと思うか

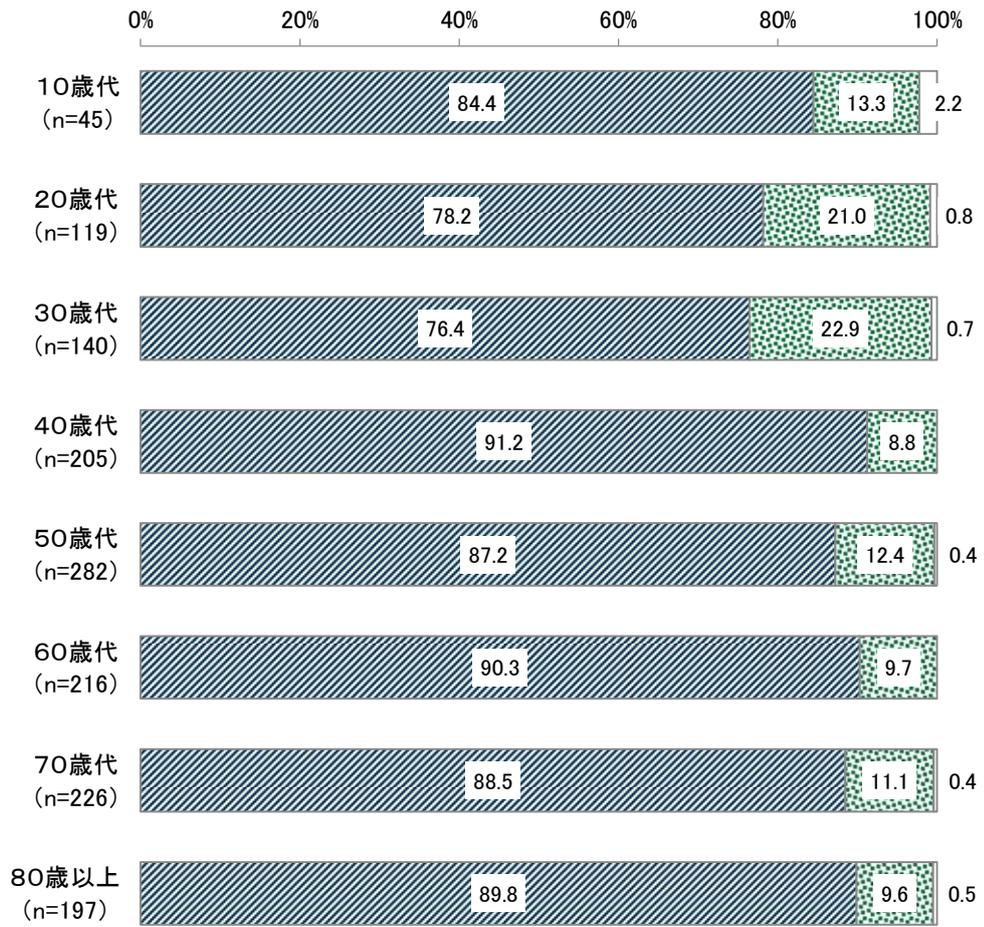


(注) 前回調査③の選択肢は「関わりは必要」「関わりは不必要」となっている。

女性は男性よりも地域の人との関わりが必要だと「思う」と回答した割合が高くなっている。年代別にみると、20代・30代は他の年代と比較して「思う」の割合が低くなっている。

図表 II-3 2 地域の人との関わりは必要だと思うか（クロス集計）



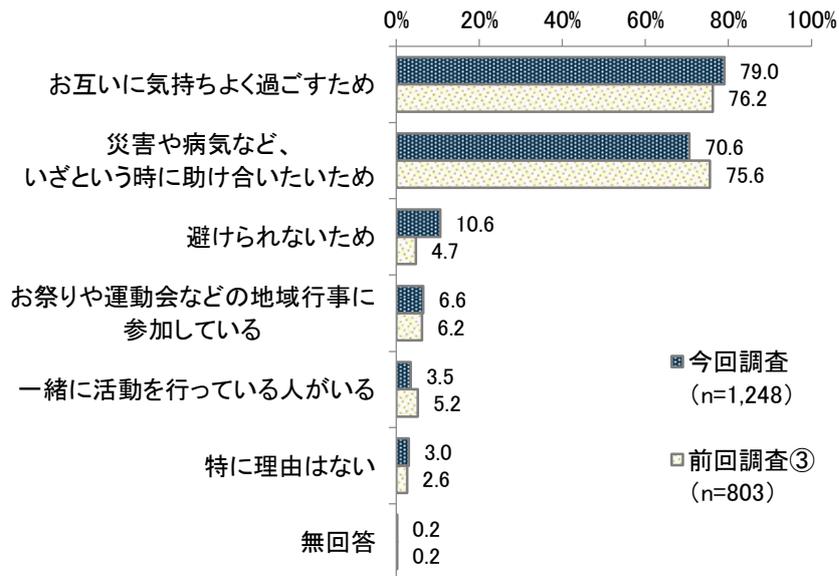


(12) 問 17 地域の人との関わりが必要だと思う理由（3つまで選択）

「お互いに気持ちよく過ごすため」の割合が最も高く 79.0%となっている。次いで、「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため（70.6%）」、「避けられないため（10.6%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため」の割合が減少し、「避けられないため」の割合が上昇している。

図表 II-33 地域の人との関わりが必要だと思う理由



(注) 前回調査③では「関わりは必要」とする理由と「関わりは不必要」とする理由を同一設問で聞いているため、それぞれの回答者を抽出し今回の調査に該当する選択肢の回答のみを比較した。

女性は男性よりも「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため」の割合が高くなっている。
 年代別にみると、30代は他の年代と比較して、「お互いに気持ちよく過ごすため」の割合が高くなっている。

図表 II-34 地域の人との関わりが必要だと思う理由（クロス集計）

(%)

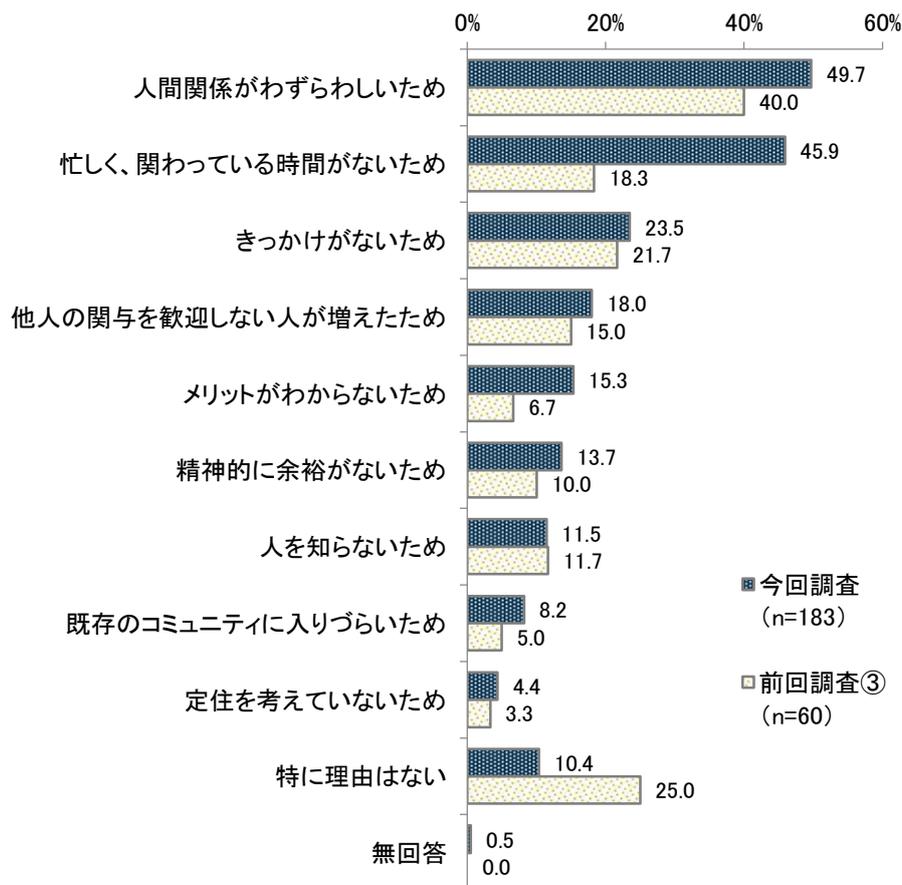
		調査数	いざという時に助け合いたいため	災害や病気など、助け合い	お互いに気持ちよく	過ごすため	避けられないため	お祭りや運動会など、地域行事に参加している	一緒に活動を行っている	特に理由はない	無回答
市全体		1,248	70.6	79.0	10.6	6.6	3.5	3.0	0.2		
性別	男性	496	65.3	78.4	12.9	6.7	2.8	4.0	0.2		
	女性	745	74.1	79.7	9.0	6.4	4.0	2.4	0.3		
年代別	10歳代	38	65.8	73.7	15.8	15.8	0.0	5.3	0.0		
	20歳代	93	74.2	78.5	21.5	3.2	0.0	2.2	0.0		
	30歳代	107	68.2	87.9	7.5	9.3	0.0	0.9	0.0		
	40歳代	187	70.1	77.5	12.3	9.1	1.6	2.7	0.0		
	50歳代	246	73.6	81.3	11.0	5.3	1.6	2.0	0.0		
	60歳代	195	76.4	77.9	6.7	2.6	5.1	3.1	0.5		
	70歳代	200	72.0	76.5	9.5	7.5	6.5	4.5	0.0		
	80歳以上	177	59.9	77.4	8.5	7.3	7.9	4.5	1.1		

(13) 問 18 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（3つまで選択）

「人間関係がわずらわしいため」の割合が最も高く 49.7%となっている。次いで、「忙しく、関わっている時間がないため（45.9%）」、「きっかけがないため（23.5%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が大幅に上昇しているほか、「人間関係がわずらわしいため」「他人の関与を歓迎しない人が増えたため」「メリットがわからないため」「精神的に余裕がないため」の割合が上昇している。

図表 II-35 地域の人との関わりが不必要だと思う理由



(注) 前回調査③では「関わりは必要」とする理由と「関わりは不必要」とする理由を同一設問で聞いているため、それぞれの回答者を抽出し今回の調査に該当する選択肢の回答のみを比較した。

男性は女性よりも、「きっかけがないため」の割合が高くなっている。女性は男性よりも、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30代から60代は、他の年代と比較して、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が高くなっている。

図表 II-3 6 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（クロス集計）

(%)

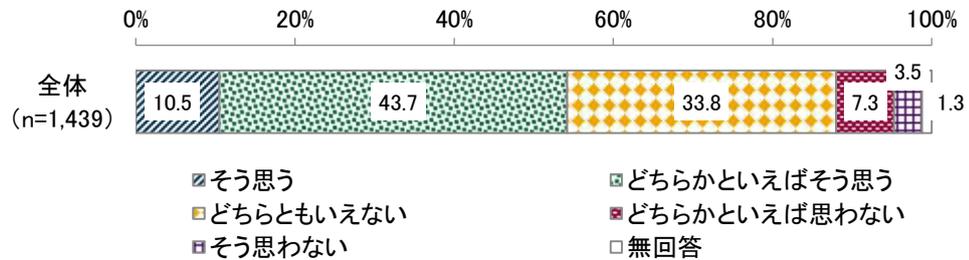
		調査数	きっかけがないため	人を知らないため	忙しく、関わっている時間がないため	精神的に余裕がないため	メリツトがわからないため	人間関係がわずらわしいため	既存のコミュニティに入りにくい
市全体		183	23.5	11.5	45.9	13.7	15.3	49.7	8.2
性別	男性	87	28.7	12.6	43.7	16.1	14.9	51.7	10.3
	女性	91	18.7	9.9	48.4	12.1	13.2	48.4	6.6
年代別	10歳代	6	66.7	0.0	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7
	20歳代	25	44.0	8.0	36.0	4.0	32.0	44.0	8.0
	30歳代	32	28.1	15.6	56.3	18.8	21.9	46.9	9.4
	40歳代	18	5.6	16.7	66.7	11.1	5.6	61.1	11.1
	50歳代	35	22.9	5.7	54.3	20.0	14.3	60.0	11.4
	60歳代	21	28.6	19.0	52.4	19.0	4.8	57.1	0.0
	70歳代	25	16.0	16.0	28.0	4.0	8.0	48.0	8.0
	80歳以上	19	0.0	5.3	21.1	10.5	15.8	36.8	0.0

		他人の関与を歓迎しない	定住を考えていないため	特に理由はない	無回答
市全体		18.0	4.4	10.4	0.5
性別	男性	17.2	5.7	6.9	0.0
	女性	19.8	2.2	14.3	1.1
年代別	10歳代	0.0	0.0	16.7	0.0
	20歳代	8.0	12.0	8.0	0.0
	30歳代	18.8	6.3	0.0	0.0
	40歳代	27.8	5.6	0.0	0.0
	50歳代	22.9	2.9	2.9	0.0
	60歳代	23.8	0.0	4.8	4.8
	70歳代	20.0	4.0	28.0	0.0
	80歳以上	5.3	0.0	36.8	0.0

(14) 問 19 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか

「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く 43.7%となっている。次いで、「どちらともいえない (33.8%)」、「そう思う (10.5%)」となっている。

図表 II-37 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか

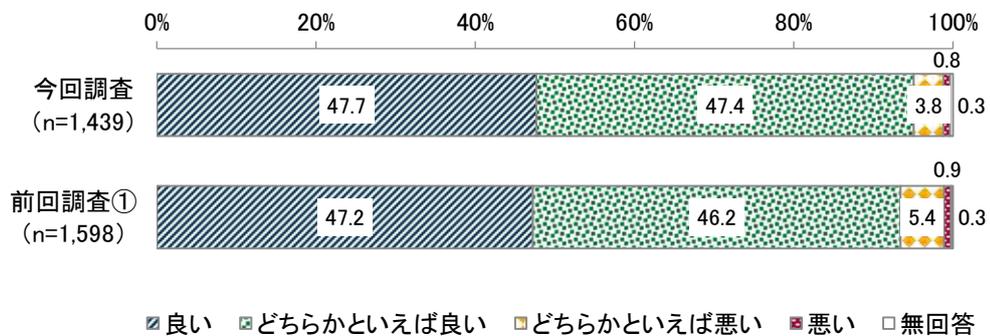


(15) 問 20 地域のまちなみやまちなかの緑の景観

「良い」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「どちらかといえば良い (47.4%)」、「どちらかといえば悪い (3.8%)」となっている。

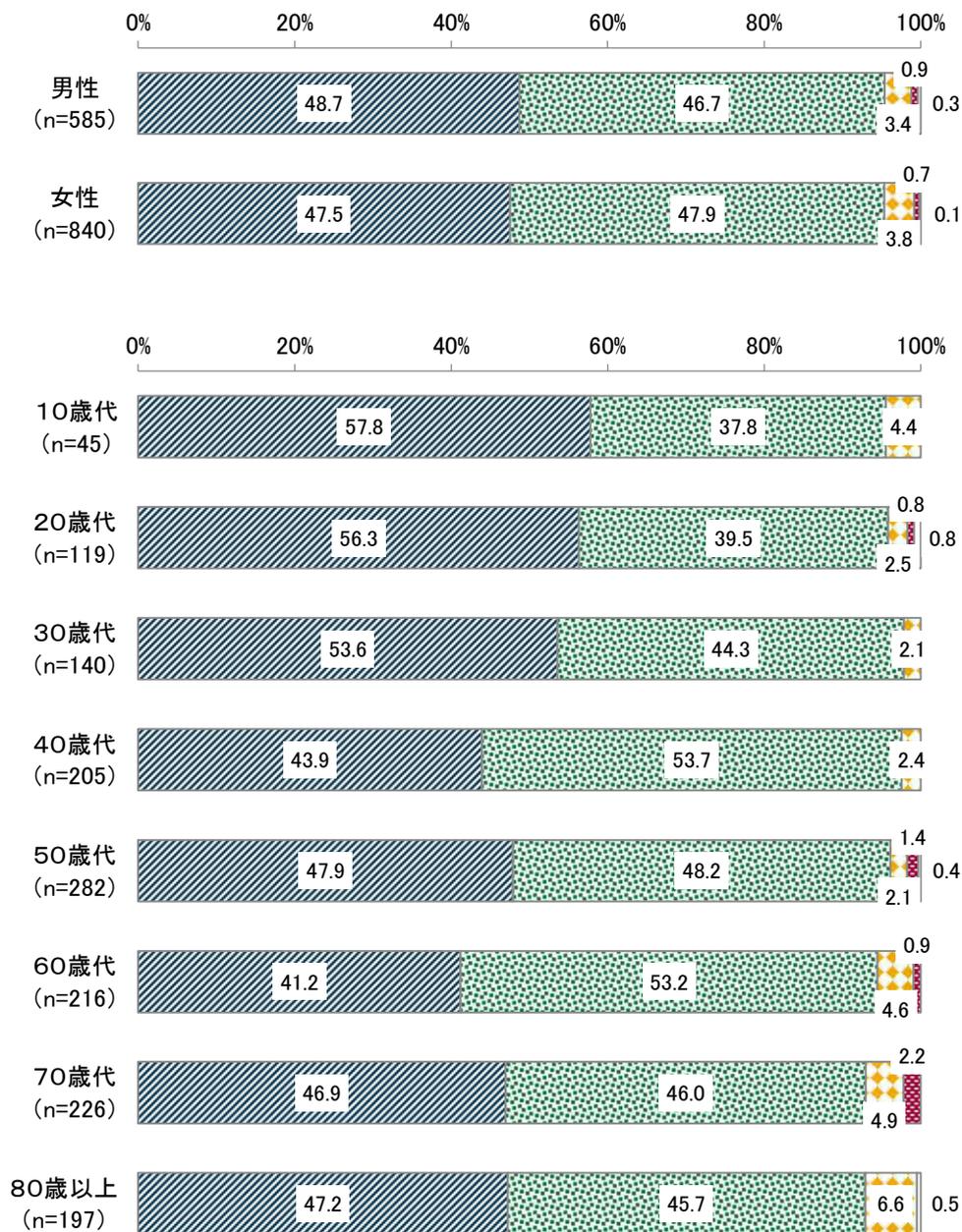
前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

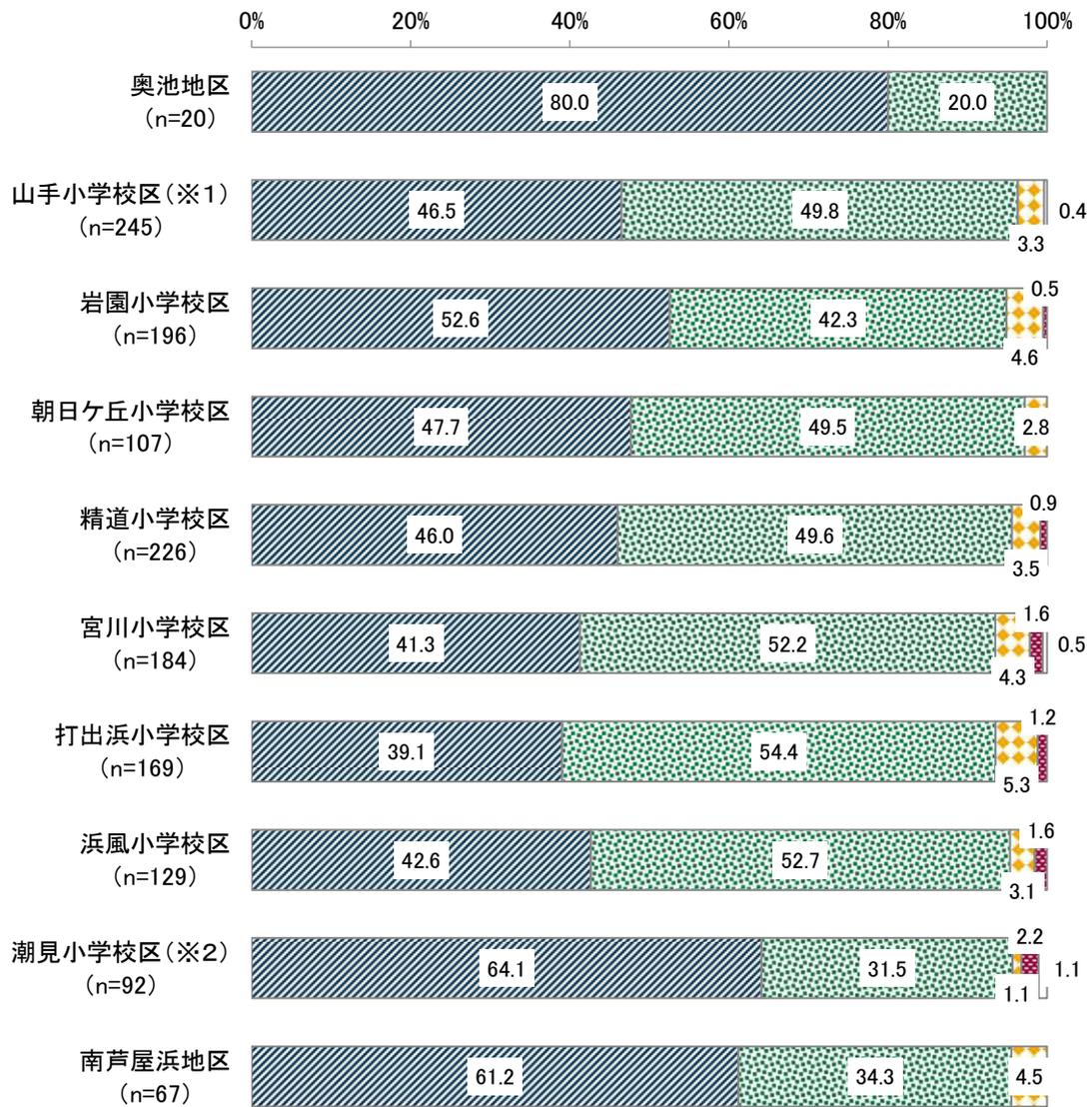
図表 II-38 地域のまちなみやまちなかの緑の景観



男女で大きな差異は見られない。
 年代別にみると、10代から30代はそれ以上の年代と比較して、「良い」の割合が高くなっている。
 地域別にみると、潮見小学校区、南芦屋浜地区は他の地域と比較して「良い」の割合が高くなっている。

図表 II-39 地域のまちなみやまちなかの緑の景観（クロス集計）



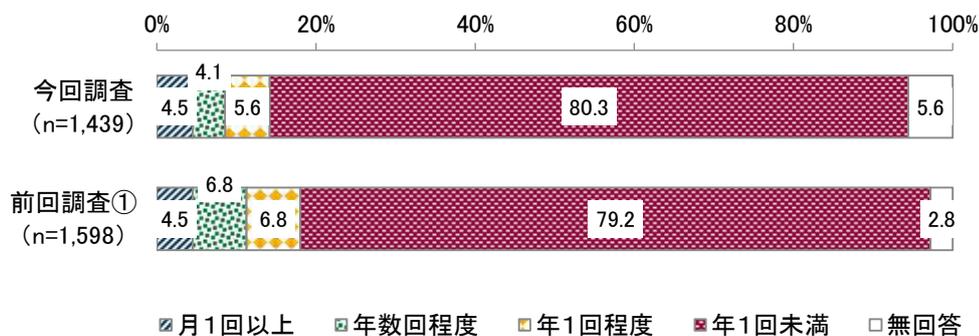


(16) 問 21 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度

「年1回未満」の割合が最も高く 80.3%となっている。次いで、「年1回程度（5.6%）」、「月1回以上（4.5%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「年1回以上」の割合が低下している。

図表 II-4 0 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度

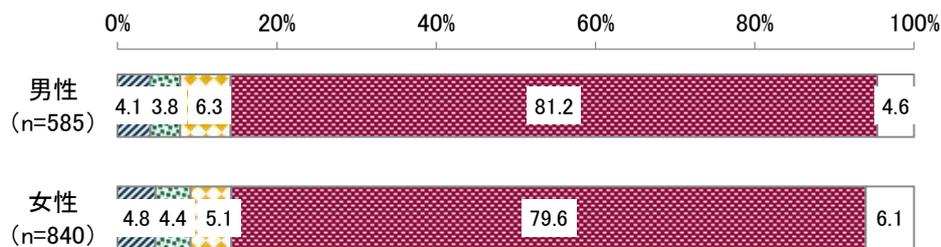


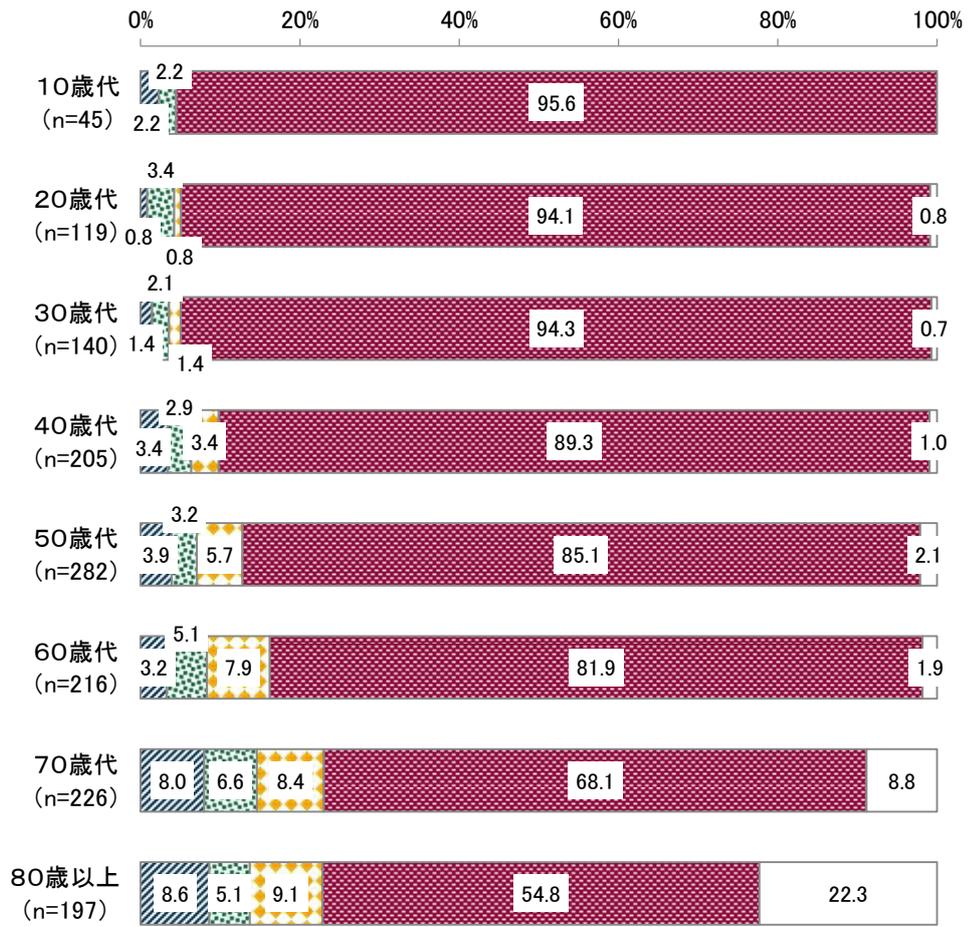
男女で活動への参加頻度に大きな差異は見られない。

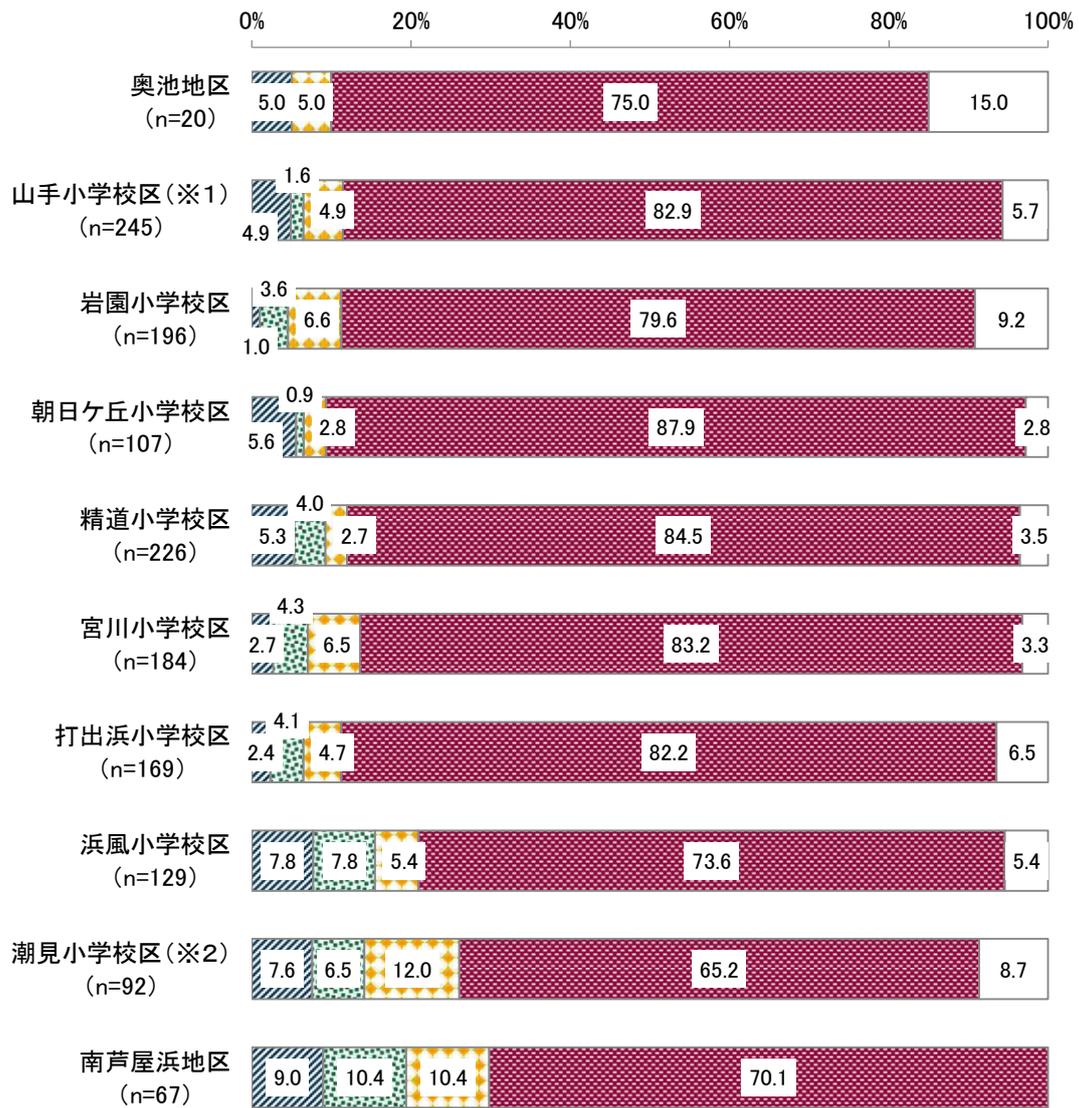
年代別にみると、年代が上がるにつれ、「年1回未満」の割合が低くなっている。

地域別にみると、「浜風小学校区」「潮見小学校区」「南芦屋浜地区」は他の地域と比較して、年1回程度以上活動に参加していると回答した割合が高くなっている。

図表 II-4 1 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度（クロス集計）





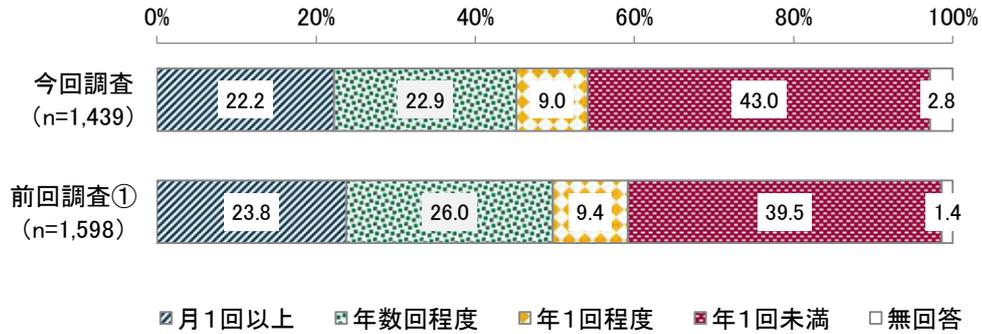


(17) 問 22 市内の公園の利用頻度

「年 1 回未満」の割合が最も高く 43.0%となっている。次いで、「年数回程度（22.9%）」、「月 1 回以上（22.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「年数回程度」の割合が低下している。

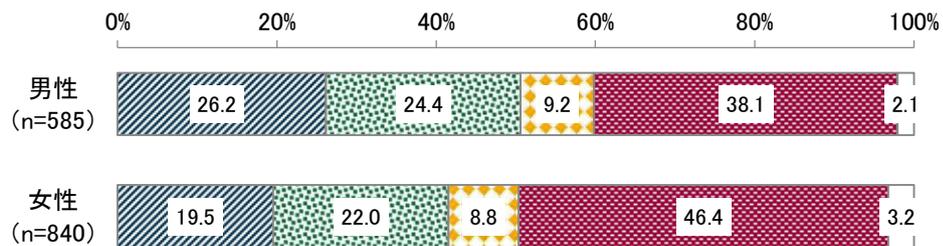
図表 II-4 2 市内の公園の利用頻度

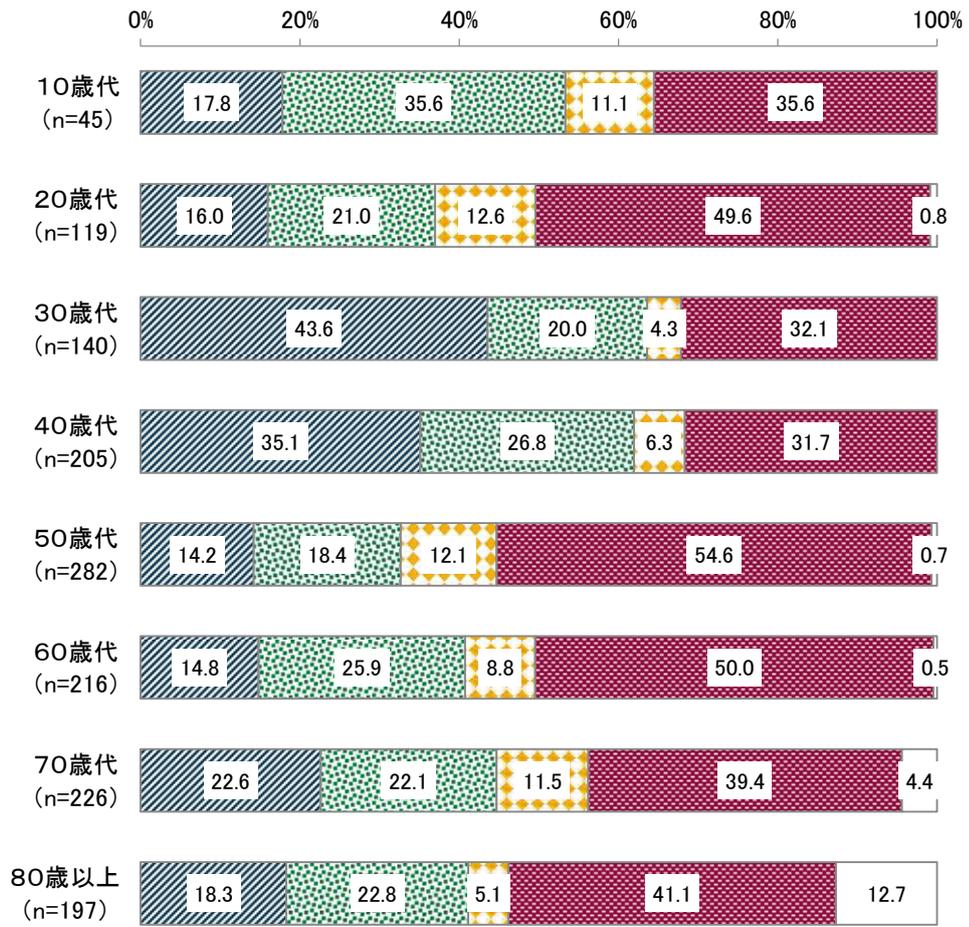


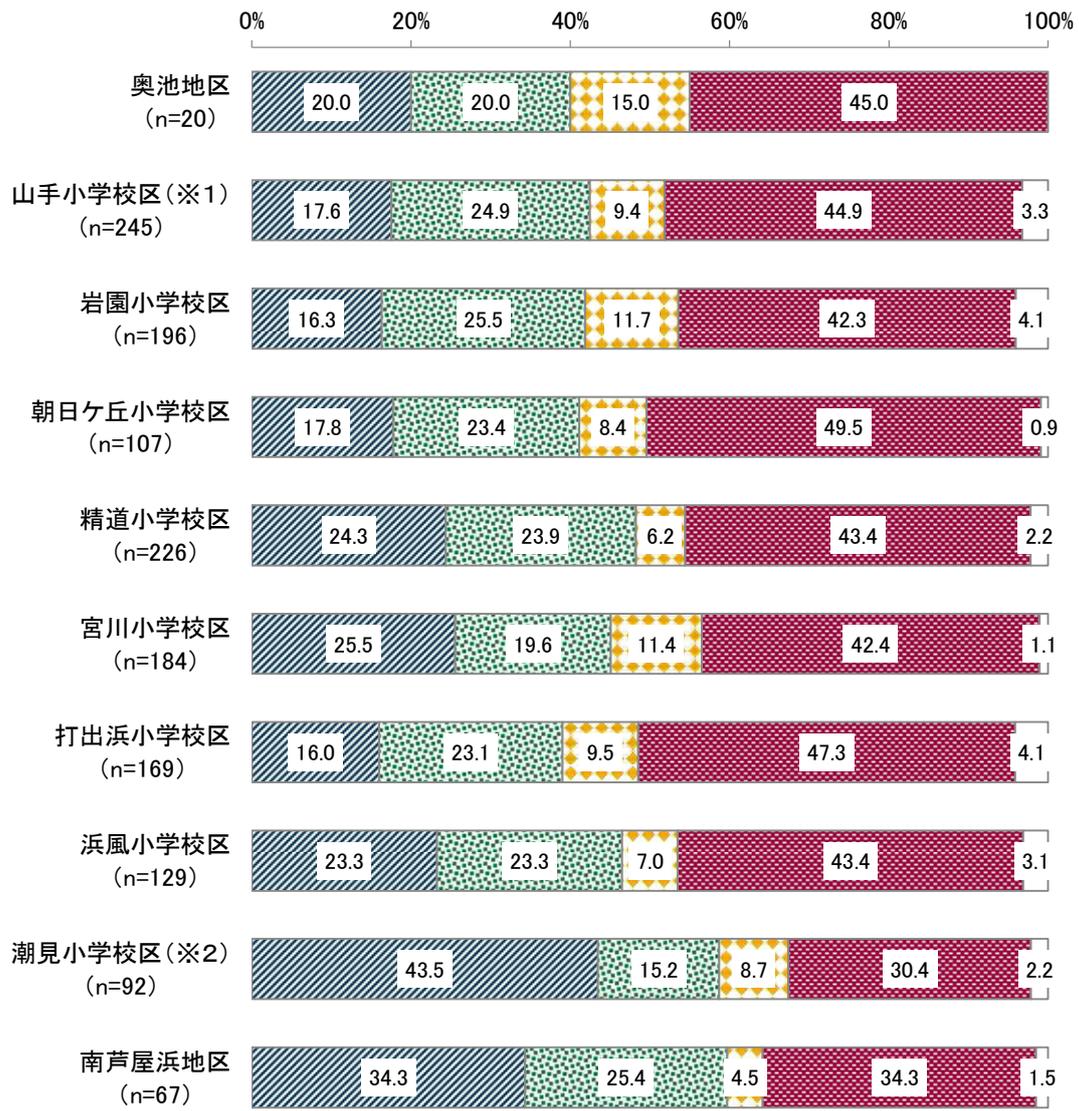
男性は女性よりも「月 1 回以上」利用している割合が高く、「年 1 回未満」の割合が低くなっている。年代別にみると、30 代、40 代は他の年代と比較して「月 1 回以上」利用している割合が非常に高く、「年 1 回未満」の割合が非常に低くなっている。

地域別にみると、「潮見小学校区」「南芦屋浜地区」は他の地域と比較して「年 1 回未満」の割合が低くなっている。

図表 II-4 3 市内の公園の利用頻度（クロス集計）





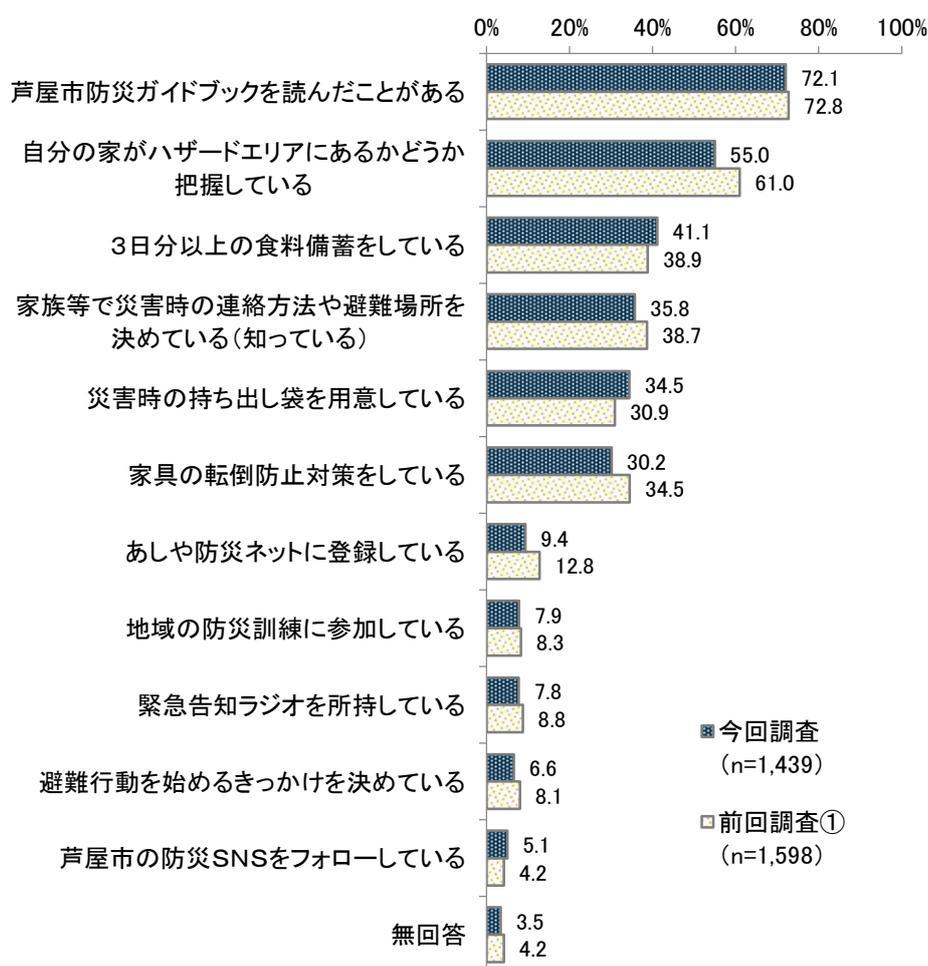


(18) 問 23 自然災害に対する日頃からの備え（複数選択）

「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」の割合が最も高く 72.1%となっている。次いで、「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している（55.0%）」、「3日以上の食料備蓄をしている（41.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「災害時の持ち出し袋を用意している」の割合が上昇している一方で、「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」「家具の転倒防止対策をしている」「あしや防災ネットに登録している」の割合が低下している。

図表 II-4 4 自然災害に対する日頃からの備え



男性は女性よりも「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」「あしや防災ネットに登録している」「家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている（知っている）」「災害時の持ち出し袋を用意している」割合が低くなっている。

年代別にみると、60代以上は、他の年代と比較して、「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」割合が高くなっている。また、40代は、他の年代と比較して、「あしや防災ネットに登録している」割合が高くなっている。10代と80歳以上は、「緊急告知ラジオを所持している」割合が高くなっている。また、10代と20代は「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」割合が低くなっている。

地区別にみると、「朝日ヶ丘小学校区」「浜風小学校区」は他の地区と比較して、「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」「家具の転倒防止対策をしている」「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」割合が低くなっている。

図表 II-4 5 自然災害に対する日頃からの備え (クロス集計)

(%)

		調査数	芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある	芦屋市防災ネットワークに登録している	芦屋市の防災Sをフォローしている	緊急告知ラジオを所持している	家具の転倒防止対策をしている	家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている(知っている)	災害時の持ち出し袋を用意している
市全体		1,439	72.1	9.4	5.1	7.8	30.2	35.8	34.5
性別	男性	585	66.0	6.7	4.1	7.2	30.1	33.2	30.6
	女性	840	76.5	11.3	5.8	8.2	30.6	37.9	37.4
年代別	10歳代	45	35.6	4.4	2.2	15.6	17.8	46.7	37.8
	20歳代	119	47.1	4.2	5.0	4.2	29.4	42.0	36.1
	30歳代	140	55.0	4.3	2.9	2.1	27.1	31.4	42.9
	40歳代	205	69.3	17.6	6.8	5.9	30.2	42.0	39.5
	50歳代	282	73.4	11.7	6.4	5.0	29.4	37.6	32.3
	60歳代	216	83.8	10.2	4.2	10.2	26.4	39.8	32.9
	70歳代	226	84.5	8.0	4.4	9.7	34.1	31.9	27.9
	80歳以上	197	82.2	5.6	5.1	13.7	36.5	23.9	34.0
居住地区	奥池地区	20	85.0	15.0	5.0	10.0	35.0	35.0	25.0
	山手小学校区(※1)	245	73.5	7.8	5.7	6.1	26.9	29.0	31.4
	岩園小学校区	196	73.0	11.7	5.6	8.7	26.0	34.2	33.2
	朝日ヶ丘小学校区	107	64.5	6.5	4.7	7.5	24.3	36.4	33.6
	精道小学校区	226	73.0	6.6	6.2	8.4	37.2	40.3	38.1
	宮川小学校区	184	71.2	12.5	4.9	7.1	27.2	37.5	34.8
	打出浜小学校区	169	74.0	5.3	3.6	9.5	36.1	42.6	36.1
	浜風小学校区	129	65.1	10.9	3.9	7.0	23.3	33.3	32.6
	潮見小学校区(※2)	92	77.2	9.8	4.3	8.7	37.0	32.6	30.4
	南芦屋浜地区	67	74.6	19.4	6.0	6.0	37.3	38.8	47.8

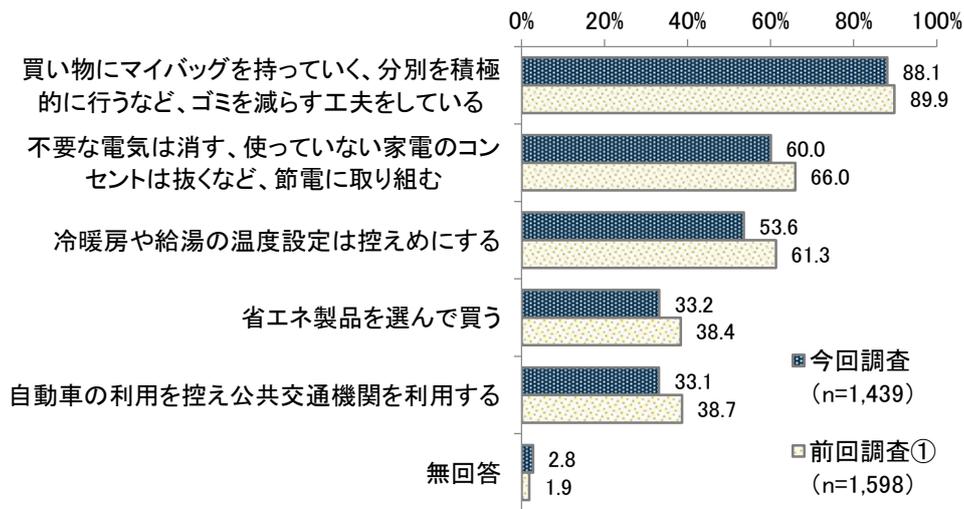
		3日分の食料を以ての準備	あらかじめるか	自分の家がハザードがあるか把握している	避難行動の開始を決めている	地域の防災訓練に参加している	無回答
市全体		41.1	55.0	6.6	7.9	3.5	
性別	男性	39.8	56.6	6.7	6.5	3.2	
	女性	42.1	54.3	6.5	8.9	3.3	
年代別	10歳代	37.8	42.2	13.3	4.4	4.4	
	20歳代	36.1	40.3	6.7	1.7	7.6	
	30歳代	37.9	51.4	4.3	2.1	5.0	
	40歳代	35.6	62.0	4.4	5.9	3.4	
	50歳代	44.3	58.2	6.4	8.2	2.5	
	60歳代	40.7	60.6	6.9	9.7	0.9	
	70歳代	41.2	59.7	9.7	12.8	2.2	
	80歳以上	48.7	45.7	5.1	10.7	4.6	
居住地区	奥池地区	70.0	80.0	10.0	20.0	0.0	
	山手小学校区(※1)	44.1	55.9	5.3	4.9	5.3	
	岩園小学校区	40.3	58.2	4.6	5.1	4.1	
	朝日ヶ丘小学校区	45.8	50.5	4.7	6.5	6.5	
	精道小学校区	38.5	59.7	6.2	4.9	1.8	
	宮川小学校区	35.3	54.9	8.2	7.6	2.2	
	打出浜小学校区	43.2	56.2	8.9	12.4	2.4	
	浜風小学校区	38.0	45.7	8.5	11.6	3.1	
	潮見小学校区(※2)	38.0	47.8	3.3	12.0	4.3	
	南芦屋浜地区	47.8	55.2	10.4	11.9	0.0	

(19) 問 24 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（複数選択）

「買い物にマイバッグを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」の割合が最も高く88.1%となっている。次いで、「不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む（60.0%）」、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする（53.6%）」となっている。」

前回調査①と比較すると、すべての取組について、できていると回答した割合が低下している。

図表 II-4 6 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること



(注) 前回調査①では「買い物には、マイバッグを持っていく」だったものが今回は「買い物にマイバッグを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」になっている。

女性は男性よりも、取り組めていると回答した割合が全体を通じて高くなっている。特に、「買い物に枚バックを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」の割合が高くなっている。

年代別にみると、年代が高くなるにつれ、取り組めていると回答した割合が全体的に高くなっている。特に、60代以上は他の年代と比較して、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「潮見小学校区」は他の地区と比較して、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」「自動車の利用を控え公共交通機関を利用する」の割合が高くなっている。

図表 II-47 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（クロス集計）

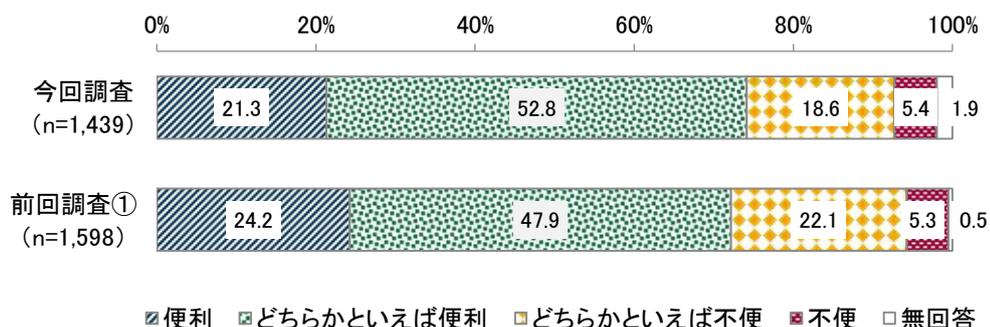
		調査数	ゴミを減らす工夫をしている	買い物にマイバッグを持っている	冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする	不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む	省エネ製品を選んで買う	自動車の利用を控え公共交通機関を利用する	無回答
市全体		1,439	88.1	53.6	60.0	33.2	33.1	2.8	
性別	男性	585	83.6	46.2	58.3	30.9	31.1	4.1	
	女性	840	91.8	58.9	61.3	34.9	34.6	1.7	
上記に当てはまらない		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
答えたくない		11	63.6	45.5	63.6	27.3	36.4	0.0	
年代別	10歳代	45	71.1	31.1	37.8	13.3	35.6	4.4	
	20歳代	119	73.9	37.0	49.6	15.1	31.9	6.7	
	30歳代	140	85.0	37.1	51.4	20.7	27.1	5.0	
	40歳代	205	88.3	42.0	55.6	32.7	22.4	3.4	
	50歳代	282	90.1	52.1	63.5	38.7	32.3	2.5	
	60歳代	216	92.6	61.6	65.3	41.2	35.2	1.4	
	70歳代	226	89.8	66.4	61.9	39.8	37.6	0.9	
	80歳以上	197	93.9	71.1	70.6	34.0	43.1	1.0	
居住地区	奥池地区	20	90.0	45.0	50.0	60.0	5.0	5.0	
	山手小学校区(※1)	245	89.4	57.6	59.6	32.7	38.4	2.0	
	岩園小学校区	196	89.3	50.0	58.2	34.2	34.2	2.6	
	朝日ヶ丘小学校区	107	83.2	52.3	57.9	28.0	29.0	5.6	
	精道小学校区	226	87.6	54.0	63.3	31.9	34.1	2.7	
	宮川小学校区	184	85.9	47.3	58.2	32.6	31.0	3.8	
	打出浜小学校区	169	89.9	60.4	59.2	34.9	33.1	0.6	
	浜風小学校区	129	83.7	46.5	58.9	30.2	28.7	3.1	
	潮見小学校区(※2)	92	92.4	63.0	64.1	37.0	44.6	1.1	
南芦屋浜地区	67	95.5	55.2	67.2	37.3	22.4	3.0		

(20) 問 25 交通手段に関わらない市内の移動の利便性

「どちらかといえば便利」の割合が最も高く 52.8%となっている。次いで、「便利（21.3%）」、「どちらかといえば不便（18.6%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「便利」の割合が低下している一方で、「どちらかといえば便利」の割合は増加し、「どちらかといえば不便」の割合は低下している。

図表 II-4 8 交通手段に関わらない市内の移動の利便性

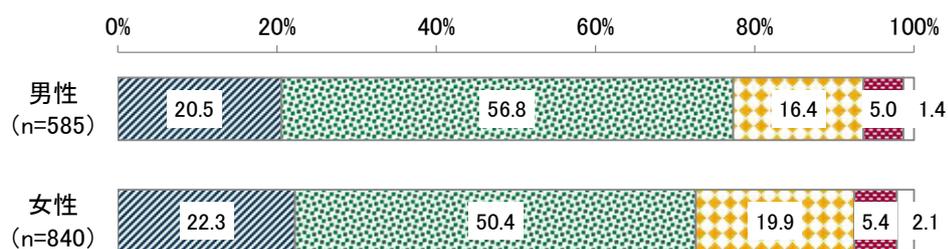


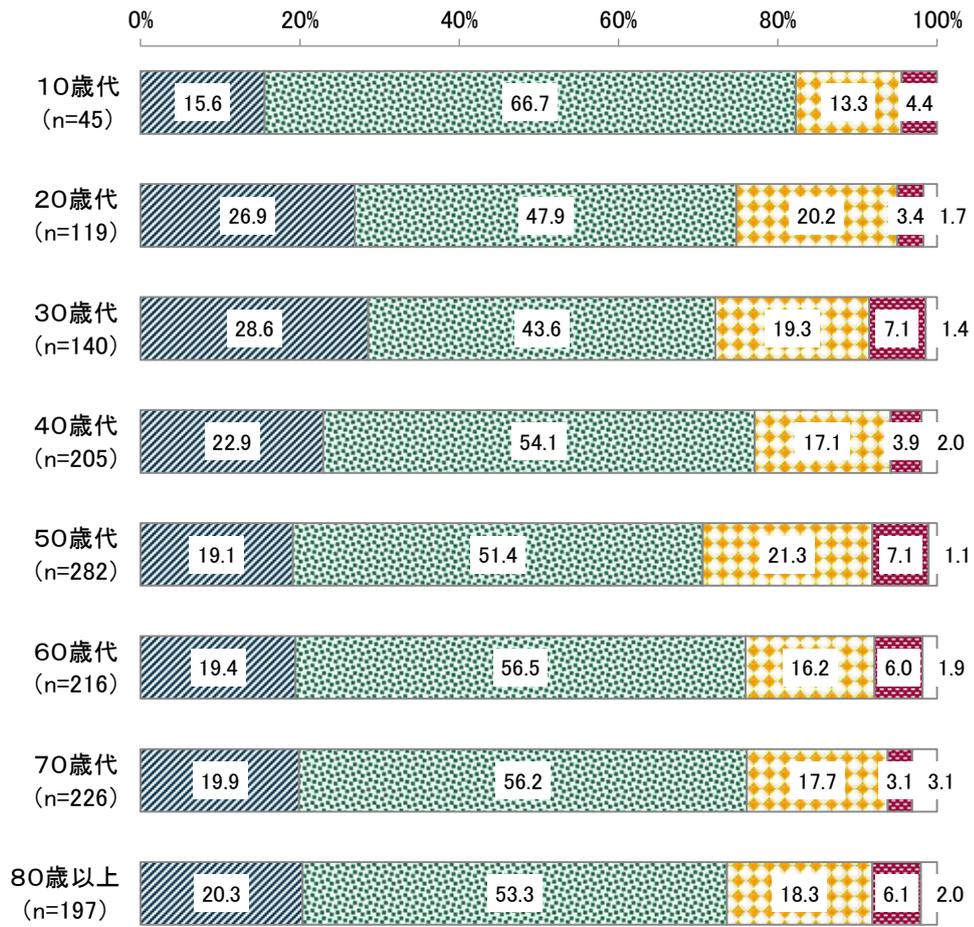
女性は男性よりも「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。

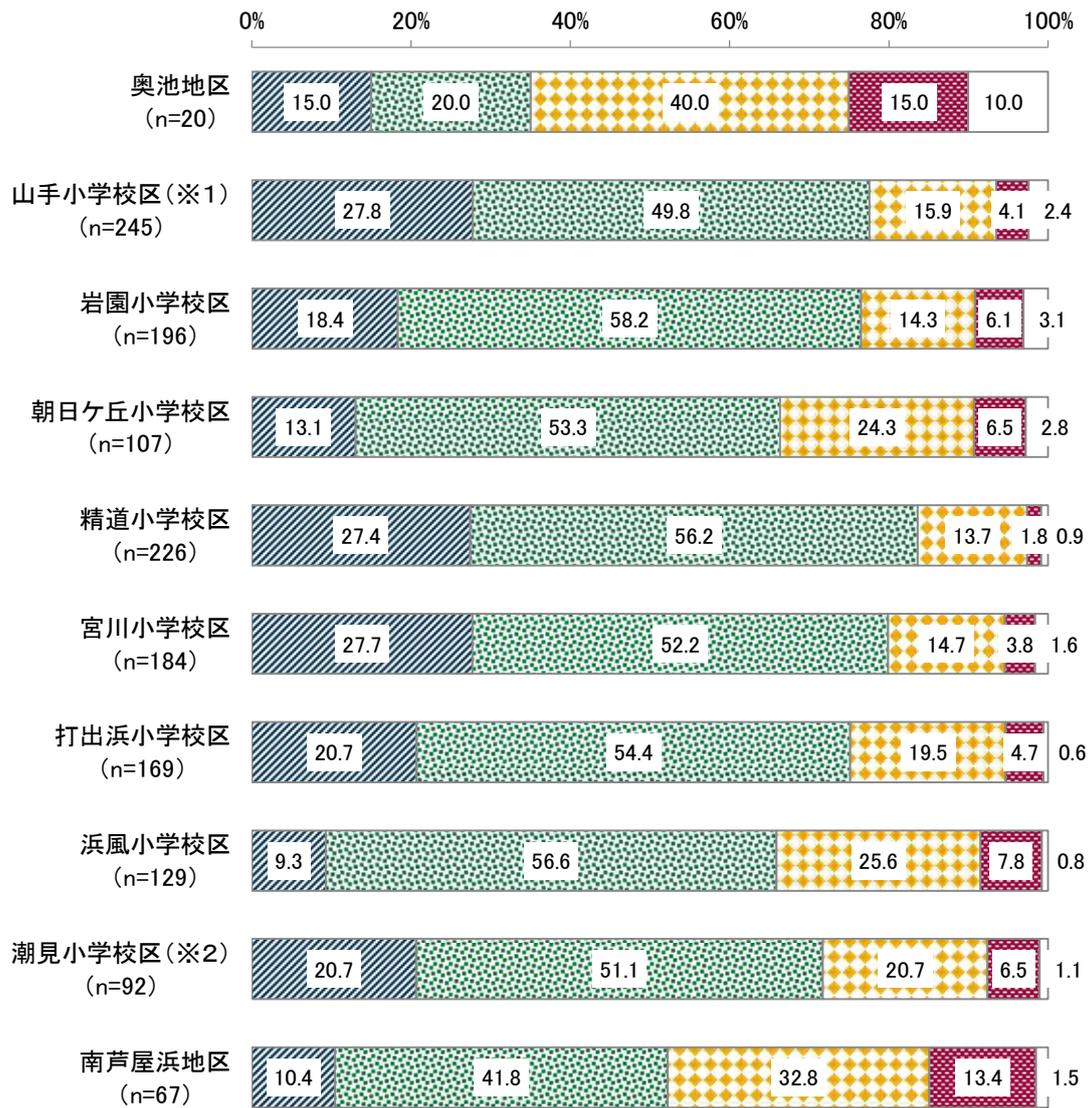
年代別にみると、50代は他の年代と比較して、「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「南芦屋浜地区」は、他の地区と比較して「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。「精道小学校区」は、他の地区と比較して、「どちらかといえば不便」「不便」の割合が低くなっている。

図表 II-4 9 交通手段に関わらない市内の移動の利便性（クロス集計）







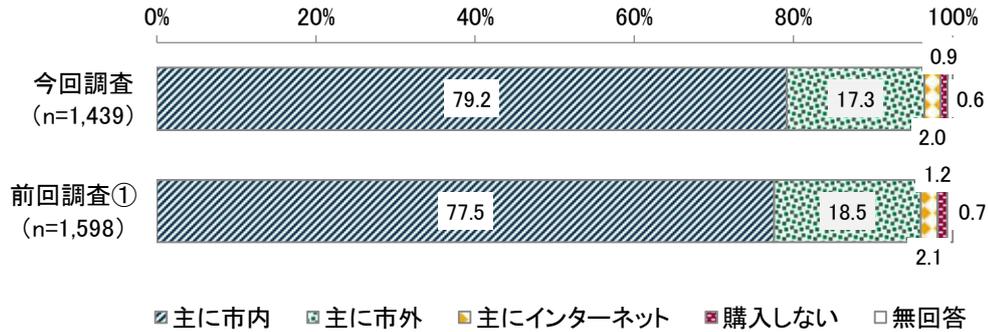
(21) 問 26 生活用品の購入場所

① 食料品

「主に市内」の割合が最も高く 79.2%となっている。次いで、「主に市外（17.3%）」、「主にインターネット（2.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-50 食料品の購入

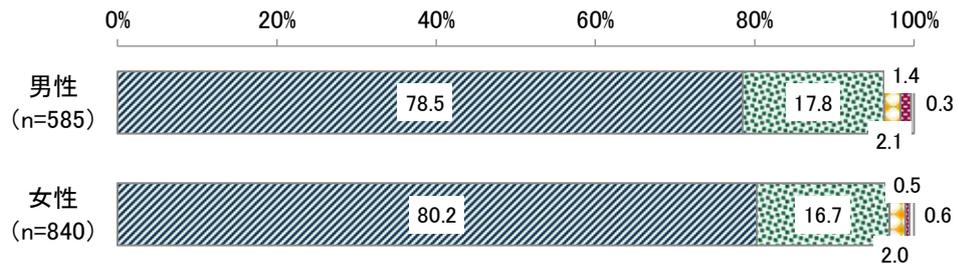


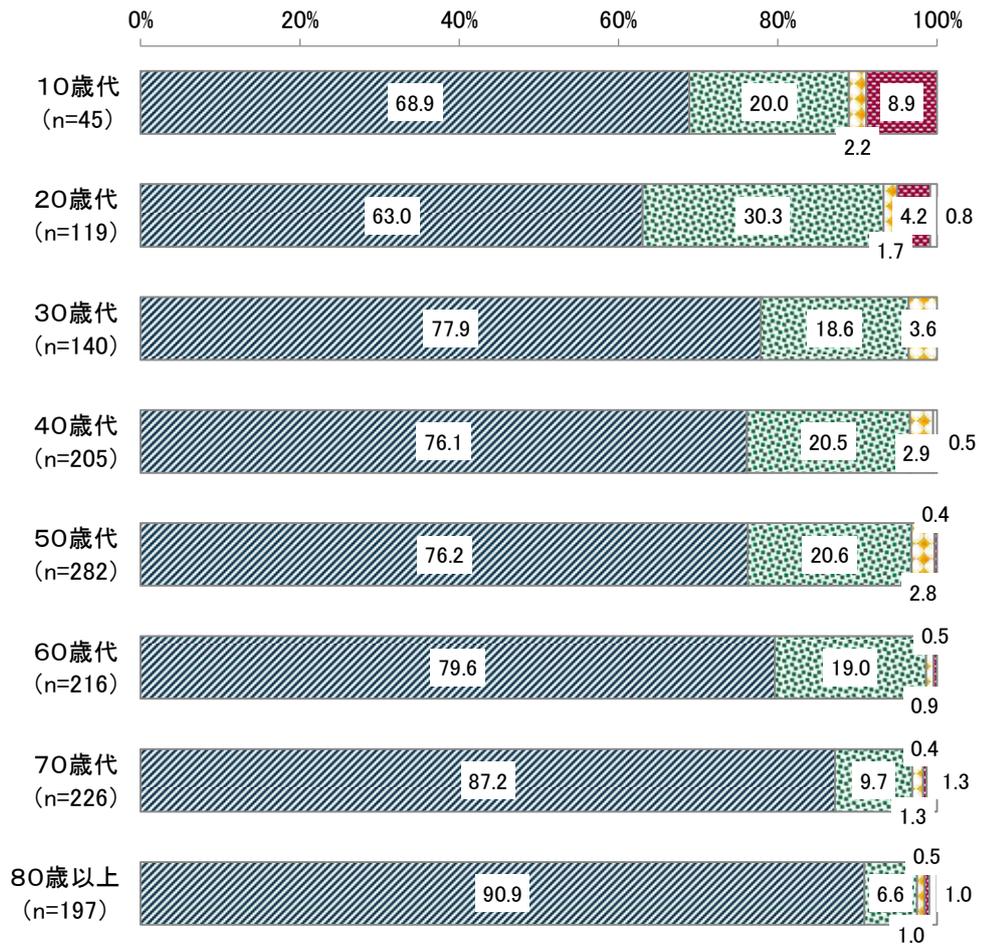
男女で大きな差異はみられない。

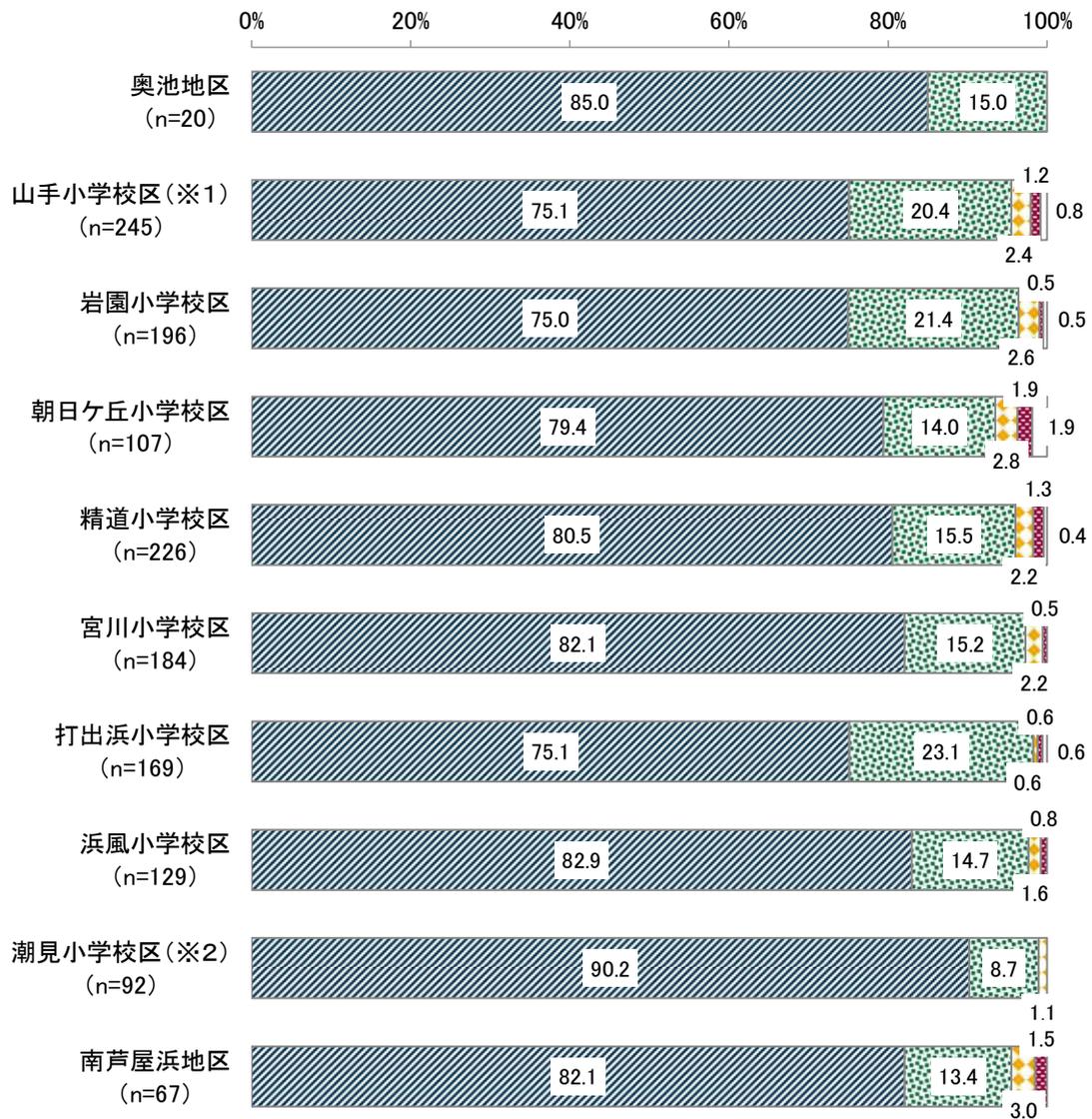
年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が低くなっている。また、80歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

図表 II-51 食料品の購入（クロス集計）





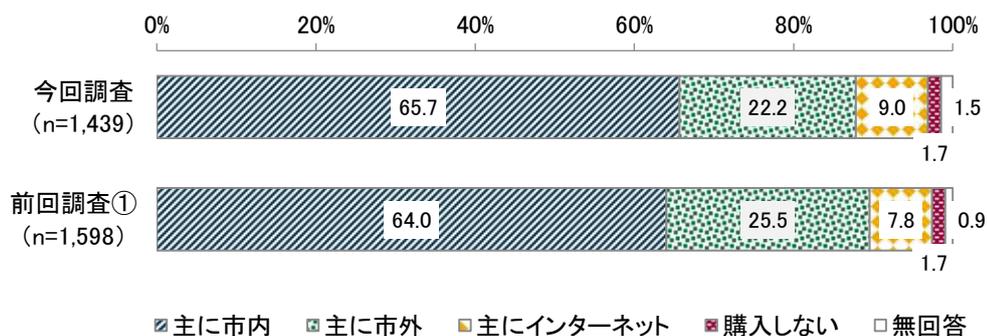


② 日用品（台所・掃除・洗濯用品等）

「主に市内」の割合が最も高く 65.7%となっている。次いで、「主に市外（22.2%）」、「主にインターネット（9.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」「主にインターネット」の割合が上昇している。

図表 II-5 2 日用品の購入

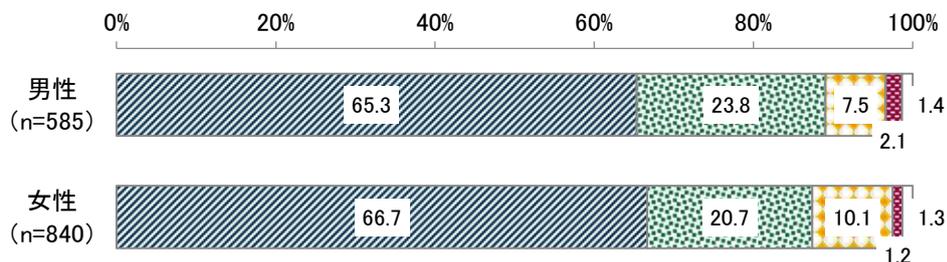


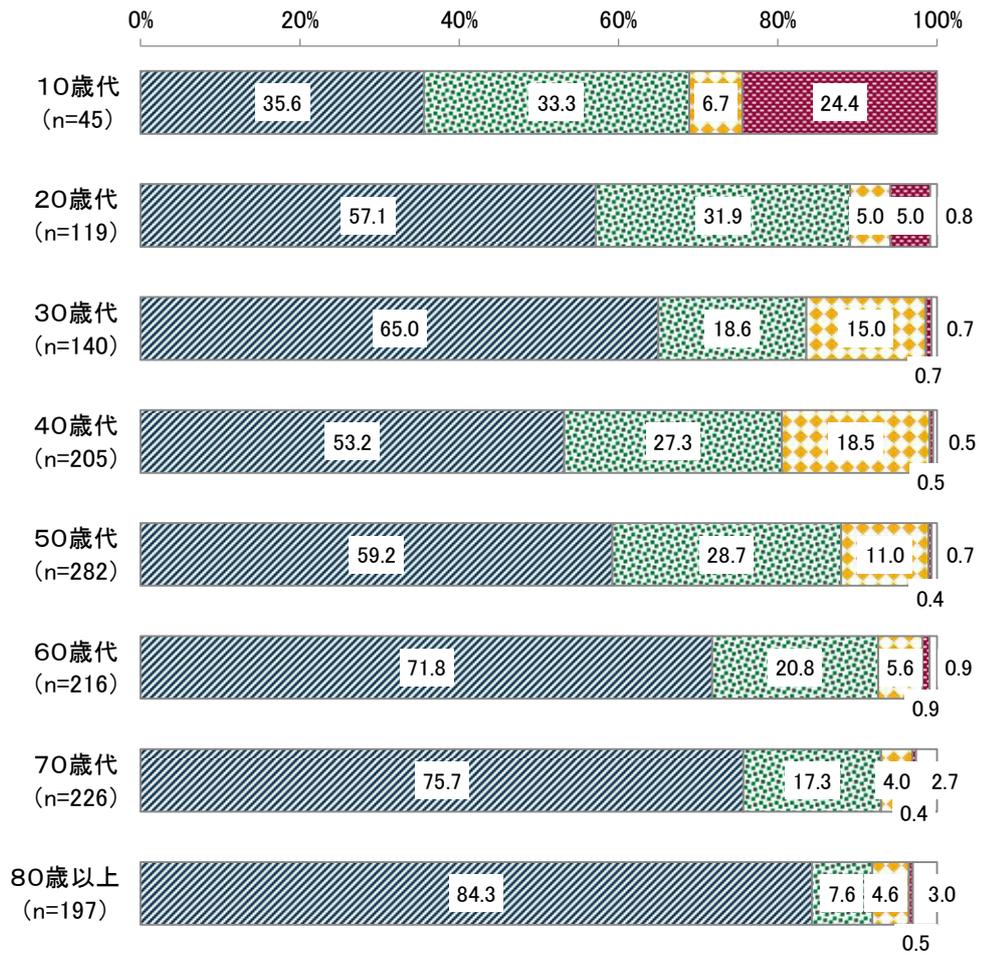
男性と女性で日用品の購入場所に大きな差異は見られない。

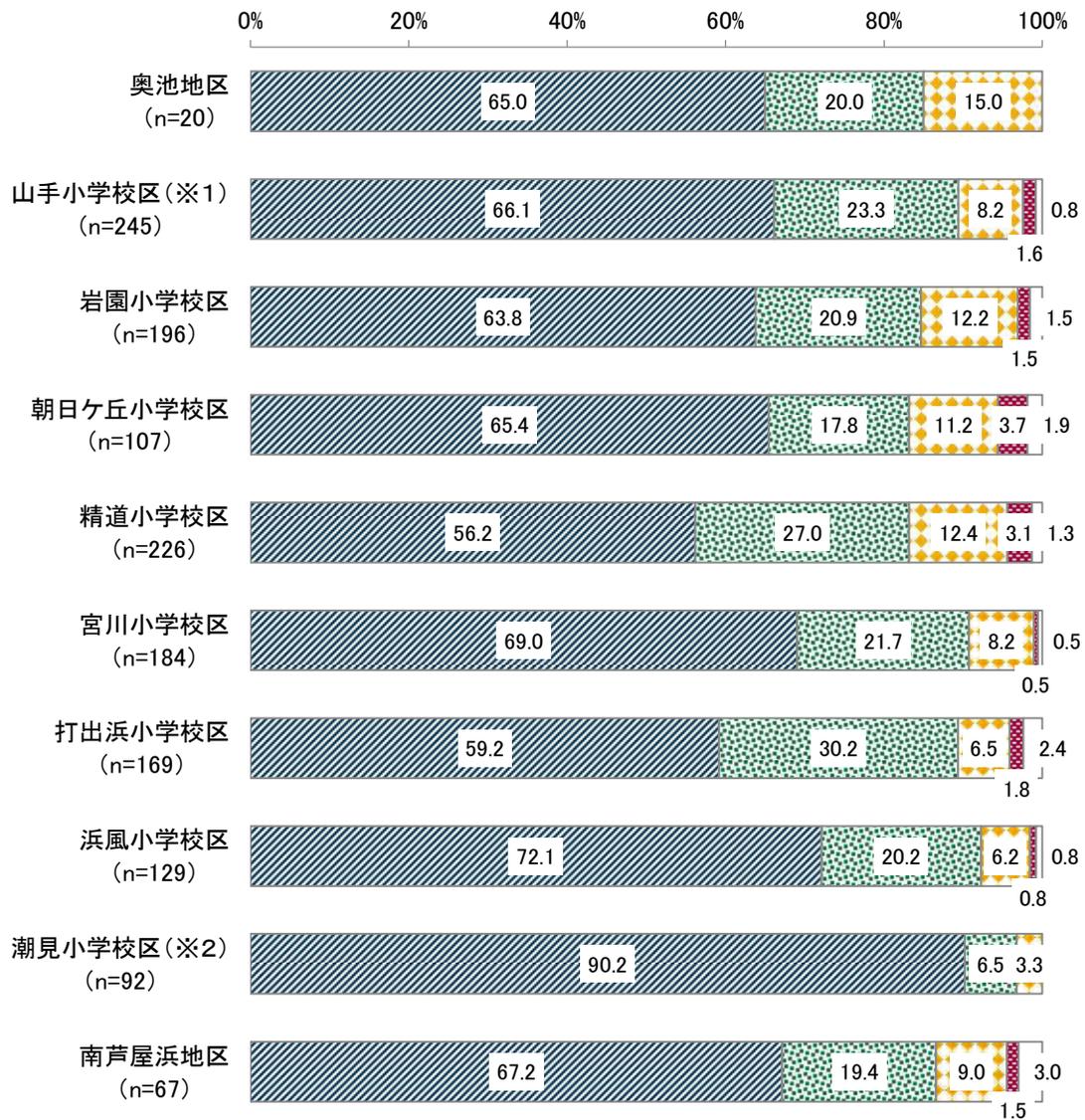
年代別にみると、10代は他の年代と比較して、「購入しない」の割合が高くなっている。40代は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が低く、80歳以上は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、「潮見小学校区」は他の地区と比較して「主に市内」で購入する割合が非常に高くなっている。また、「精道小学校区」「打出浜小学校区」は他の地区と比較して、「主に市内」で購入する割合が低くなっている。

図表 II-5 3 日用品の購入（クロス集計）





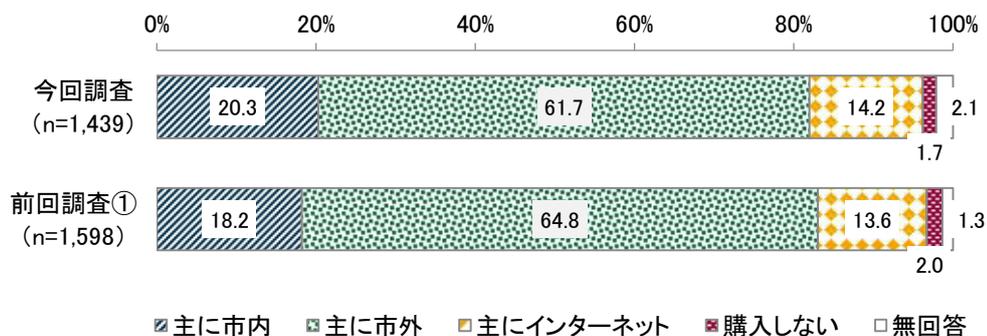


③ 衣料品

「主に市外」の割合が最も高く 61.7%となっている。次いで、「主に市内（20.3%）」、「主にインターネット（14.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」の割合が上昇している。

図表 II-5 4 衣料品の購入

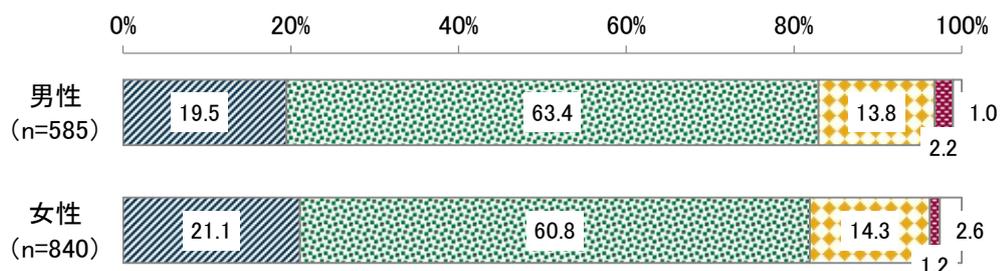


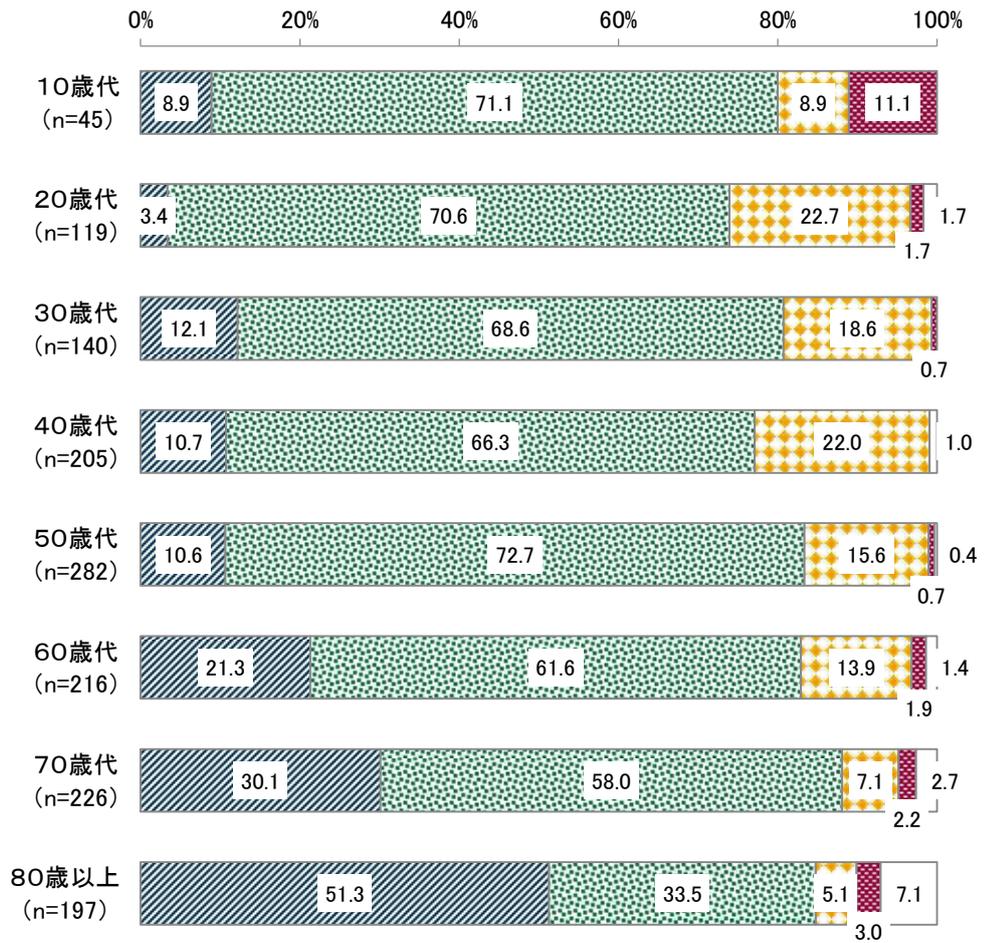
男女で大きな差異はみられない。

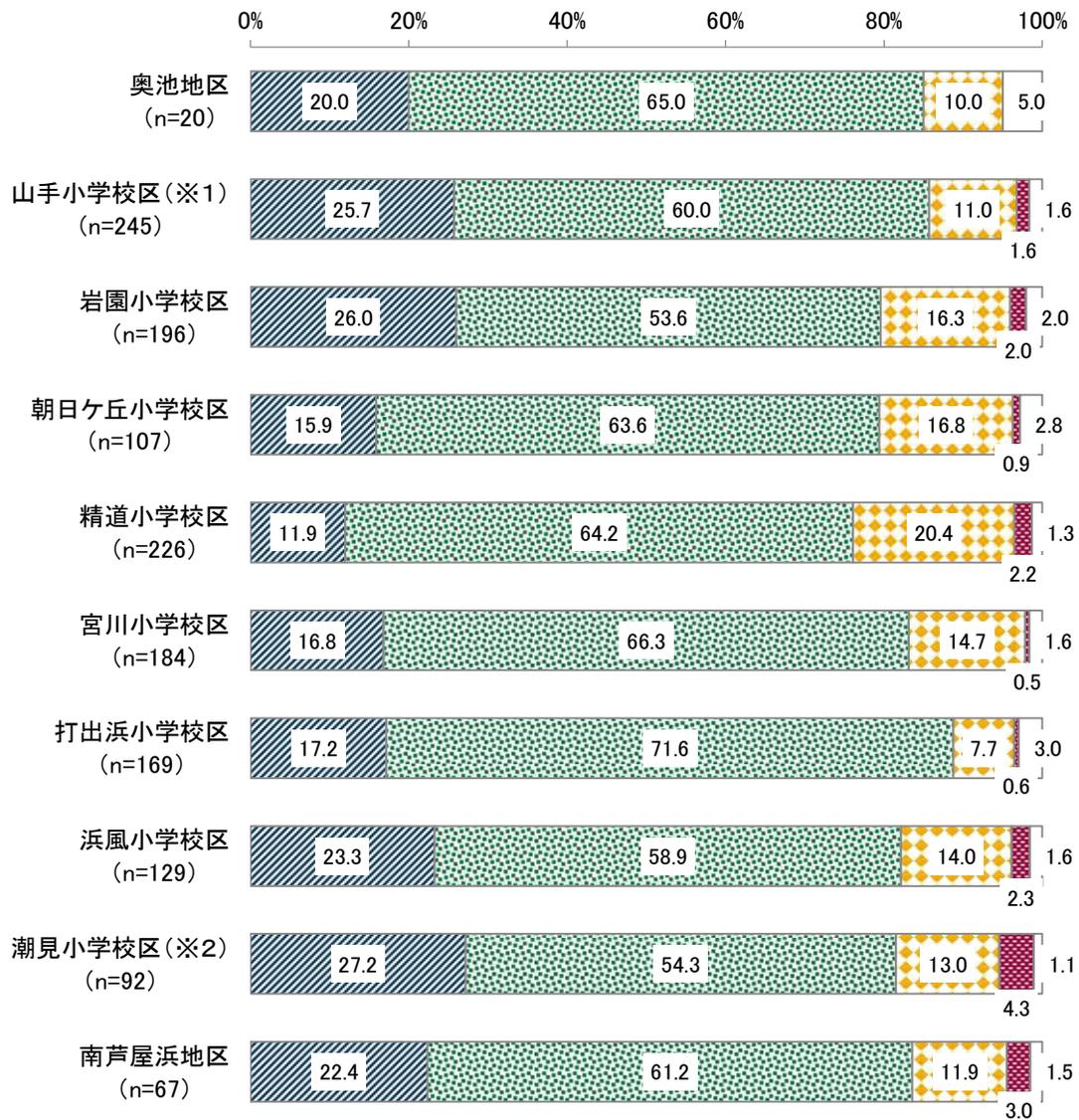
年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「主に市外」で衣料品を購入する割合が高くなっている。80歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で衣料品を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、「精道小学校区」は他の地域と比較して、「主に市内」で衣料品を購入する割合が低く、「主にインターネット」の割合が高くなっている。「打出浜小学校区」は他の地域と比較して、「主に市外」の割合が高くなっている。

図表 II-5 5 衣料品の購入（クロス集計）





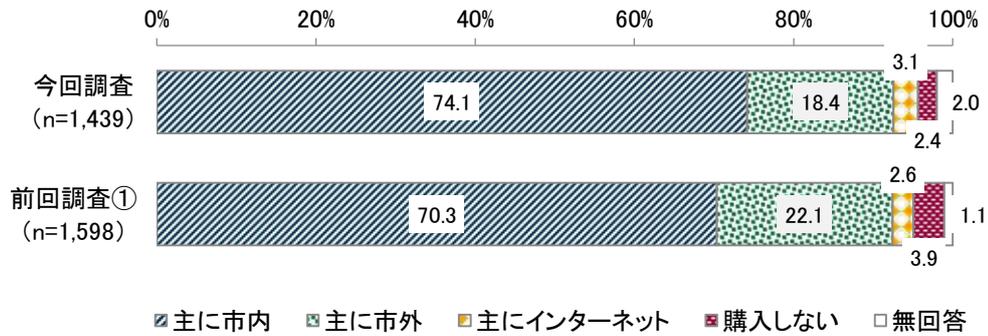


④ 医薬品

「主に市内」の割合が最も高く 74.1%となっている。次いで、「主に市外（18.4%）」、「主にインターネット（3.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」の割合が上昇している。

図表 II-5 6 医薬品の購入

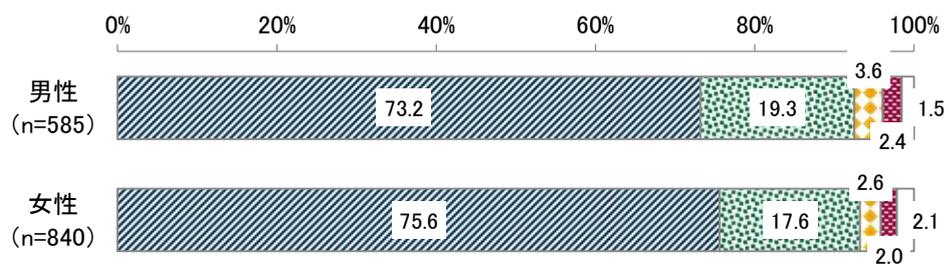


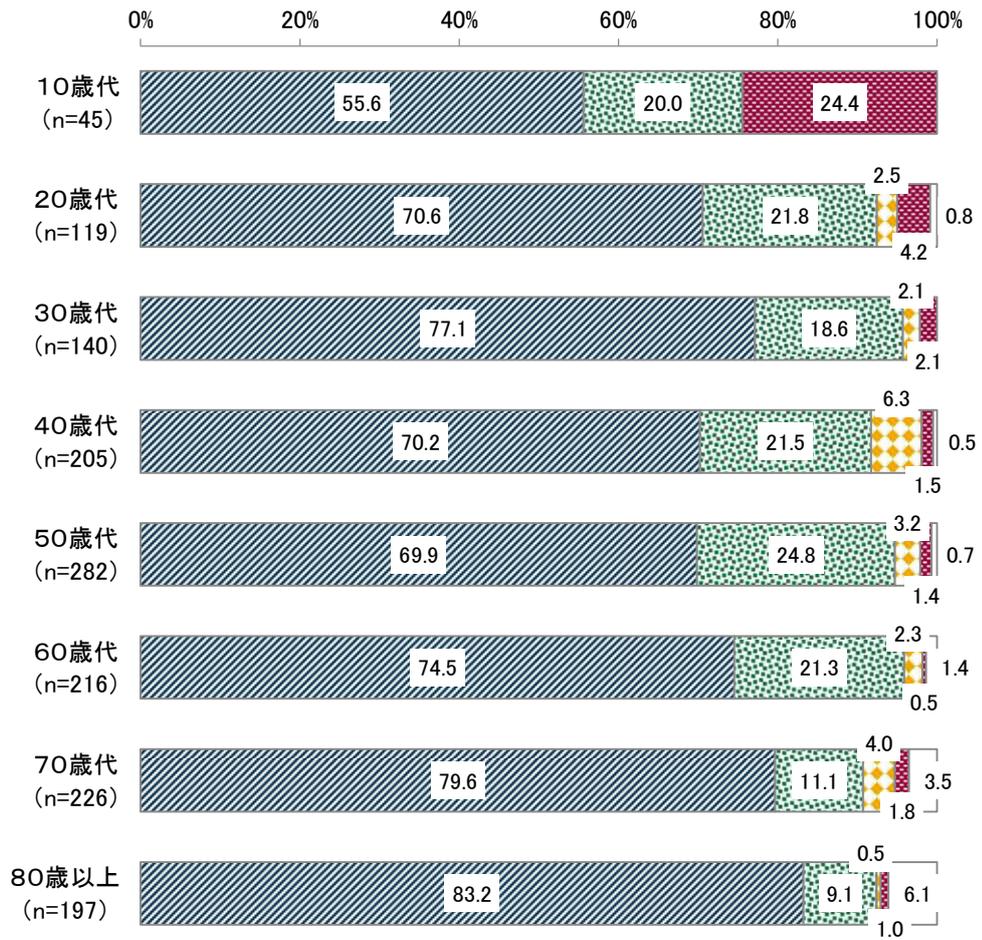
男女で大きな差異はみられない。

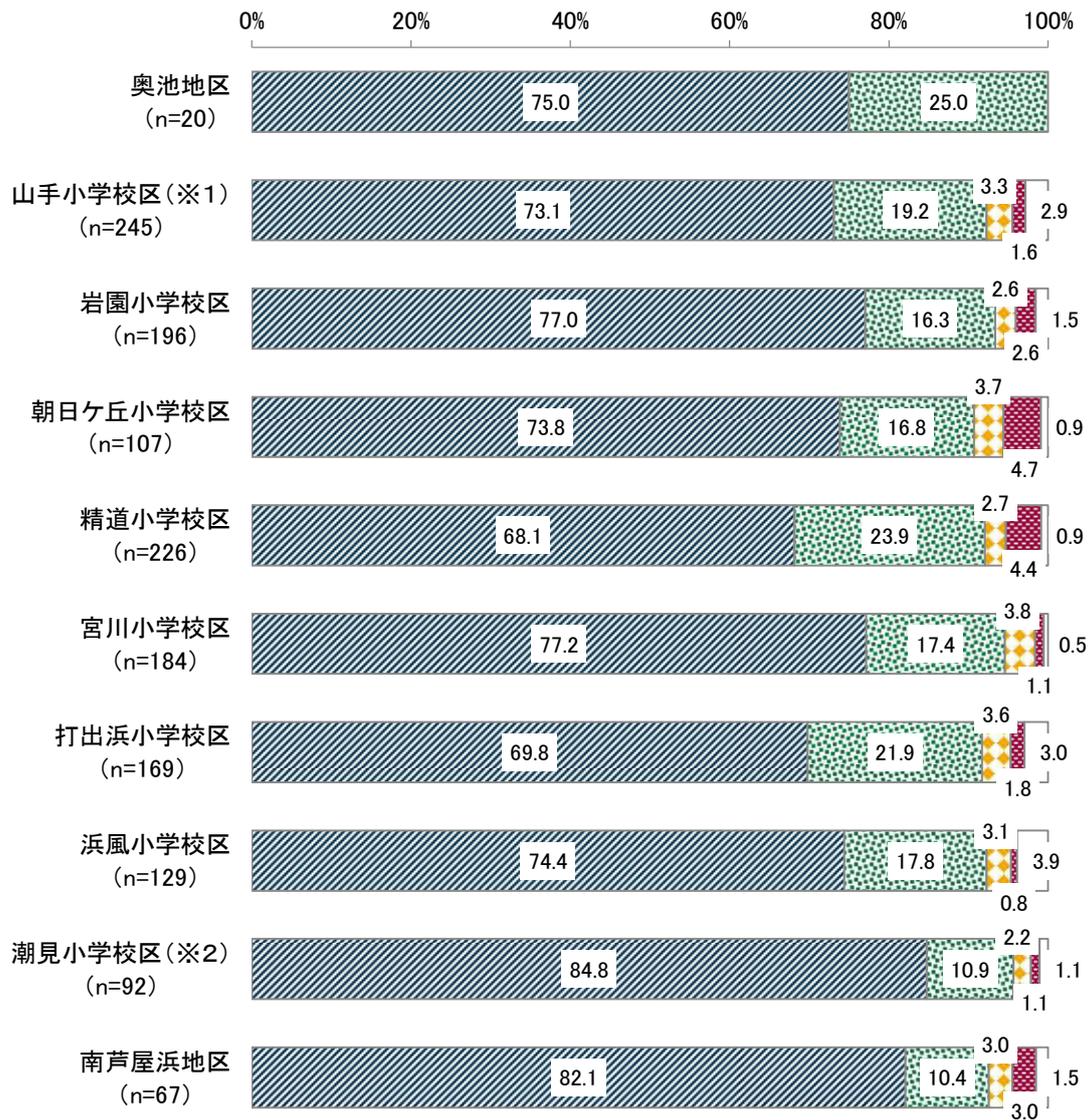
年代別にみると、80 歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で医療品を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、「精道小学校区」「打出浜小学校区」は他の地域と比較して、「主に市内」で医療品を購入する割合が低くなっている。

図表 II-5 7 医薬品の購入（クロス集計）





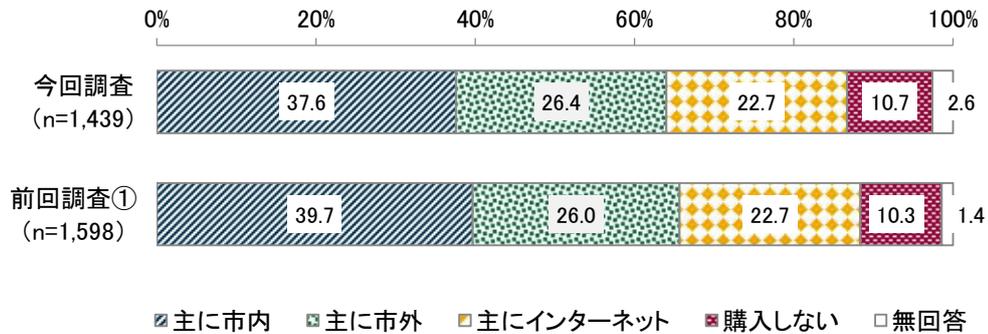


⑤ 書籍

「主に市内」の割合が最も高く 37.6%となっている。次いで、「主に市外（26.4%）」、「主にインターネット（22.7%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-58 書籍の購入

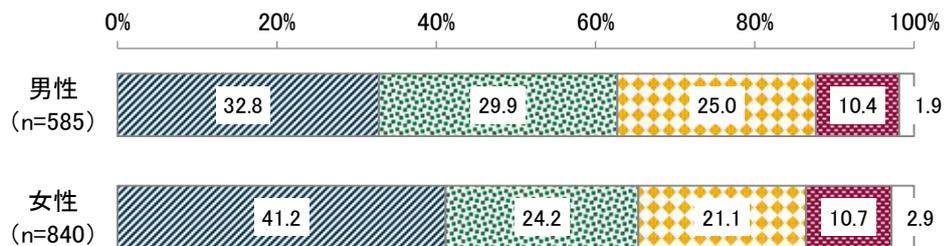


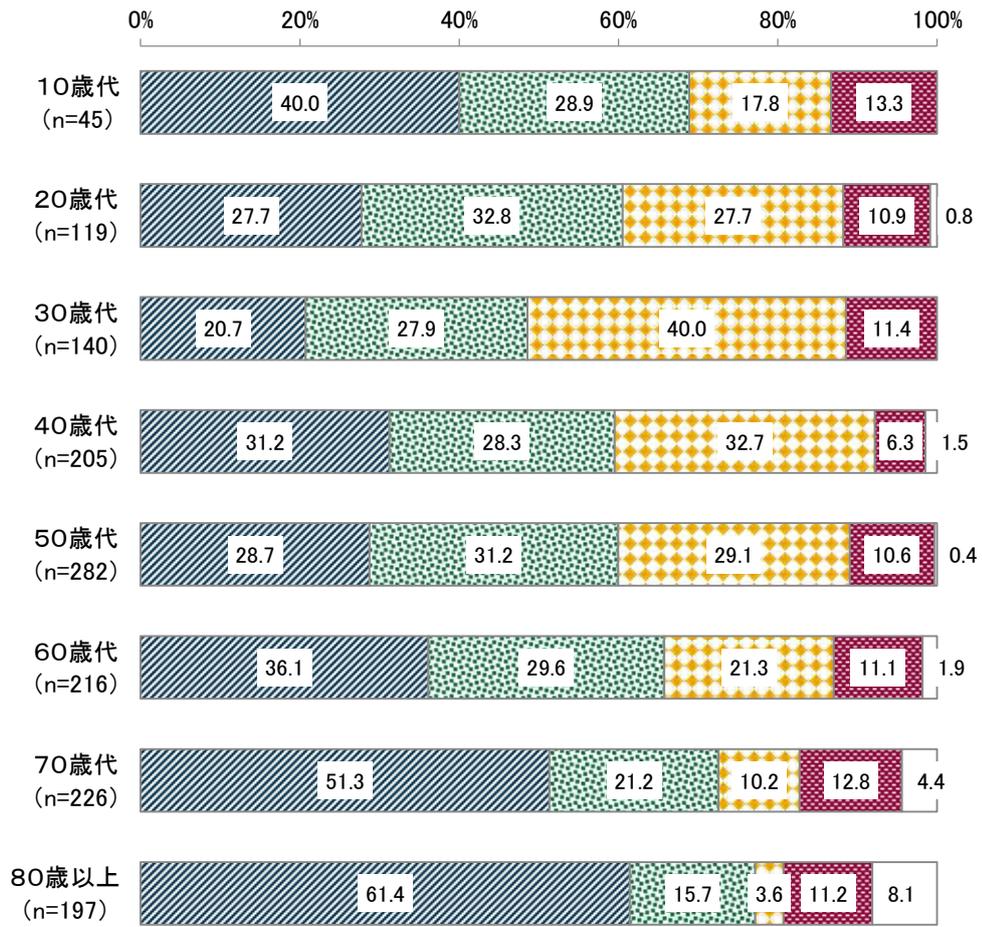
女性は男性と比較して、「主に市内」で書籍を購入する割合が高くなっている。

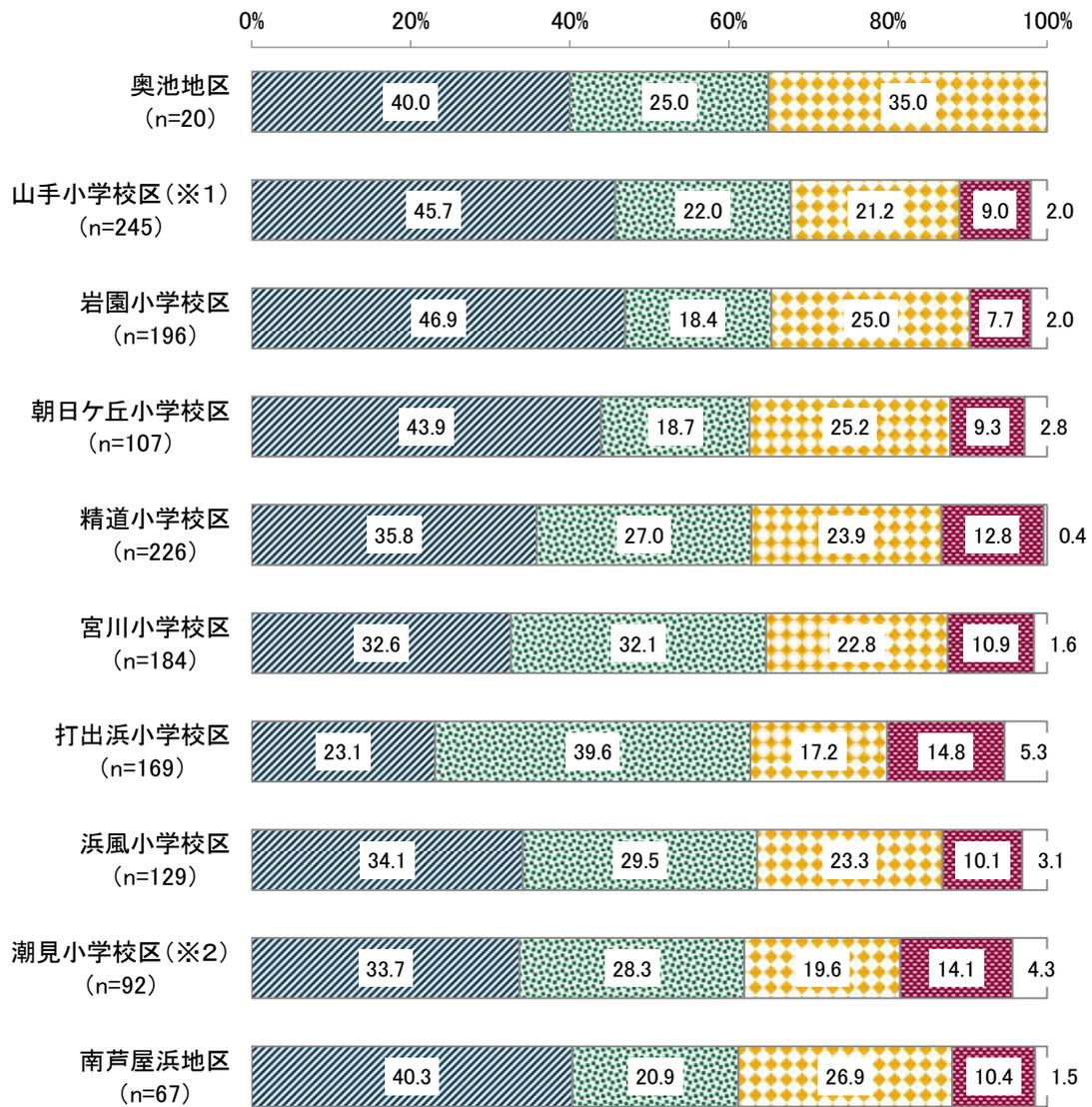
年代別にみると、30代は他の年代と比較して、「主にインターネット」で書籍を購入する割合が高くなっている。80歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で書籍を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、「打出浜小学校区」は他の地域と比較して、「主に市外」で書籍を購入する割合が高くなっている。

図表 II-59 書籍の購入（クロス集計）





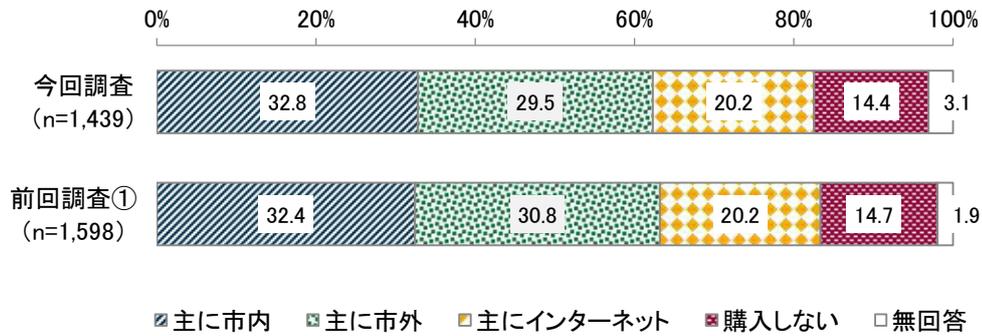


⑥ 化粧品

「主に市内」の割合が最も高く 32.8%となっている。次いで、「主に市外（29.5%）」、「主にインターネット（20.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-6 0 化粧品の購入



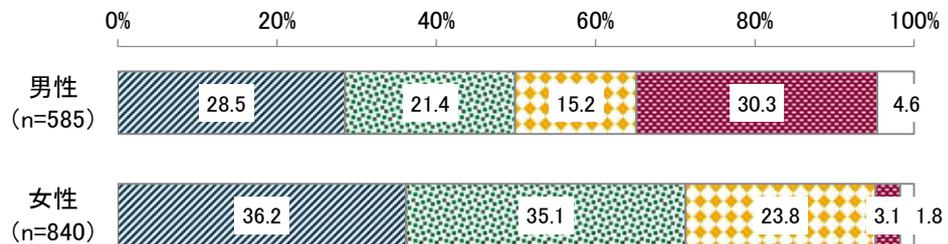
男性は女性よりも、「購入しない」の割合が高くなっている。

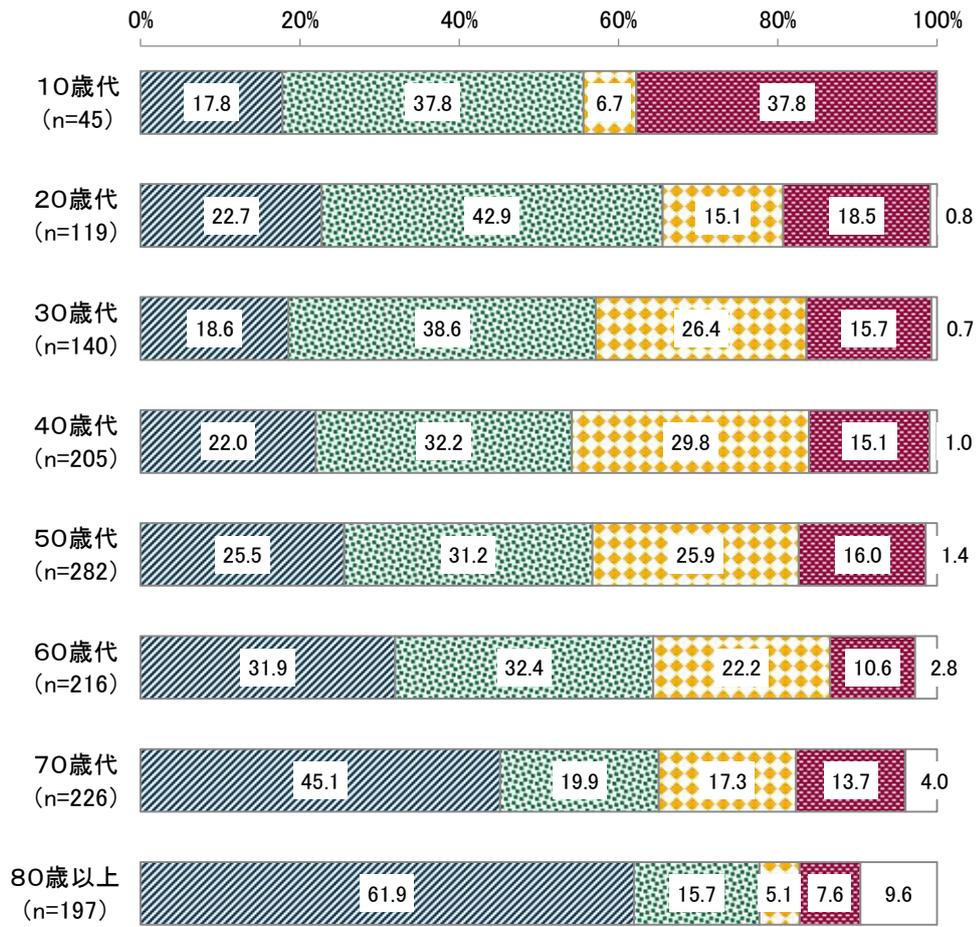
年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「主に市外」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

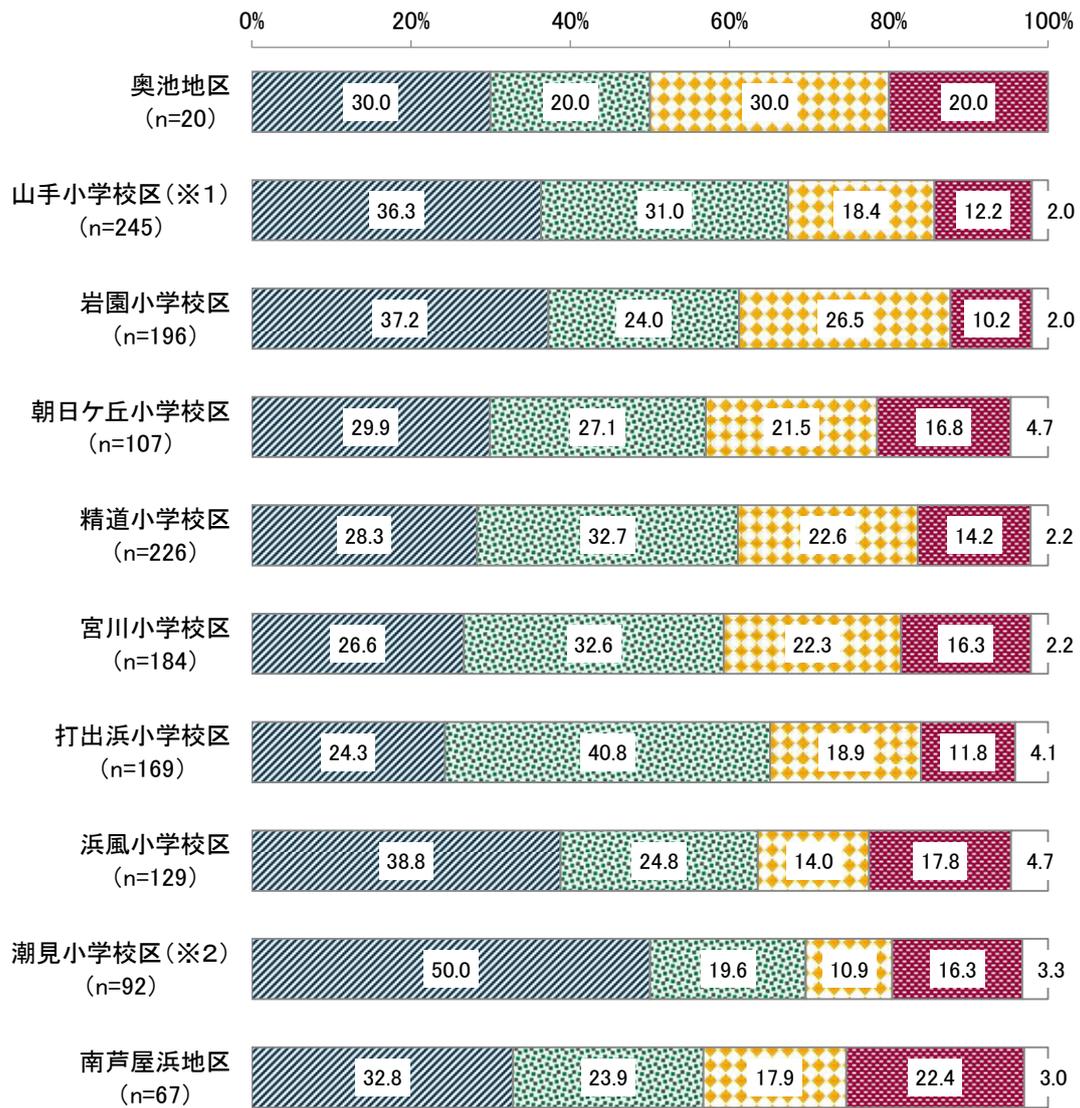
地区別にみると、「潮見小学校区」は他の地域と比較して、「主に市内」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

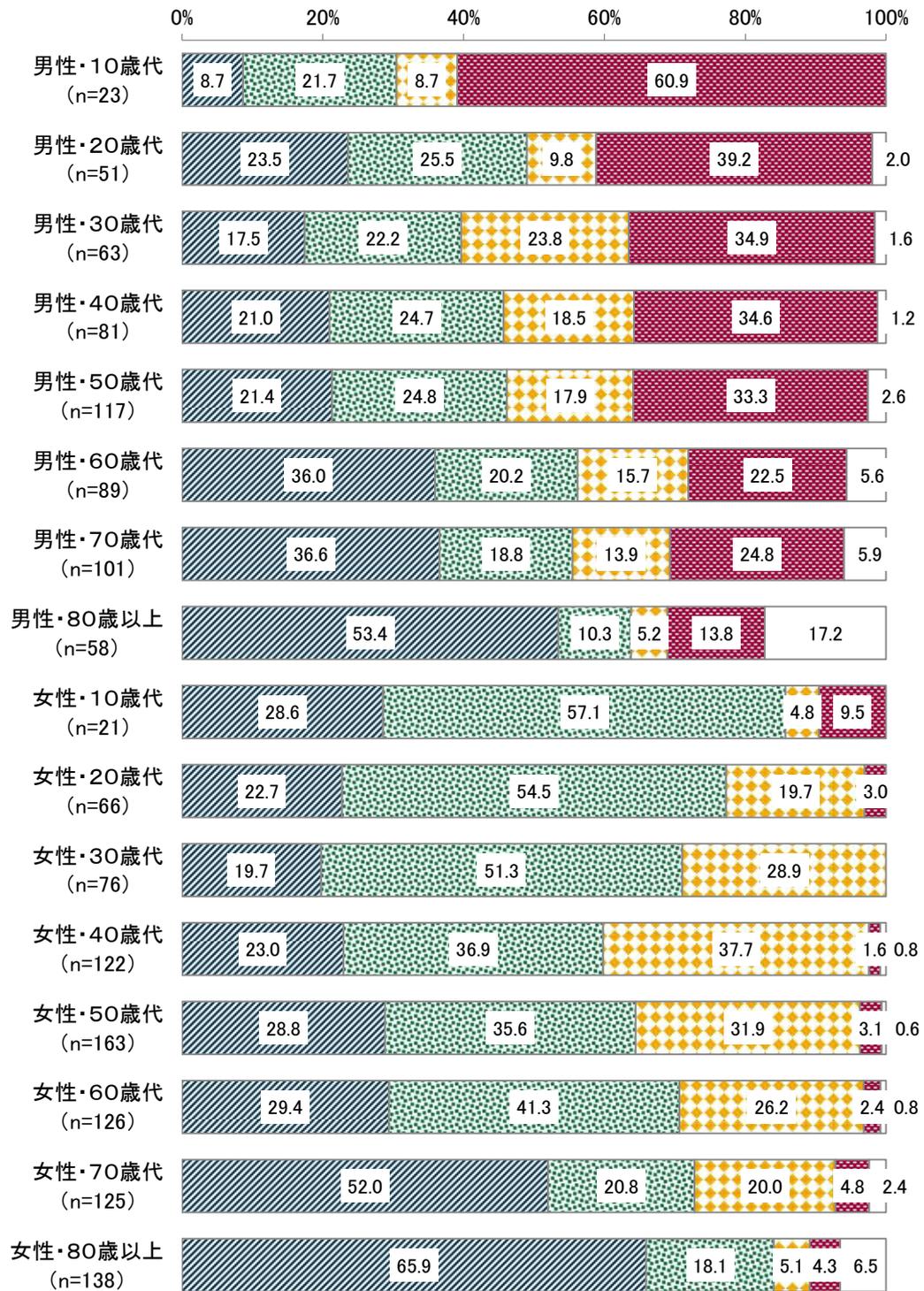
性別・年代別にみると、40代女性は、他の年代の女性と比較して、「主にインターネット」で化粧品を購入する割合が高くなっている。また、70代、80歳以上の女性は、「主に市内」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

図表 II-6 1 化粧品の購入（クロス集計）









(22) 問 27 家事や育児など夫婦間での分担についての考え

① 元集計

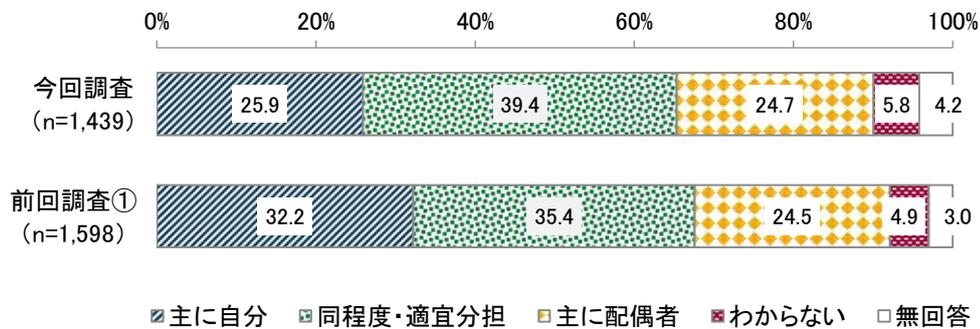
1) 生活費の負担

理想で「同程度・適宜分担」が 39.4%と最も高い一方で、現実では 26.6%と 12.8 ポイント低くなっている。

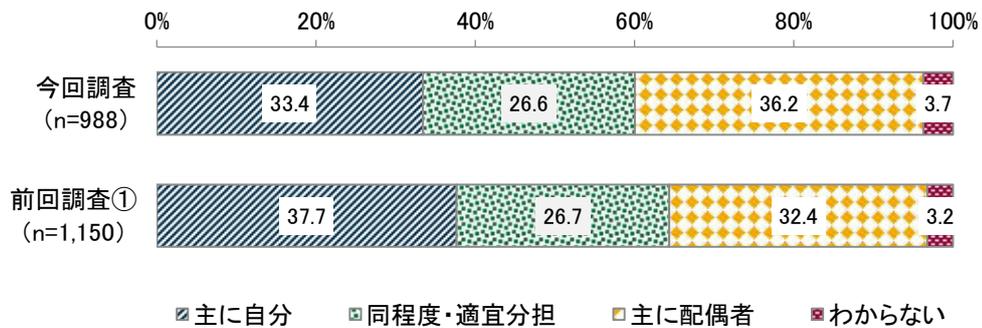
前回調査①と比較すると、理想については、「主に自分」の割合が低下し、「同程度・適宜分担」の割合が上昇している。現実については、「主に自分」の割合が低下し、「主に配偶者」の割合が上昇している。

図表 II-6 2 生活費の負担

【理想】



【現実】



(注) 【現実】は配偶者のいる方（事実婚及びパートナーシップ含む）のみが答える設問であるため、無回答を除いたサンプルを集計している。以下②まで同様。

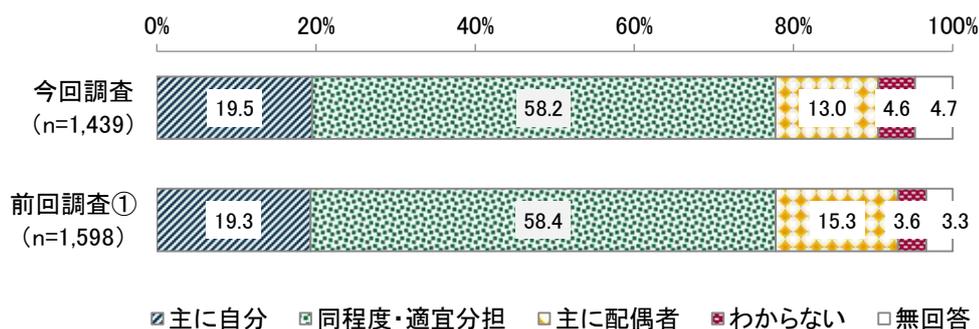
2) 家事

理想で「同程度・適宜分担」が 58.2%と最も高い一方で、現実では 30.2%と 28.0 ポイント低くなっている。

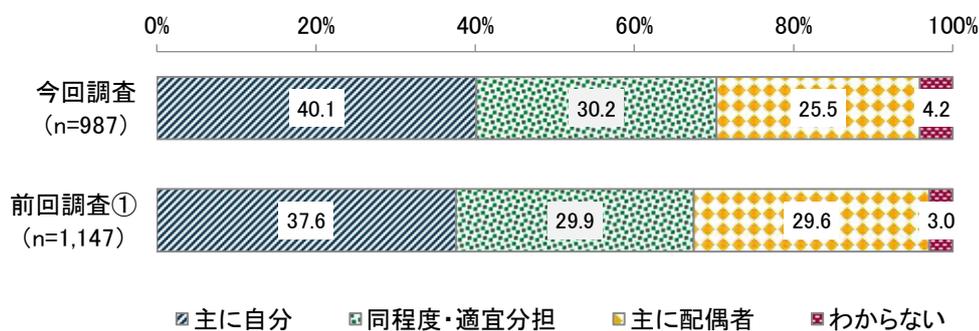
前回調査①と比較すると、理想については大きな変化は見られない。現実については、「主に自分」の割合が上昇している。

図表 II-6 3 家事

【理想】



【現実】



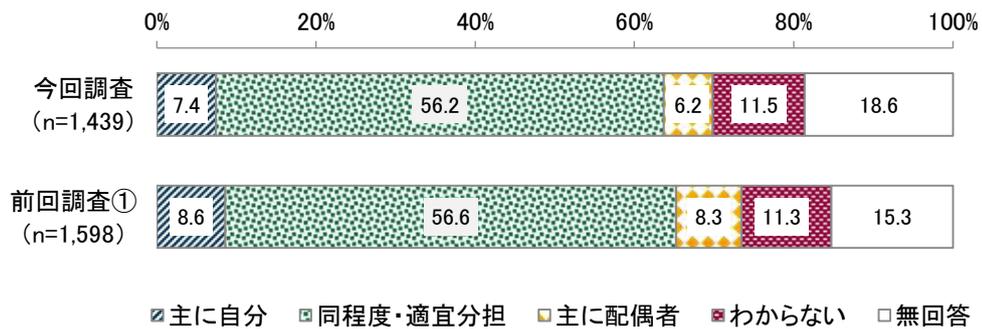
3) 育児・子育て

理想で「同程度・適宜分担」が 56.2%と最も高い一方で、現実では 29.7%と 26.5 ポイント低くなっている。

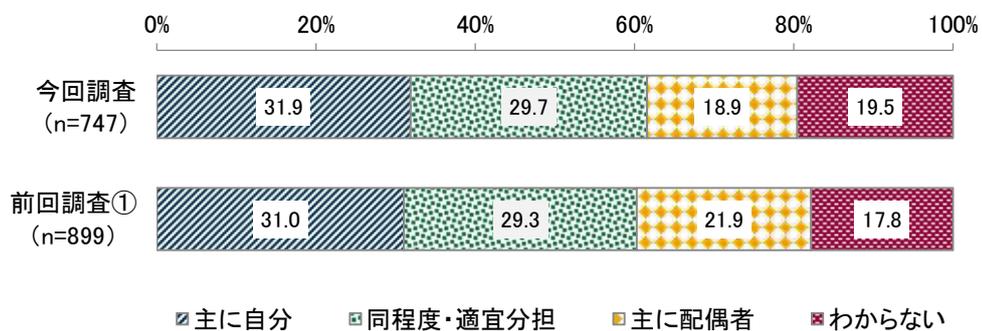
前回調査①と比較すると、理想については大きな変化は見られない。現実については、「主に配偶者」の割合が低下している。

図表 II-6 4 育児・子育て

【理想】



【現実】



② 性別再集計

回答者の性別から、分担について「同程度・適宜分担」「主に男性」「主に女性」「わからない」に分類した。

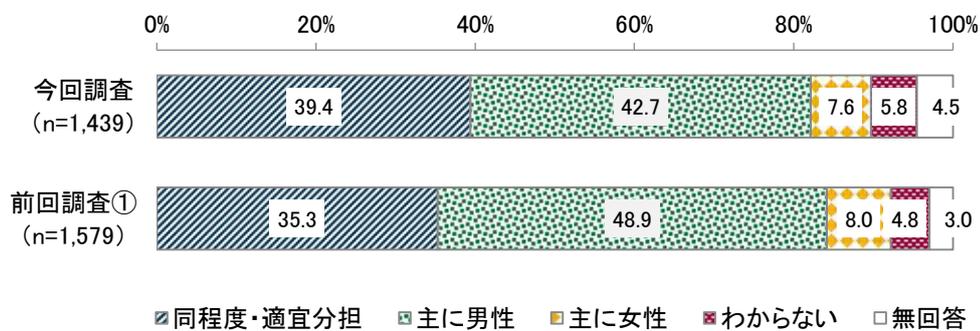
1) 生活費の負担

理想では「主に男性（42.7%）」が最も多く、現実でも同様に、「主に男性（81.5%）」が最も多くなっている。

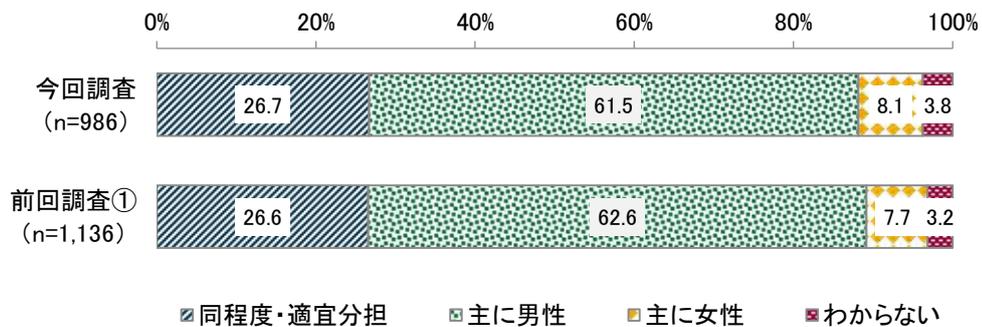
前回調査①と比較すると、理想では「主に男性」の割合は減少し、「同程度・適宜分担」が増加している。

図表 II-65 生活費の負担(性別再集計)

【理想】



【現実】



(注) 男性回答者については、「主に自分」を「男性」に、「主に配偶者」を「主に女性」に変換、女性回答者については「主に自分」を「女性」に、「主に配偶者」を「主に男性」に変換している。性別を「上記に当てはまらない」「答えたくない」「無回答」としたデータは含まない。以下 3) まで同様。

理想について、

女性は男性よりも、「同程度・適宜分担」の割合が高く、「主に男性」の割合が低くなっている。

年代別にみると、20代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が大幅に高く、「主に男性」の割合が低くなっている。

地区別にみると、「岩園小学校区」「潮見小学校区」は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

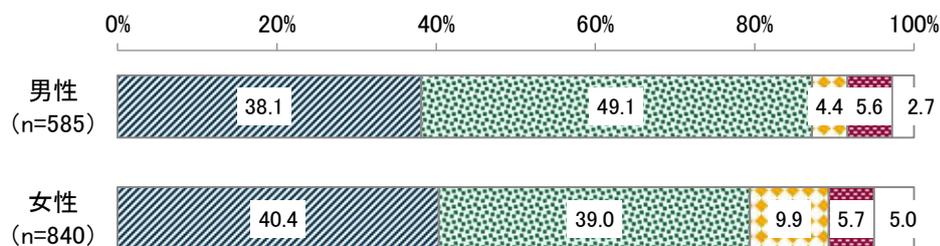
現実について、

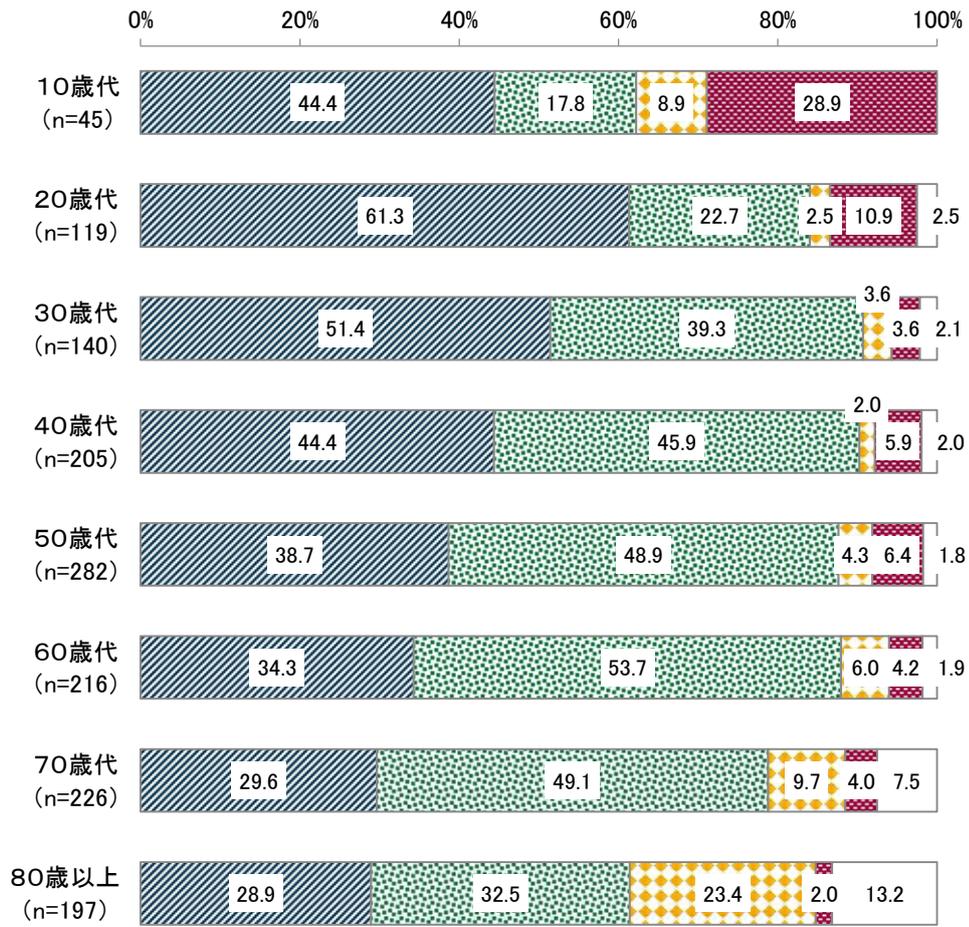
男女で大きな差異はみられない。

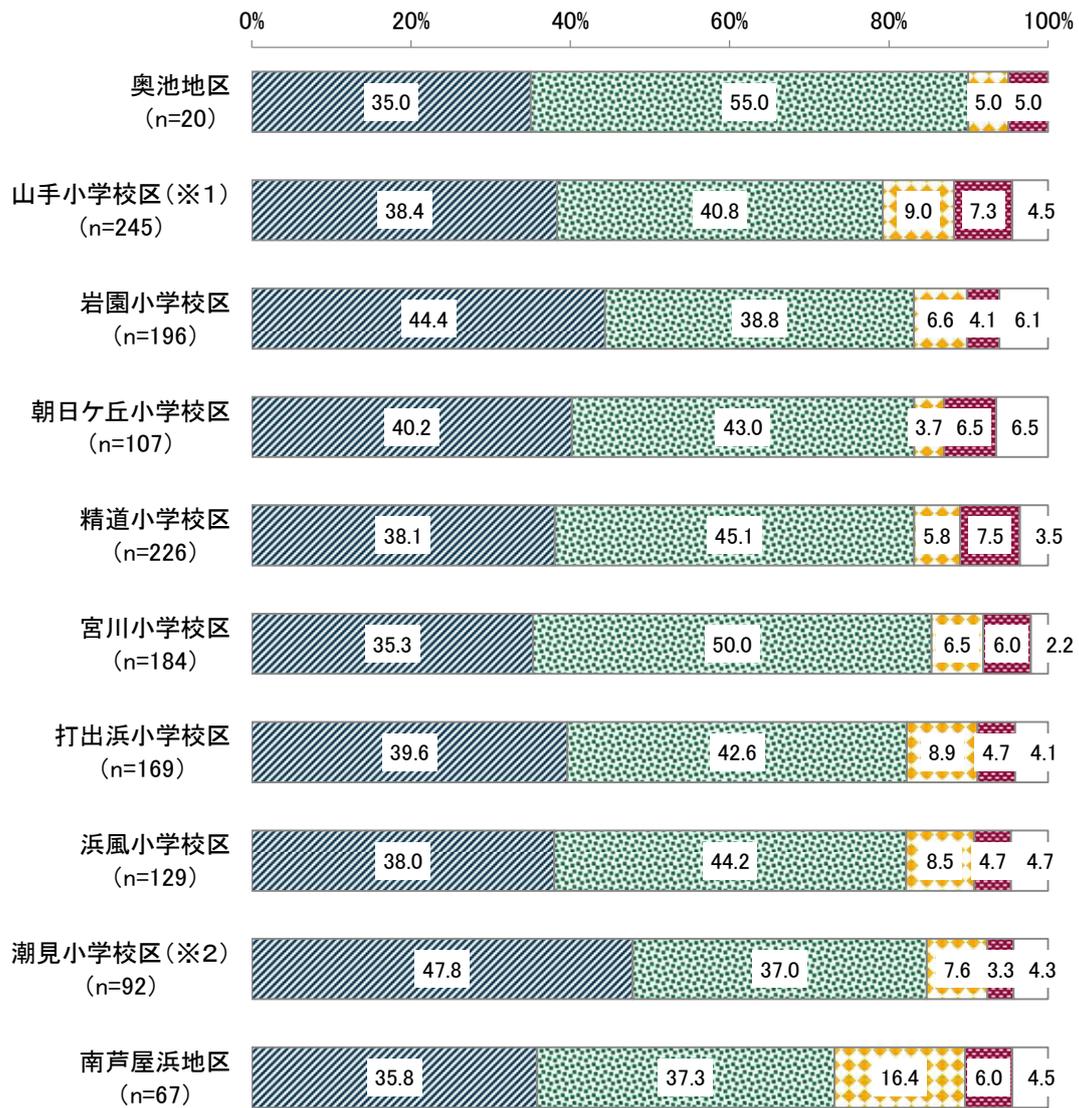
年代別にみると、20代・30代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

図表 II-6 6 生活費の負担(性別再集計・クロス集計)

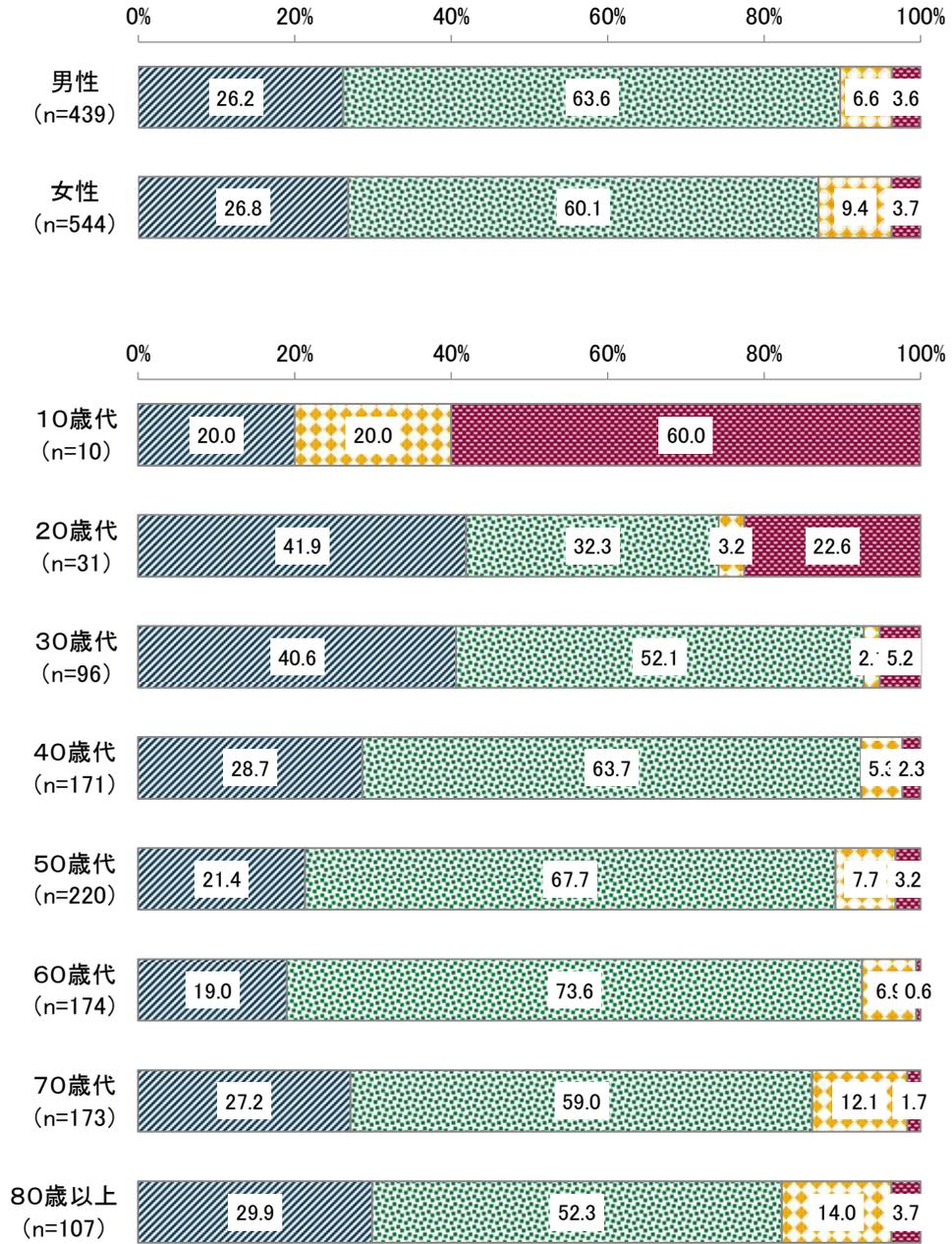
【理想】

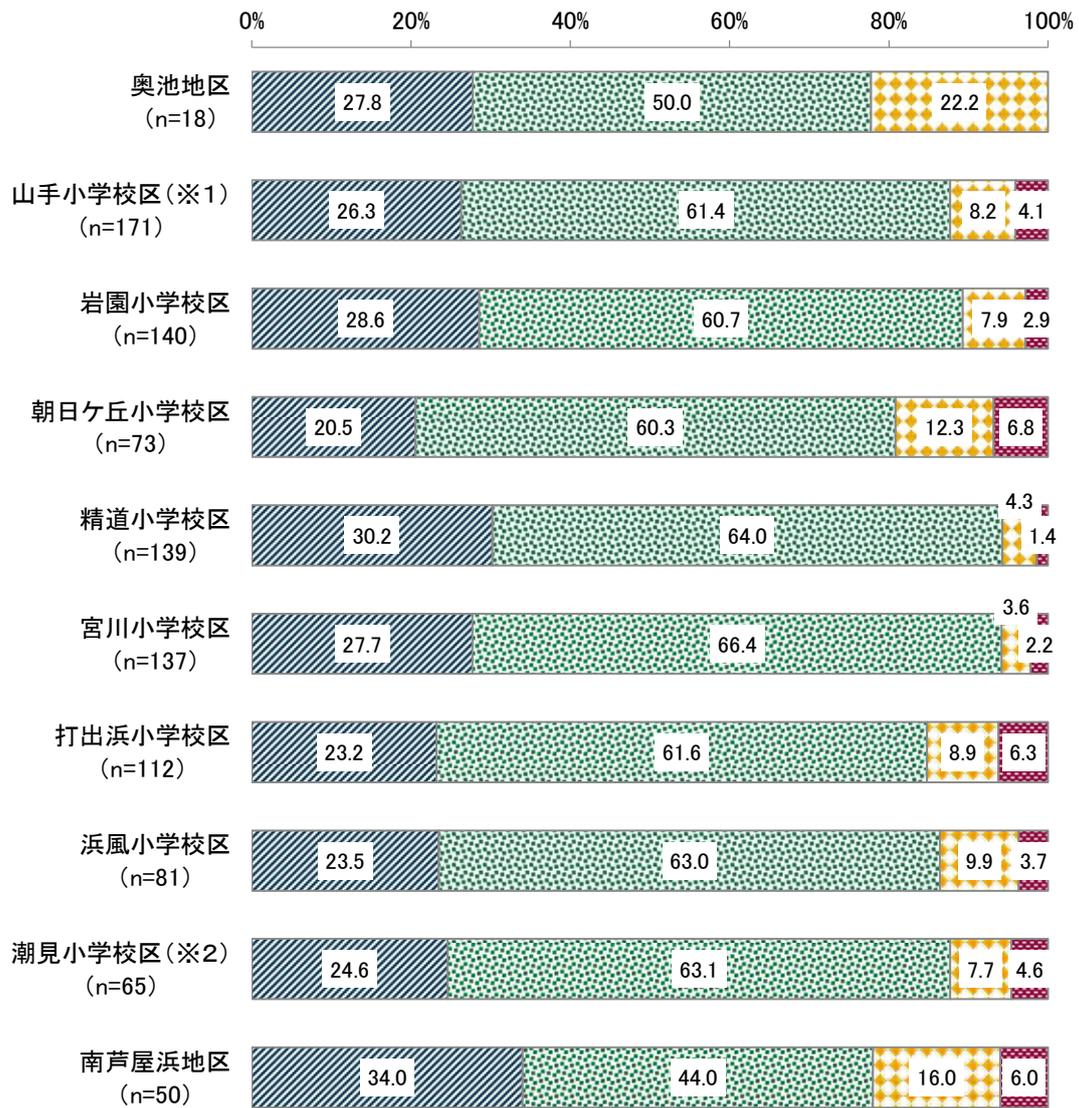






【現実】





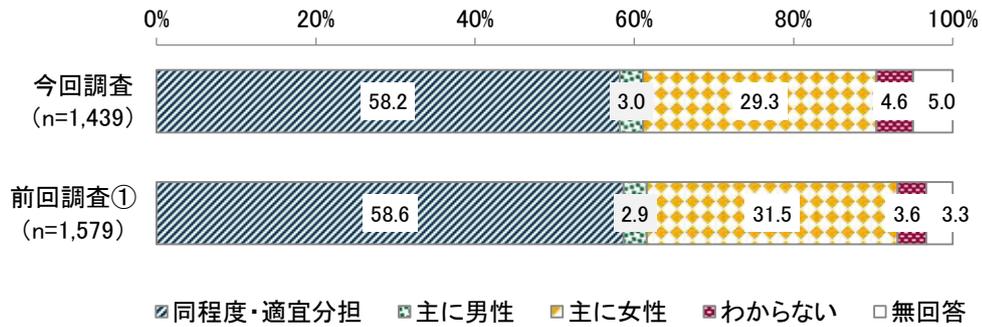
2) 家事

理想で「同程度・適宜分担（58.2%）」が最も高い一方で、現実では「主に女性（61.8%）」が最も高くなっている。

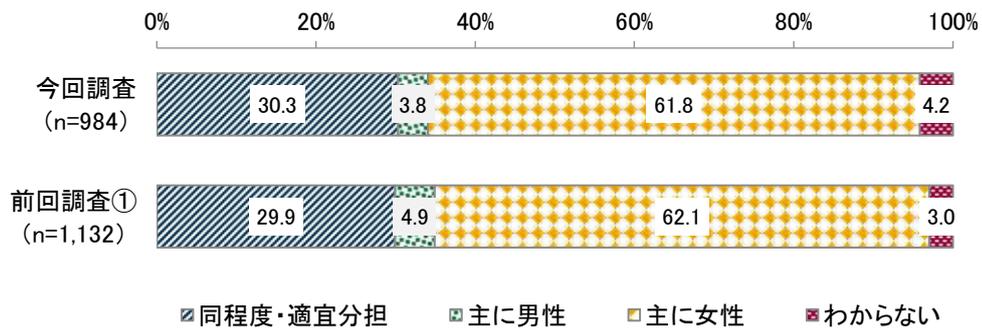
前回調査①と比較すると、理想、現実共に大きな差異は見られない。

図表 II-67 家事(性別再集計)

【理想】



【現実】



理想について、

男女で大きな差異はみられない。

年代別にみると、30代以下は、それより上の世代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

現実について、

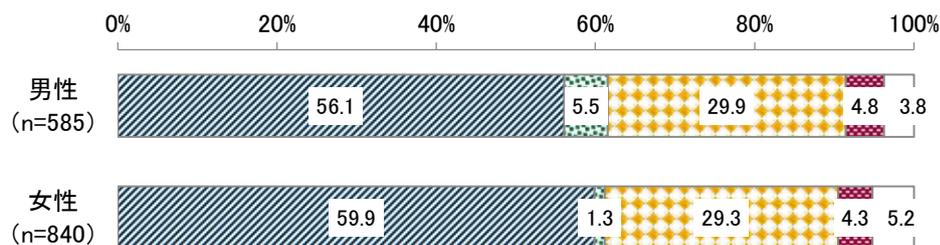
女性は男性と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

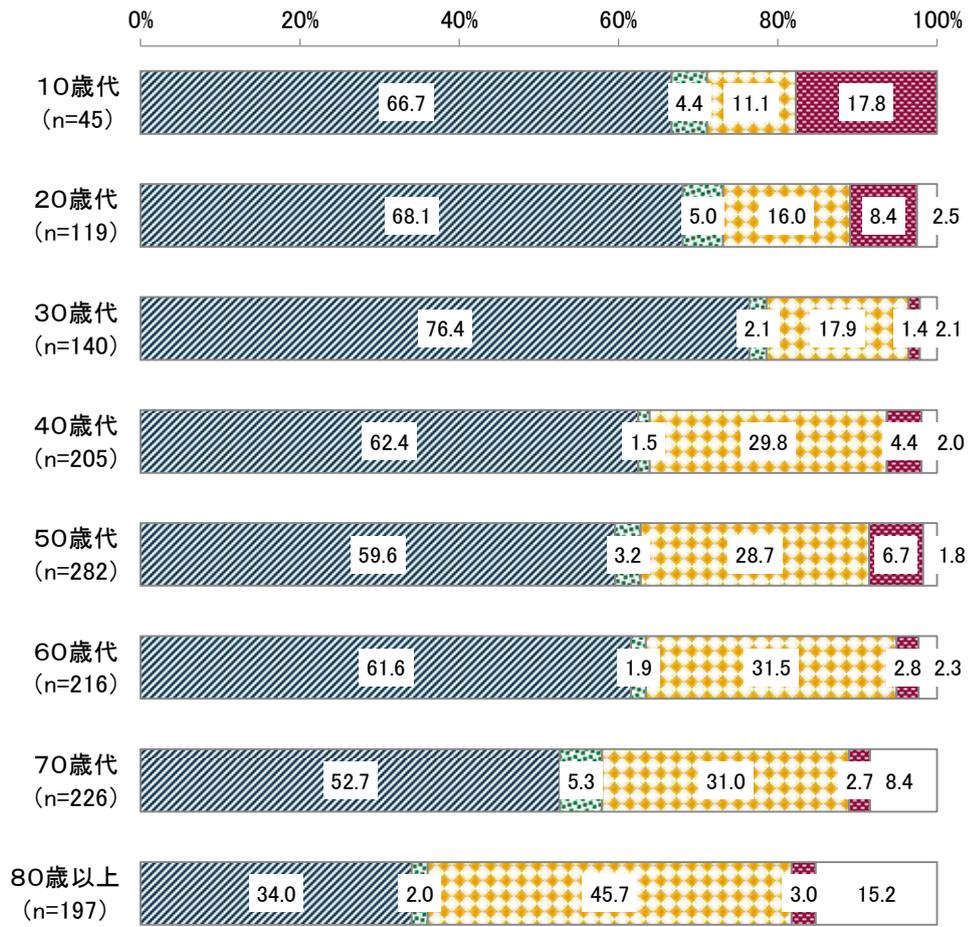
年代別にみると、30代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

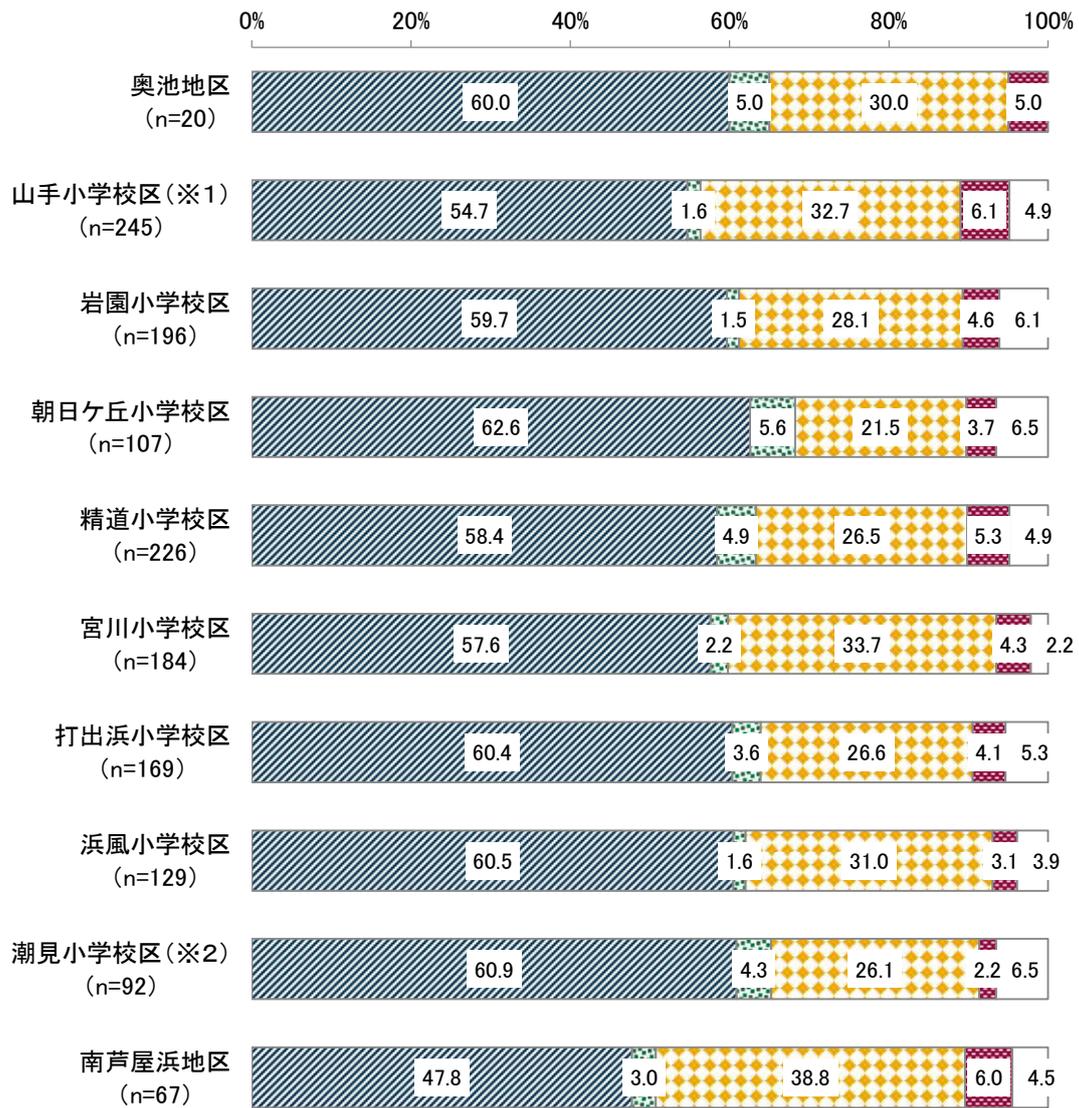
地区別にみると、「精道小学校区」「打出浜小学校区」は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

図表 II-68 家事(性別再集計・クロス集計)

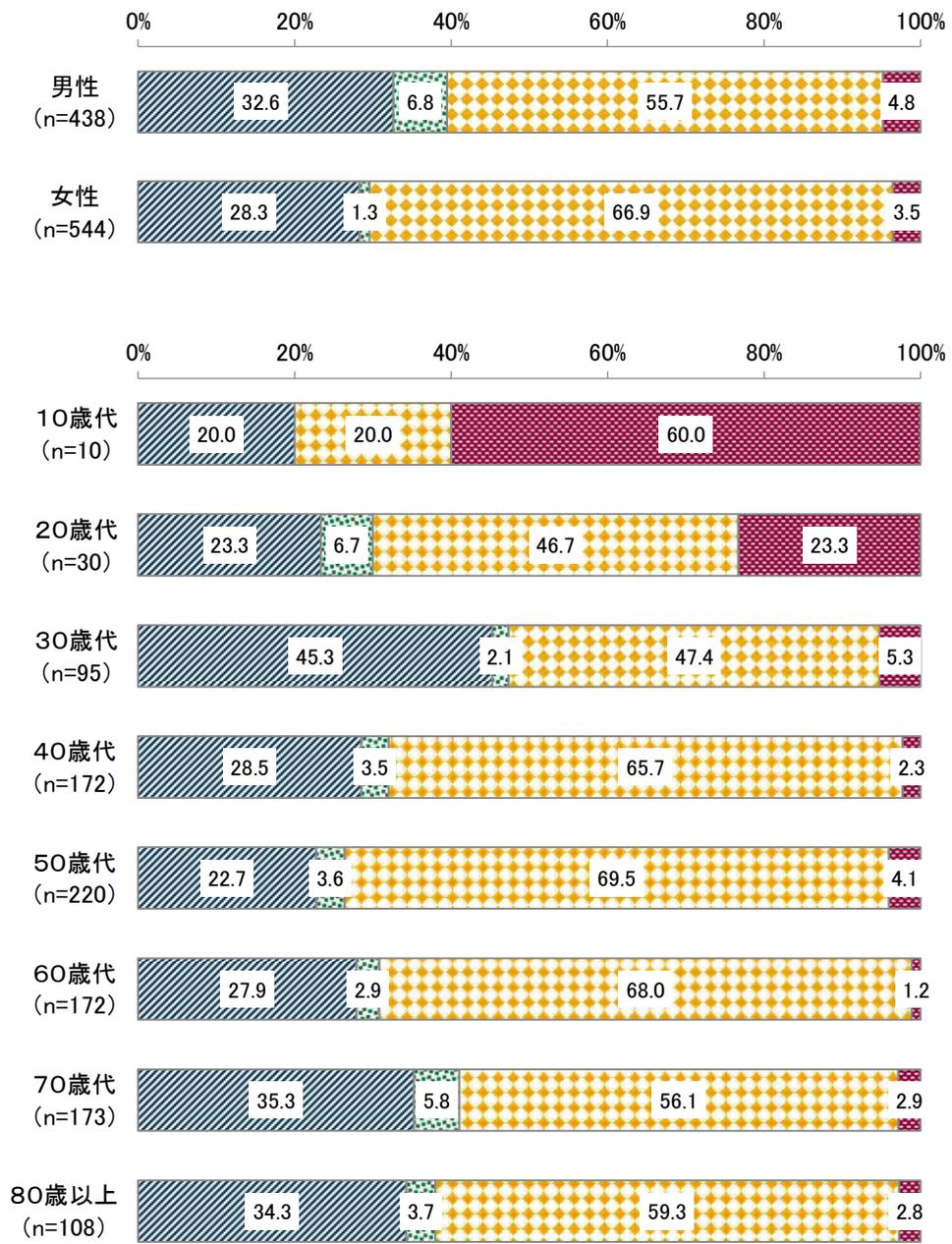
【理想】

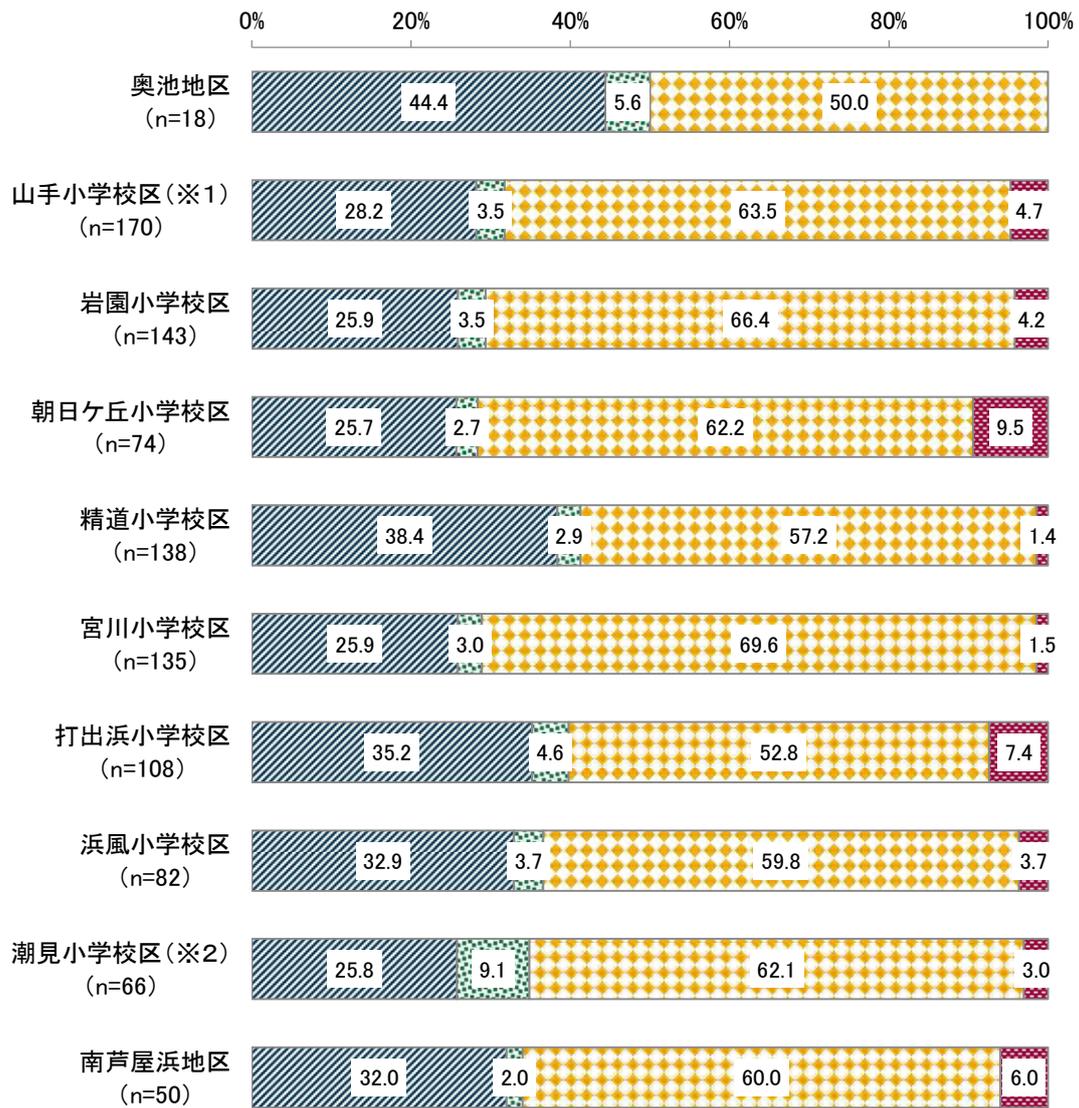






【現実】





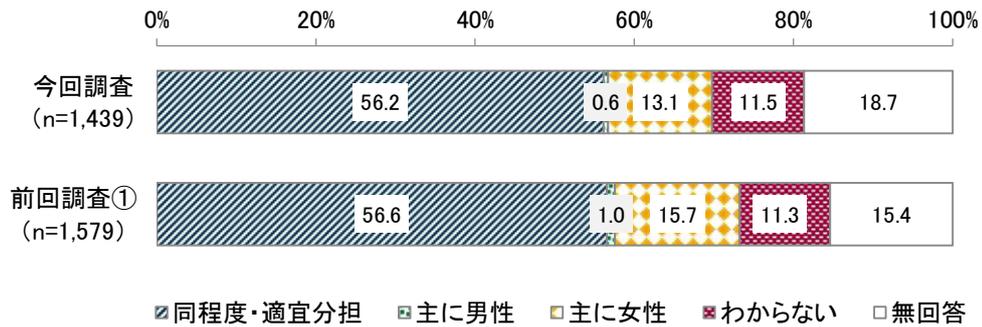
3) 育児・子育て

理想で「同程度・適宜分担（56.2%）」が最も高い一方で、現実には「主に女性(49.4%)」が最も高くなっている。

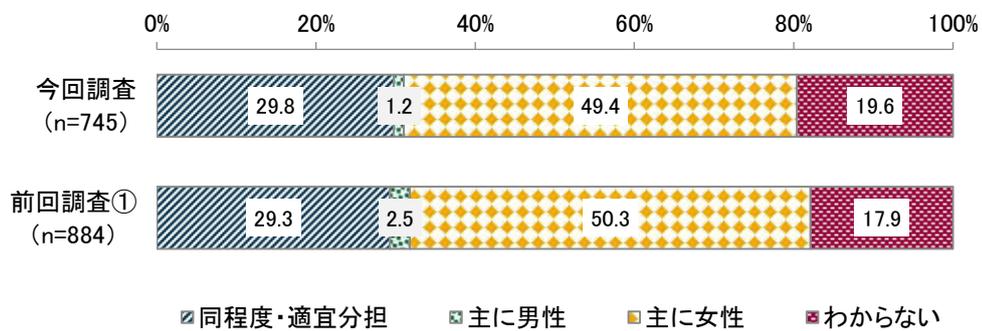
前回調査①と比較すると、理想では、「主に女性」の割合が少し低くなっている。現実では、大きな差異は見られない。

図表 II-6 9 育児・子育て(性別再集計)

【理想】



【現実】



理想について、

女性は男性よりも「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30代以下はそれ以上の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

地区別にみると、「山手小学校区」「南芦屋浜地区」は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

現実について、

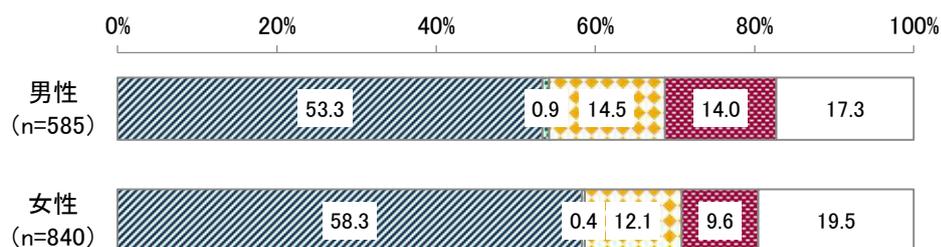
女性は男性よりも「主に女性」の割合が高くなっている。

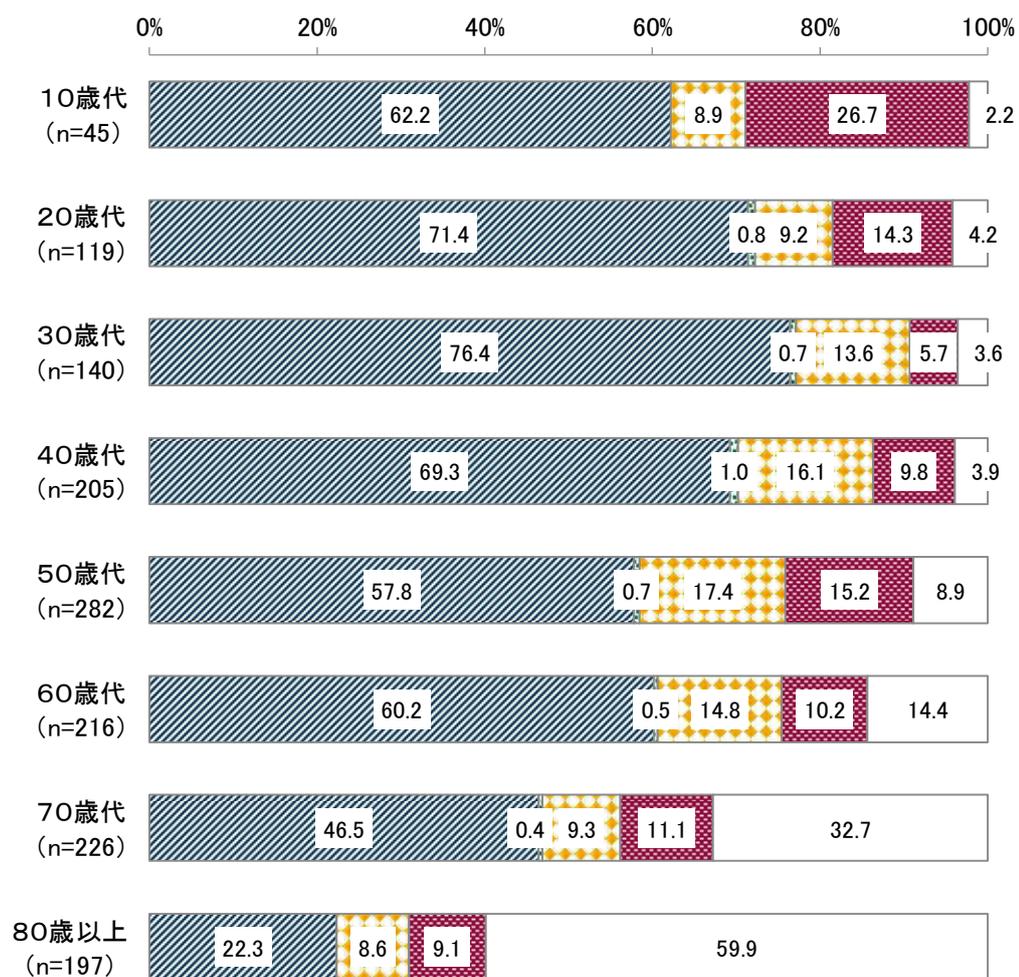
年代別にみると、50代、60代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低く、「主に女性」の割合が高くなっている。

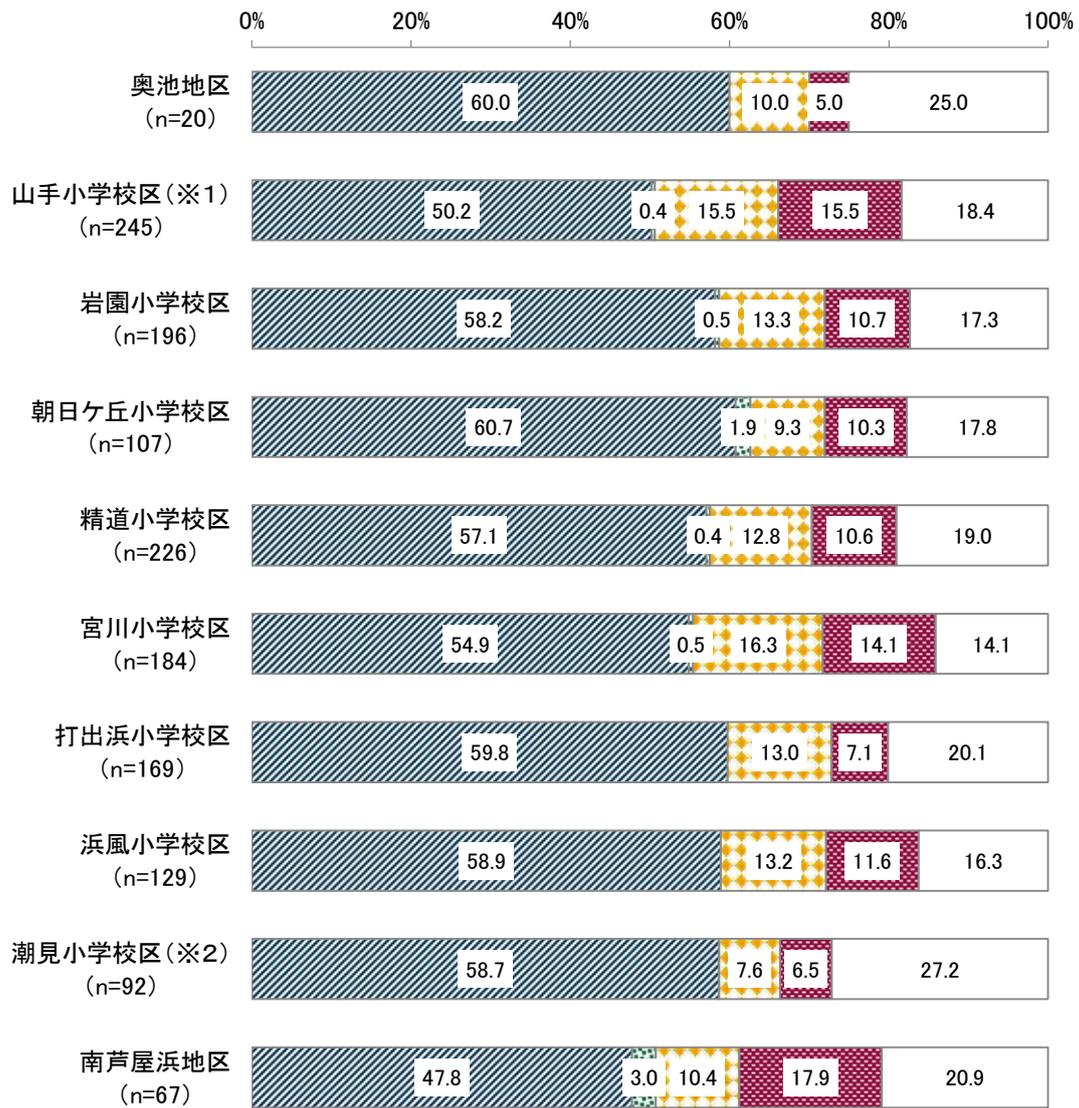
地区別にみると、「朝日ヶ丘小学校区」「浜風小学校区」は他の地域と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

図表 II-70 育児・子育て(性別再集計・クロス集計)

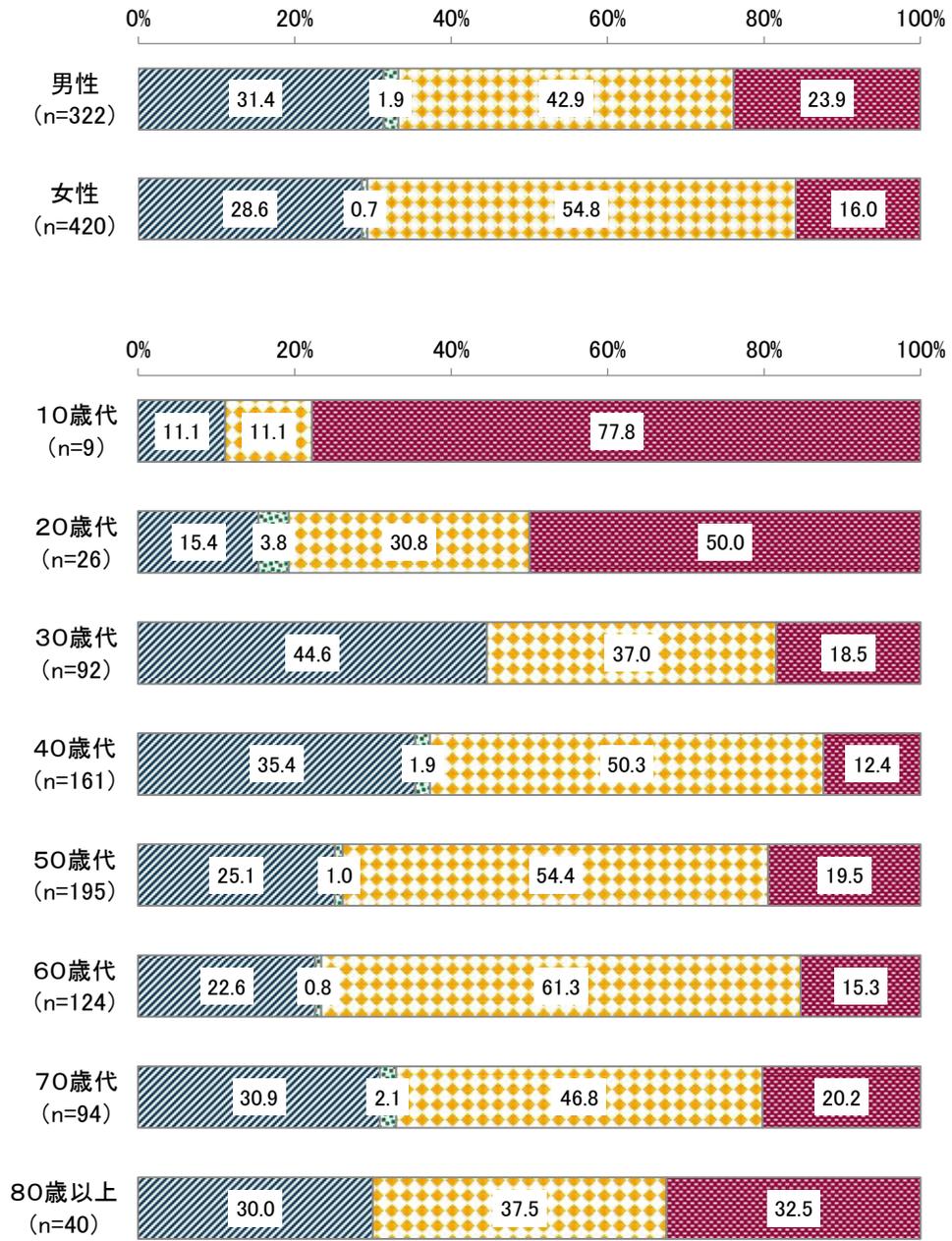
【理想】

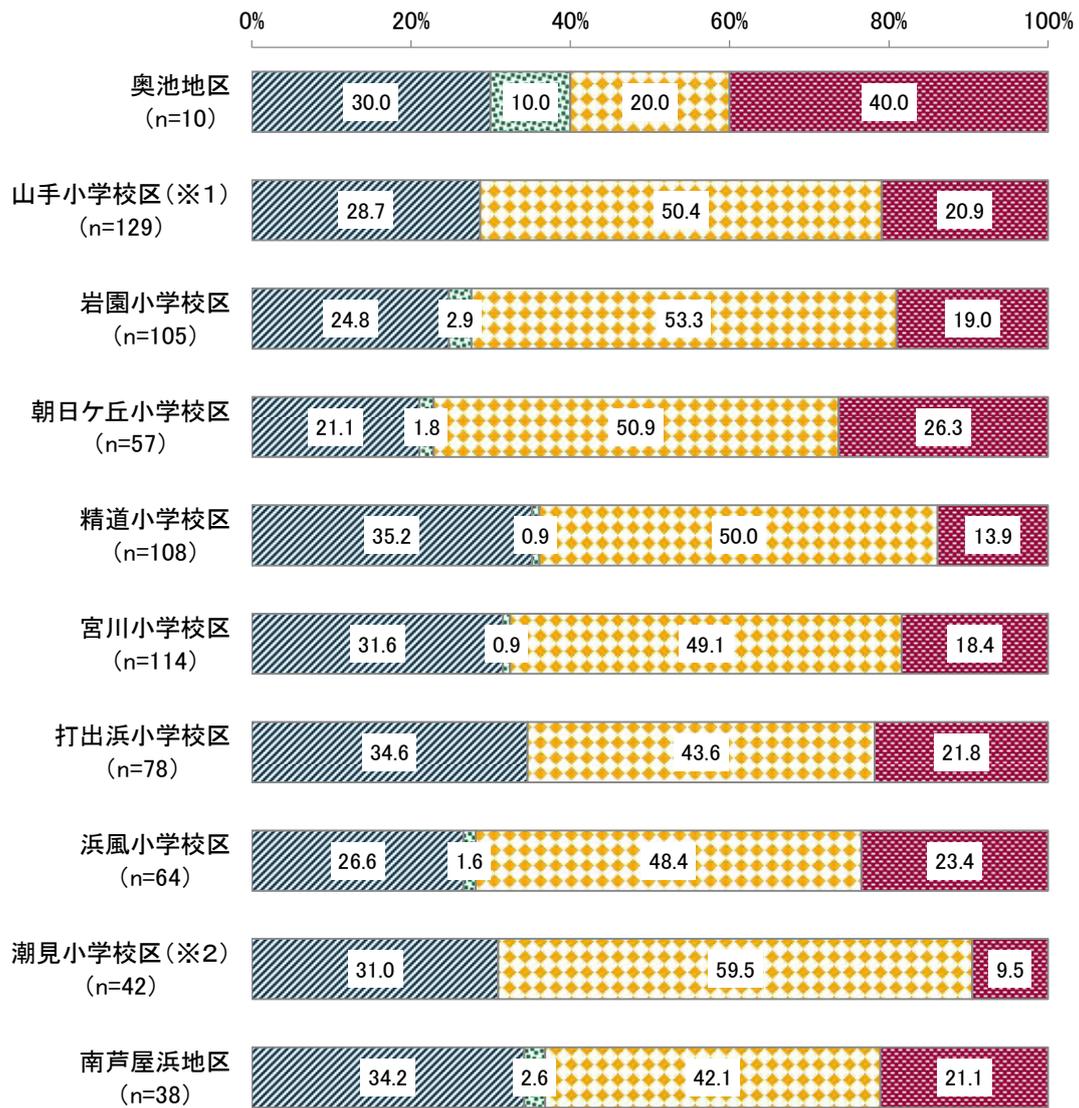






【現実】



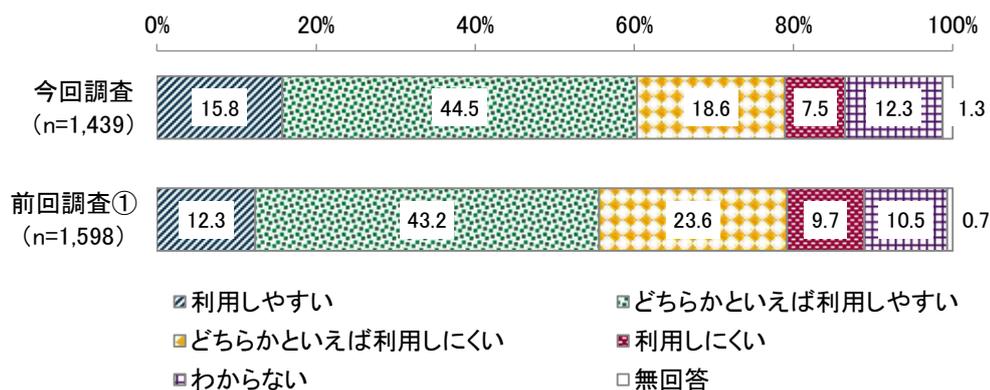


(23) 問 28 市役所への届け出や書類申請などの手続き

「どちらかといえば利用しやすい」の割合が最も高く 44.5%となっている。次いで、「どちらかといえば利用しにくい（18.6%）」、「利用しやすい（15.8%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「利用しやすい」の割合が上昇し、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が低下している。

図表 II-7 1 市役所への届け出や書類申請などの手続き



男女で大きな差異は見られない。

年代別にみると、30代は他の年代と比較して、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が高くなっている。

地域別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地域と比較して「利用しやすい」の割合が低く、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が高くなっている。

図表 II-7 2 市役所への届け出や書類申請などの手続き（クロス集計）

